

医療法人 玉昌会
高田病院

2019 年度 医療法人玉昌会 高田病院

《理 念》

患者さまの意思と権利を尊重し、「医療人としての感性（低賞感微）」に満ちた医療・福祉活動を提供します

《基本方針》

1. 慢性期病院としての豊かな「感性・知識」に基づいたヒューマン・サービスの提供を全職員で目指します。
2. 地域との連携及び病診連携を図り、在宅復帰に向けたシームレスでしかも一貫した高齢者医療や福祉を目指し、地域社会の幸福に貢献します。
3. 予防医学（健康診断・人間ドック）の充実を図り、生活習慣病の予防・早期発見を目指し、地域社会の発展に貢献します。
4. 職員の生活向上と幸福に寄与します。

《運営方針》

1. 「医療人としての感性」を磨く。
「目配り・気配りの心、気付きの心」の自己獲得に努める。
2. 「働き方改革」に則り、職員の健康を守り、多様なワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を目指す。職員の「子育て」や「スキルアップ」を支援し、働きやすい職場環境、職員の満足度が高く、やりがいのある職場環境、人を育む職場環境作りに努め、将来性のある医療人の更なる育成を推進する。
3. 5 階病棟 20 床の地域包括ケア病床は、地域の医療機関や介護保険施設との更なる連携を強化し、地域包括ケア入院料 1 の取得を継続する。また、地域で求められている多様な役割・機能の充実を図り、病床数の拡大（全 41 床）も目指す。
4. 6 階病棟 30 床の回復期リハビリテーション病棟の機能充実を図り、稼働率の向上を図る。また、アウトカム評価（リハビリテーション実績指数）37 以上を確実に達成し、他の基準も確保し、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の取得を継続する。
5. 腎疾患診療部門においては、慢性腎臓病（CKD）対策・腎代替療法等に関して、更なる診療機能の充実を図る。
6. 4 月よりの皮膚科部門の外来診療を充実させ、患者さまの皮膚疾患のニーズに対応する。
7. 通所リハビリテーションにおいては、送迎部門の充実を図り、短時間リハビリテーションの使用ニーズにも対応出来るよう努める。
8. 人間ドック、健康診断を通して、いち早く「未病」の時期を捉え、健康を取り戻す為に、早めのケアのアドバイスを行う。
9. 新病院のコンセプトである「100 日間を通して、やさしく包まれる病院」を創成するために、各部署・各職種間でパートナーシップを発揮し、更なるチーム医療の推進・ボーダーレスな業務の実践と業務改善を図り、病院機能評価認定病院・慢性期認定病院としての機能の継続・充実を図り、更なる「医療の質の向上」を目指し、より安全・安心で確実な医療を提供する事により、患者さま・ご家族に選んで頂ける病院創りを目指す。
10. 「地域包括ケアシステム」を、全職員で理解し、現在の病院の機能（回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟の機能）の充実を図ると共に、急性期病院や在宅からの受け皿機能をより一層拡充し、急性期医療から回復期医療・慢性期医療・在宅での医療・介護・福祉に繋がる業務をシームレスに実践し、地域社会に貢献する。

高田病院の沿革

- 1957 年 1 月 高田医院開設 病床数 19 床
- 1962 年 8 月 医療法人 玉昌会 設立認可
- 1976 年 7 月 人工透析治療開始
- 1985 年 10 月 高田内科病院を高田病院に名称変更
増改築により 167 床
- 1986 年 4 月 人間ドック開始
- 1986 年 11 月 12 床増床し、許可病床 179 床
- 1994 年 8 月 老人デイケア（Ⅱ）開始
- 1998 年 12 月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）
- 2000 年 4 月 療養病棟入院基本料 1
介護療養型医療施設（106 床）
通所リハビリテーション開始
- 2000 年 12 月 介護療養型医療施設（105 床）
- 2003 年 8 月 （財）日本医療機能評価機構「認定証」取得
- 2005 年 9 月 介護療養型医療施設（60 床）
療養病棟入院基本料 1（119 床）
- 2006 年 4 月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2006 年 8 月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2007 年 8 月 訪問リハビリテーション開始
- 2008 年 8 月 日本医療機能評価機構「Ver. 5 認定証」取得
- 2009 年 6 月 療養病棟入院基本料（179 床）
- 2009 年 9 月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（30 床）
療養病棟入院基本料（149 床）
- 2010 年 4 月 療養病棟入院基本料 1（45 床）
療養病棟入院基本料 2（104 床）
- 2010 年 11 月 療養病棟入院基本料 1（89 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2011 年 4 月 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定医療機関取得
- 2011 年 6 月 在宅療養支援病院
- 2012 年 6 月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定
- 2013 年 8 月 日本医療機能評価機構「3rd G : V e r . 1 . 0 認定証」取得

高田病院の沿革

2013 年	8 月	持続性推進機構「エコアクション 21」認定
2014 年	4 月	在宅復帰機能強化加算（89 床） 呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）
2014 年	10 月	電子カルテ導入
2015 年	4 月	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
2015 年	6 月	がん患者リハビリテーション料
2016 年	3 月	療養病棟療養環境改善加算 1
2016 年	4 月	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
2016 年	6 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 排尿自立指導料
2016 年	9 月	退院支援加算 1 認知症ケア加算 算定開始
2017 年	4 月	地域包括ケア入院医療管理料 2（14 床）
2017 年	7 月	療養病棟入院基本料 1（135 床） 地域包括ケア入院医療管理料 1（14 床）
2017 年	12 月	療養病棟入院基本料 1（129 床） 地域包括ケア入院医療管理料 1（20 床）
2018 年	8 月	日本医療機能評価機構「3rd G：Ver. 2.0 認定証」取得
2019 年	2 月	新病院建設工事起工式
2019 年	6 月	地域包括ケア入院医療管理料 1（30 床）

高田病院の概要

名 称 医療法人玉昌会 高田病院

所 在 地 〒892-0824

鹿児島県鹿児島市堀江町 5-1

TEL (099) 226-4325 FAX (099) 222-8386

開 設 者 理事長 高田 昌実

管 理 者 病院長 萩原 隆二

診 療 科 目 内科(人工透析を含む) 消化器科 循環器科 リハビリテーション科
泌尿器科 皮膚科

病 床 数 179 床

療養病棟入院基本料 1 (119 床)

地域包括ケア入院医療管理料 1 (30 床)

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (30 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、
身体障害者福祉法指定医、原子爆弾被爆者一般疾病医療、
自立支援医療(更正医療)、肝疾患治療かかりつけ医療機関

施 設 基 準 療養病棟入院基本料 1 (119 床)

地域包括ケア入院医療管理料 1 (30 床)

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (30 床)

休日リハビリテーション提供体制加算 (30 床)

リハビリテーション充実加算 (30 床)、呼吸器リハビリテーション料 (I)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

運動器リハビリテーション料 (I)、集団コミュニケーション療法料

がん患者リハビリテーション料、外来リハビリテーション診療料

療養病棟療養環境改善加算 1、医療機器安全管理料 1

感染防止対策加算 2、診療録管理体制加算 2、医療安全対策加算 2

退院支援加算 1、認知症ケア加算 2、排尿自立指導料

胃瘻造設術・胃瘻造設時嚥下機能評価加算

下肢末梢動脈疾患指導管理加算、データ提出加算 2

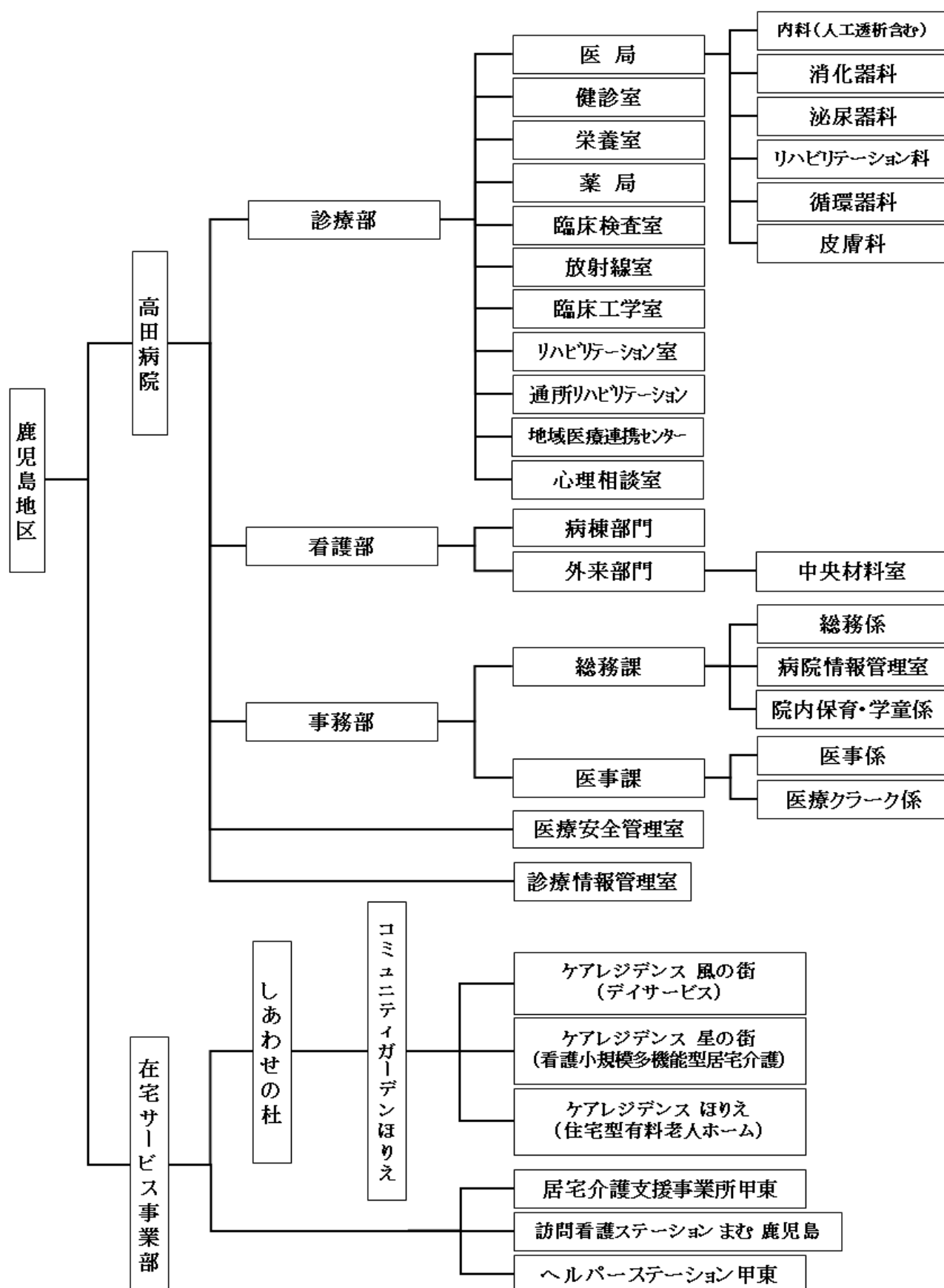
薬剤管理指導料、在宅復帰機能強化加算

救急搬送患者地域連携受入加算、がん治療連携指導料
地域連携診療計画退院時指導料（Ⅰ）
入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）、
在宅療養支援病院 3、在宅がん医療総合診療料
在宅時医学総合管理料又は特定施設入居時等医学総合管理料

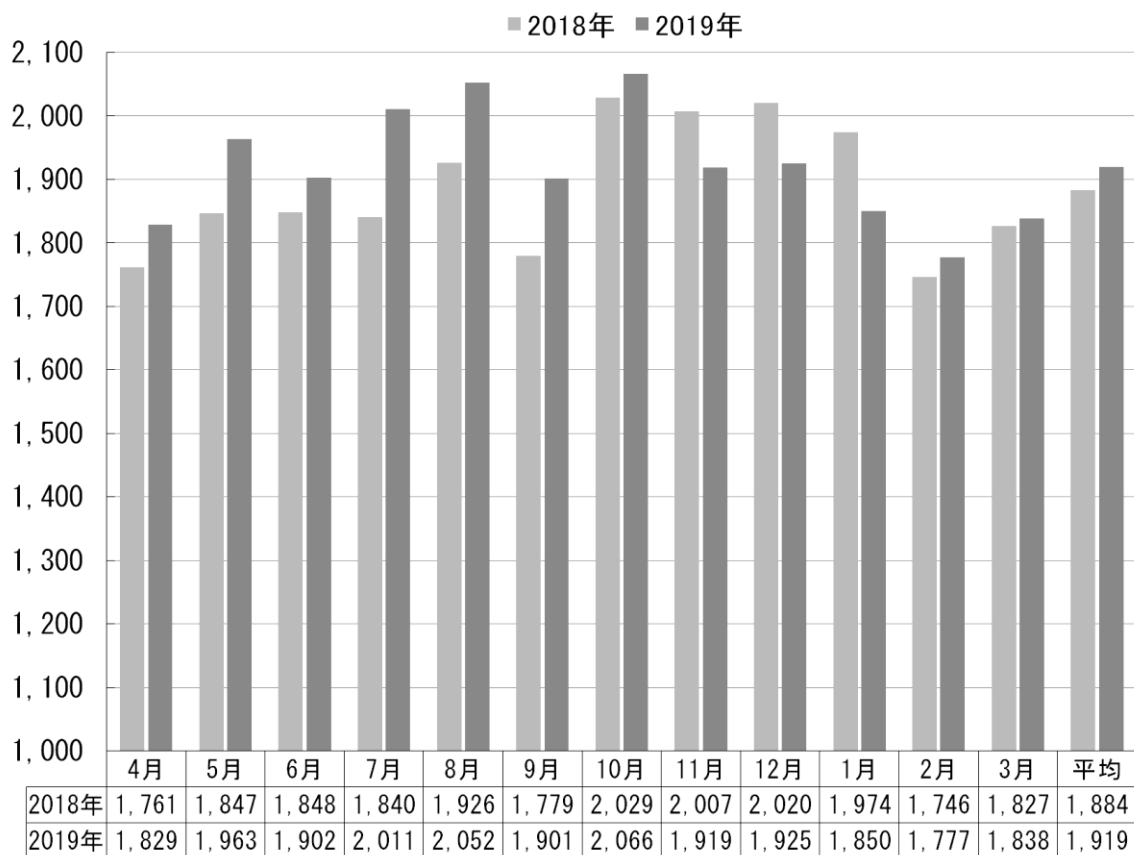
広 報 誌 いきいき た・か・た（年 4 回発行）

そ の 他 ・財団法人 日本医療機能評価機構 認定(3rd G: Ver2.0)
・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション
・人間ドック(1日コース・2日コース)
・健康診断(特定健診・特定保健指導)
・協会けんぽ生活習慣病予防健診
・看護学校実習病院
・医療福祉実習病院(リハビリ・社会福祉・栄養関係)
・医学生実習病院
・薬学生 長期実務実習受入施設
・かごしま子育て応援企業登録
・日本慢性期医療協会 慢性期医療認定病院 認定
・在宅療養支援病院
・持続性推進機構 エコアクション 21(環境省推奨) 認定

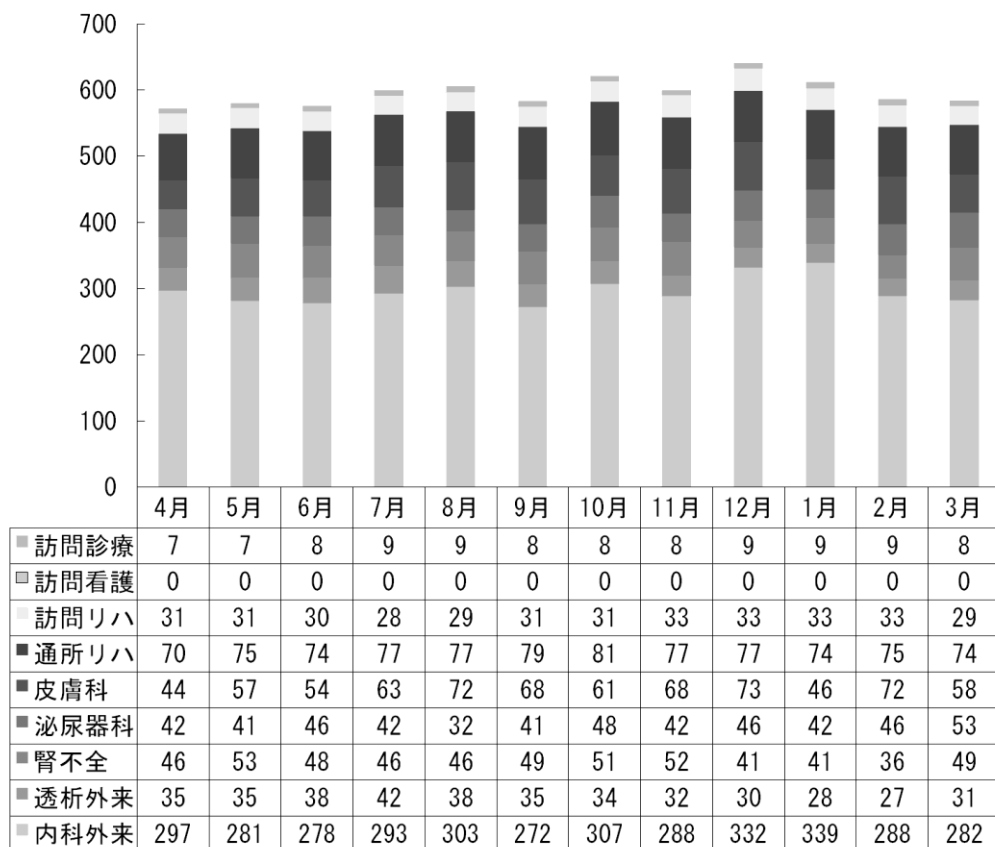
医療法人 玉昌会 鹿児島地区 組織図 2020年4月1日現在



外来患者数推移（人）

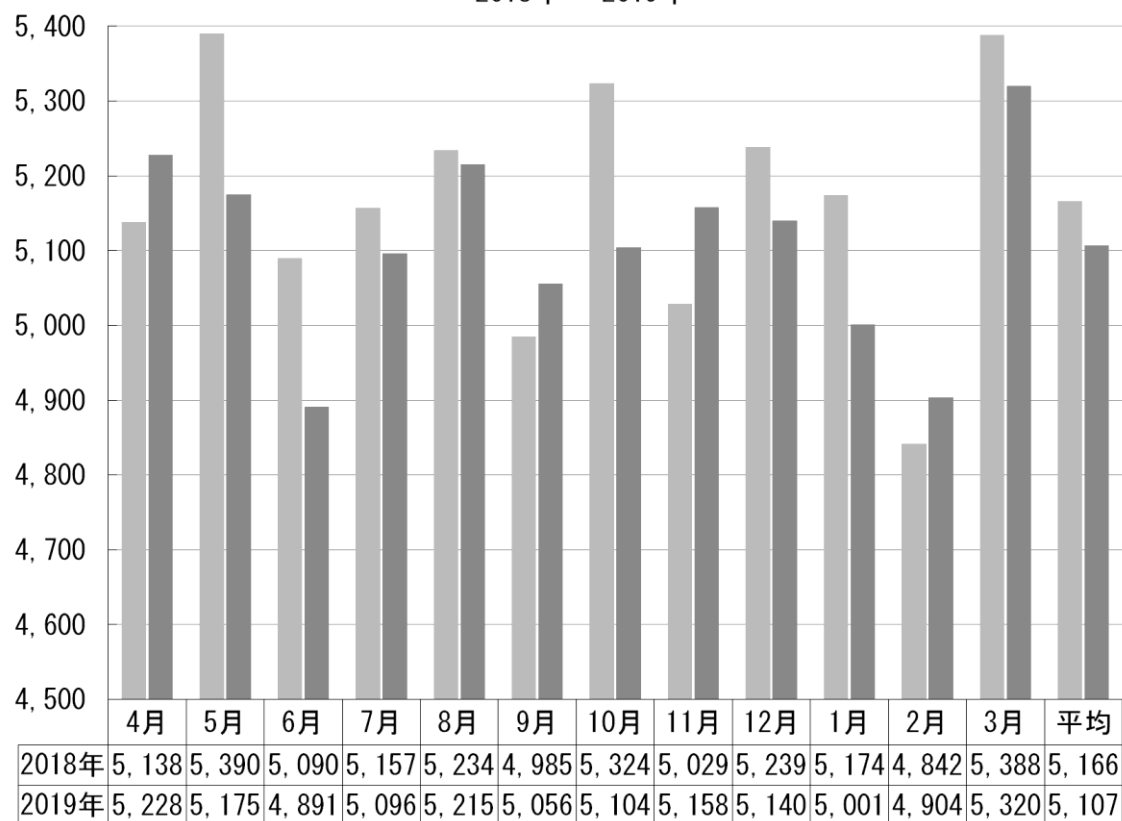


外来患者数診療科目別内訳推移（人）



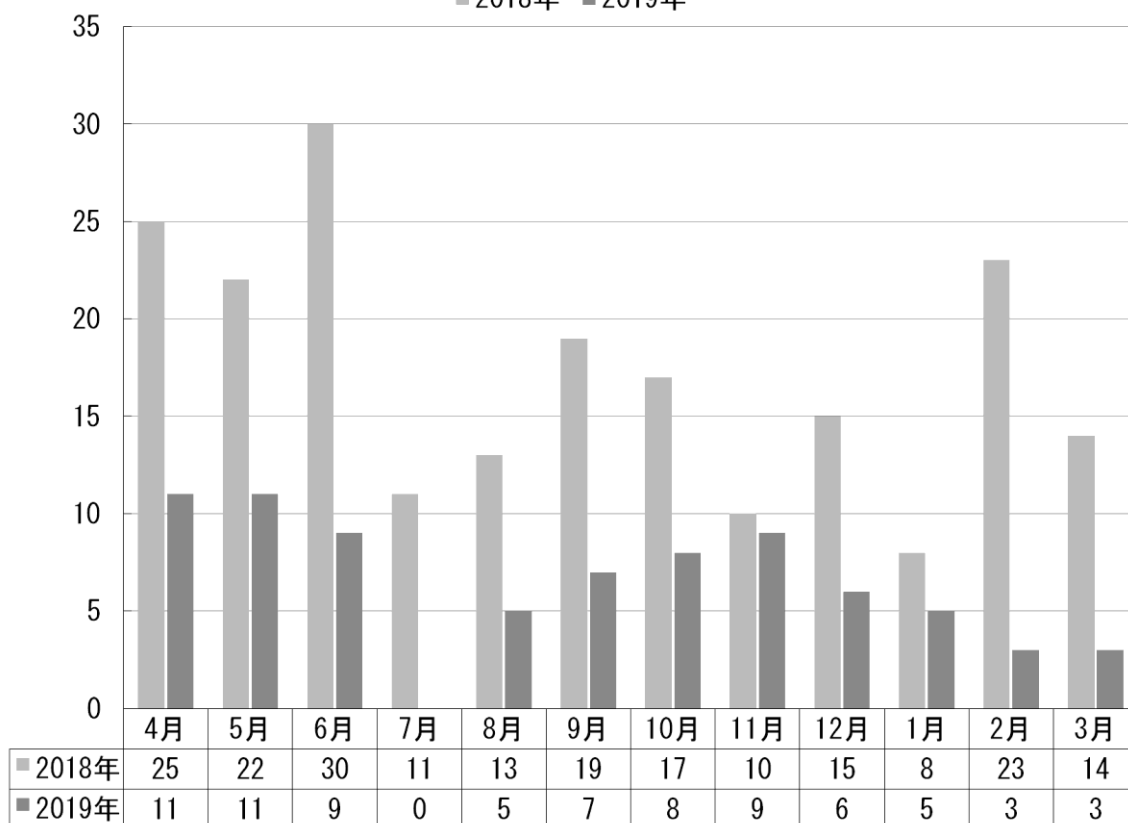
入院患者数（人）

■ 2018年 ■ 2019年



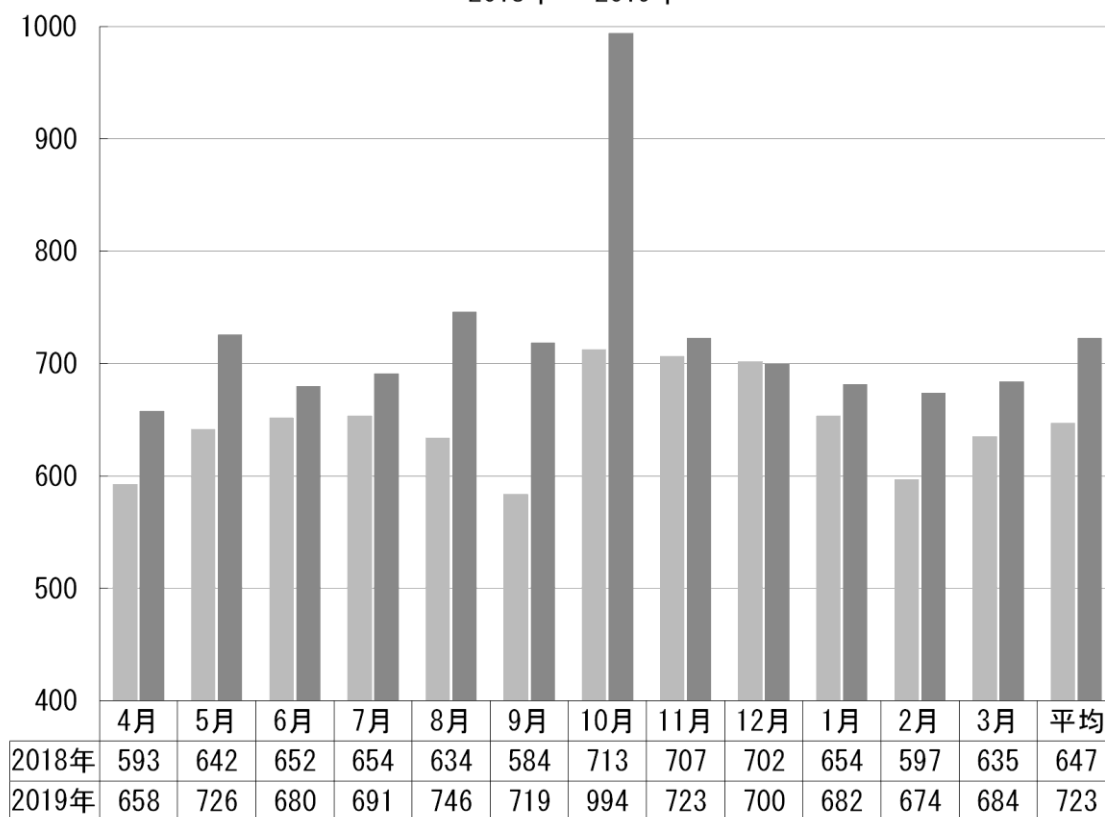
栄養指導件数（件）

■ 2018年 ■ 2019年



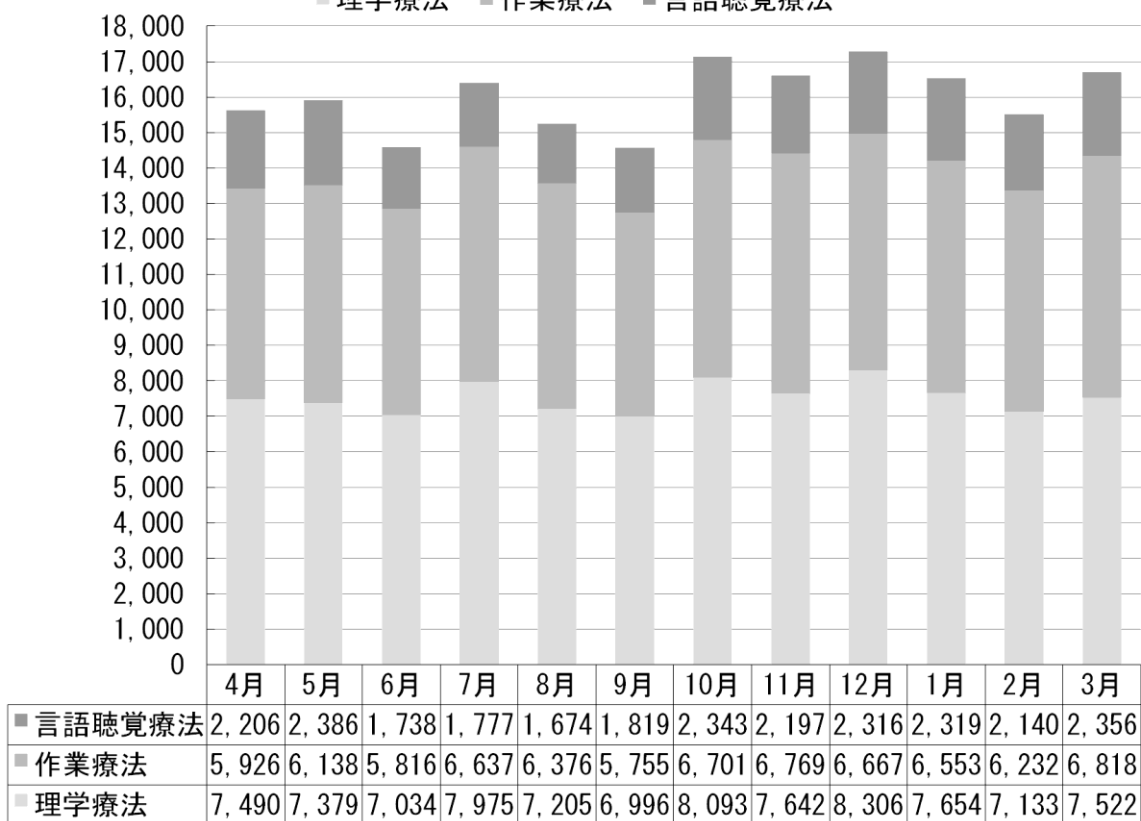
通所リハビリ利用者数（人）

■ 2018年 ■ 2019年



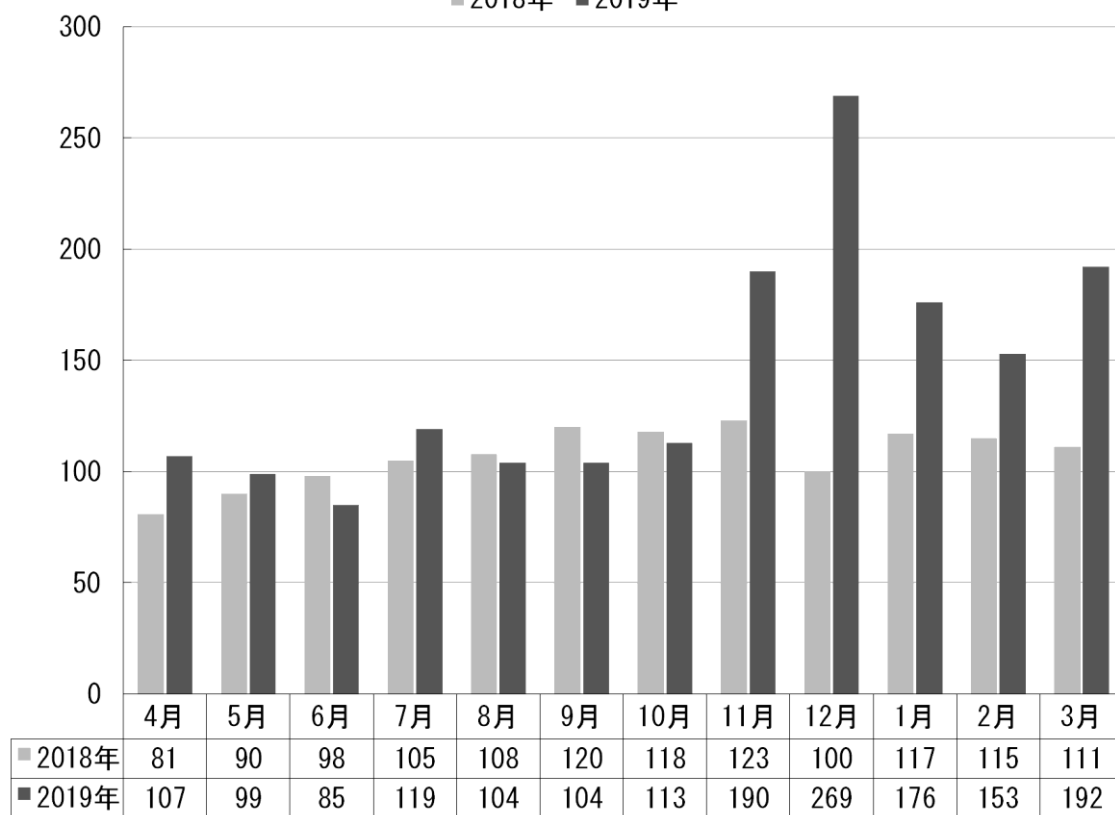
リハビリテーション室患者取扱数（件）

■ 理学療法 ■ 作業療法 ■ 言語聴覚療法



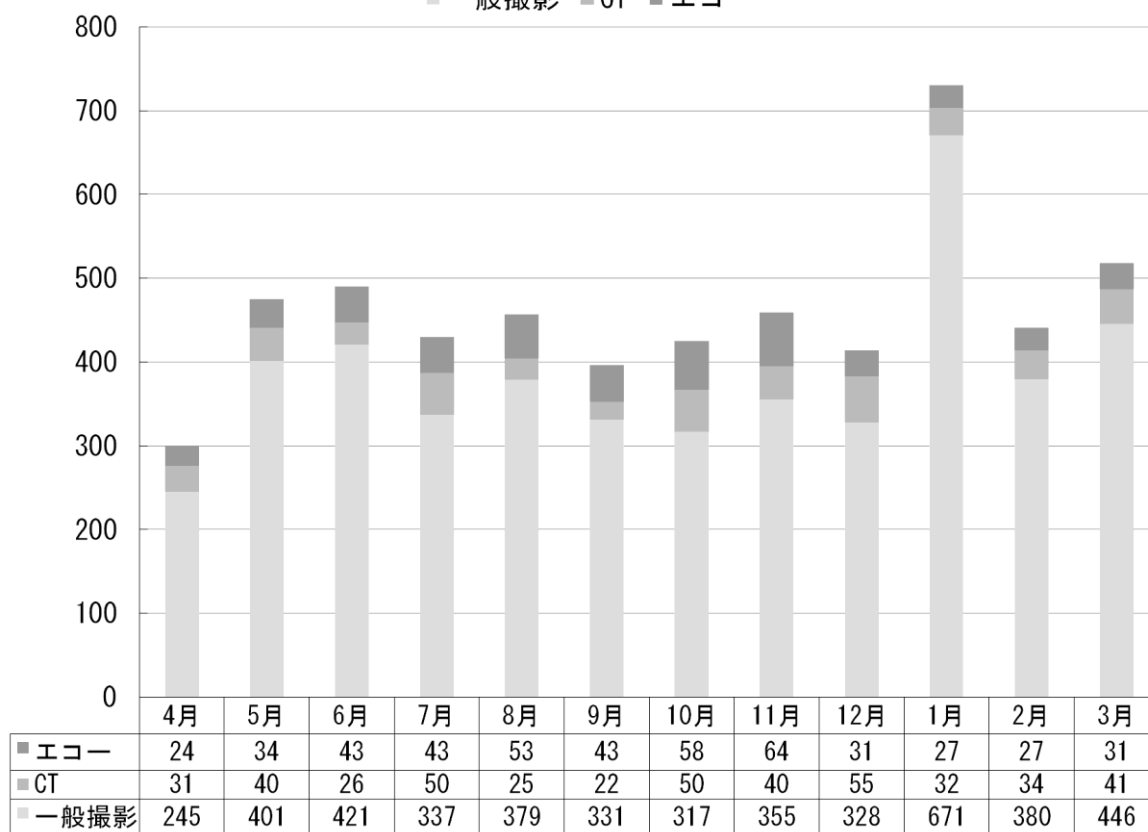
服薬指導件数（件）

■ 2018年 ■ 2019年

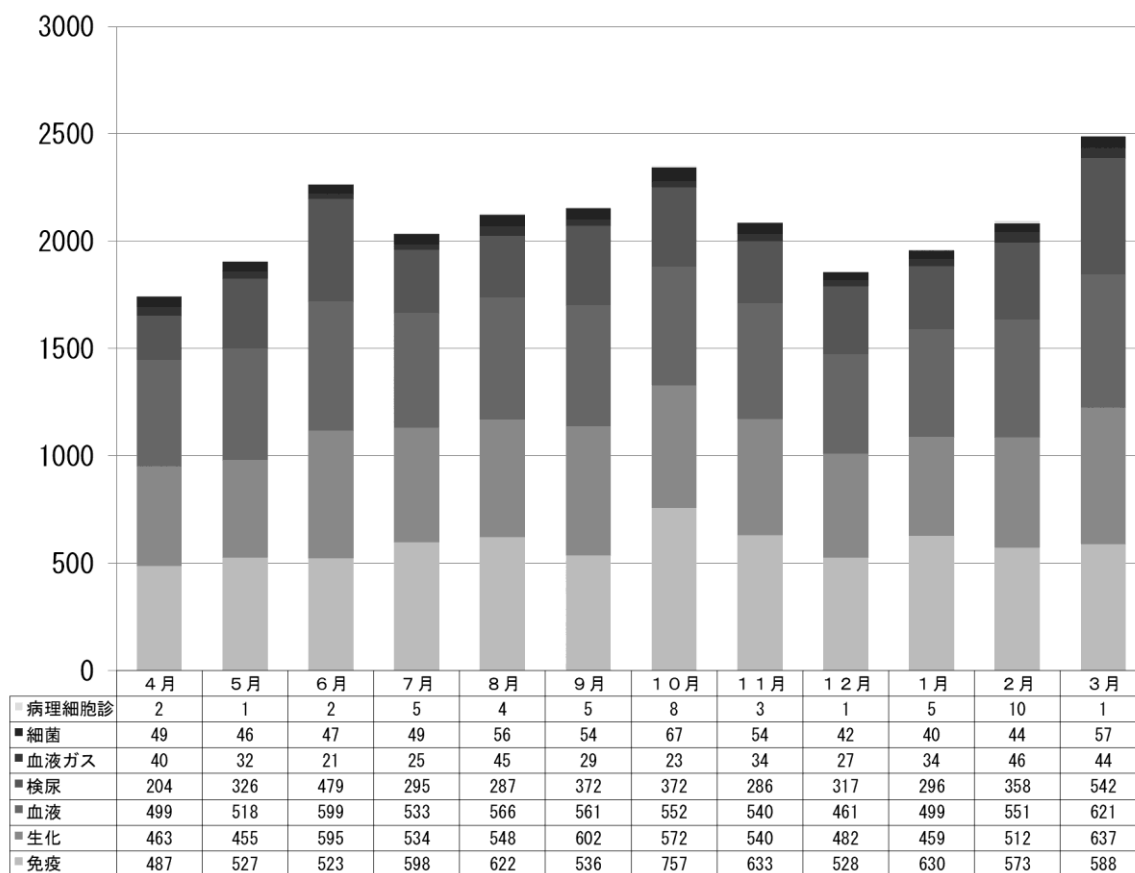


月別放射線室取扱件数（件）

■ 一般撮影 ■ CT ■ エコー

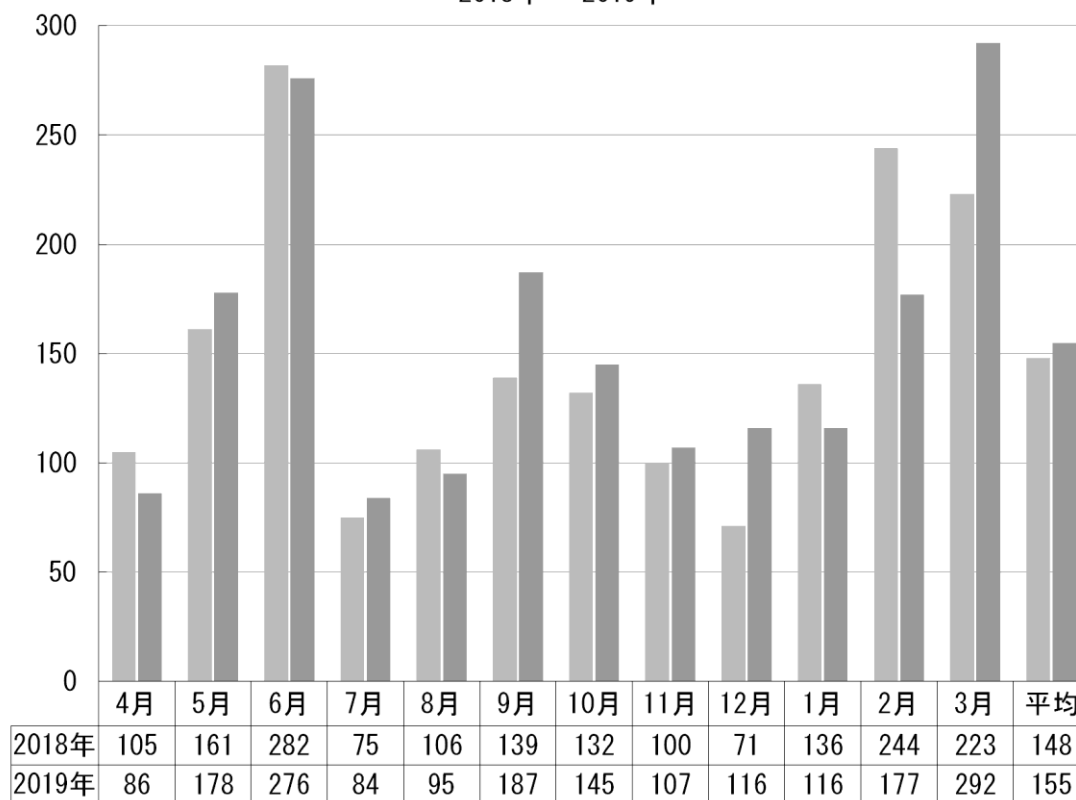


月別検査室取扱件数（件）



健康診断件数（件）

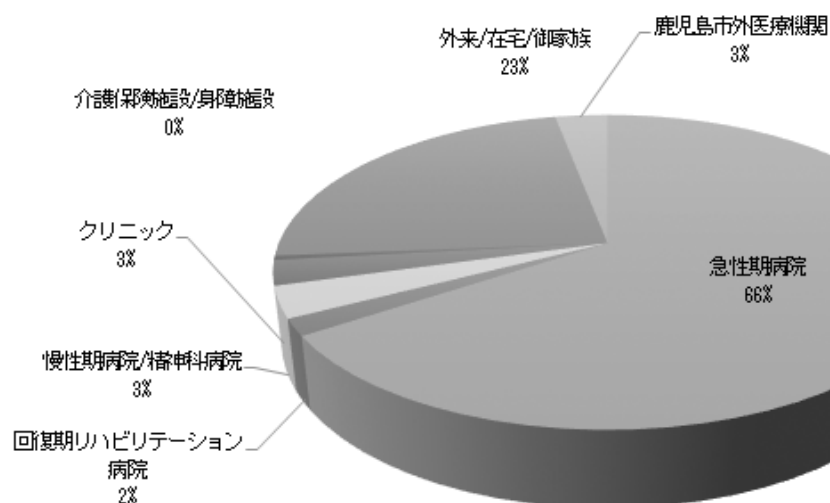
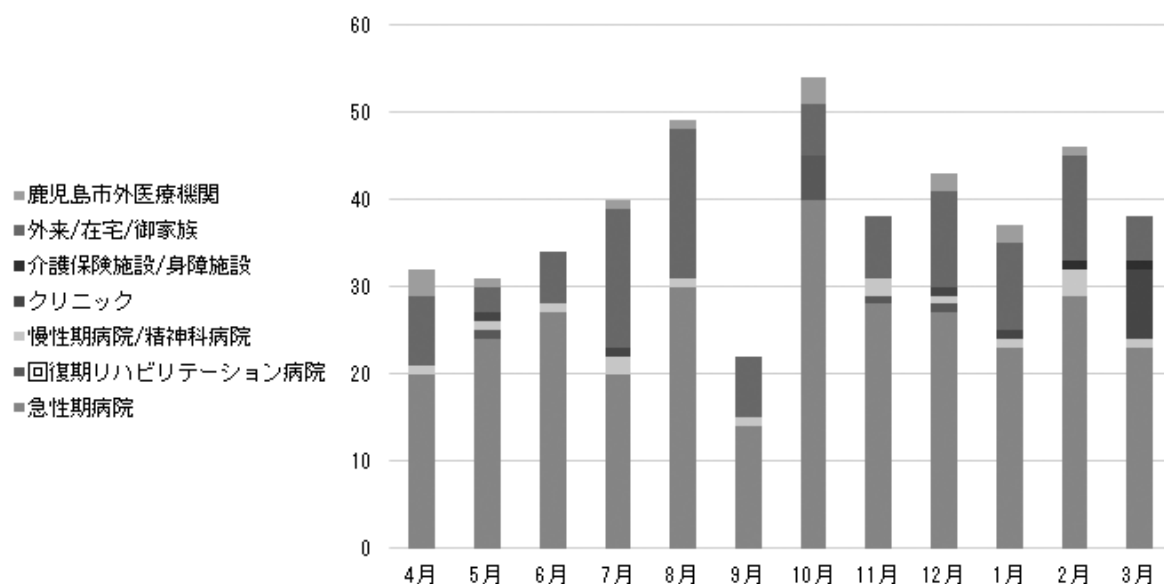
■ 2018年 ■ 2019年



2019 年度 紹介先機関別

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
急性期病院	20	24	27	20	30	14	40	28	27	23	29	23	305
回復期リハビリテーション病院	0	1	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	8
慢性期病院/精神科病院	1	1	1	2	1	1	0	2	1	1	3	1	15
クリニック	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	8	12
介護保険施設/身障施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
外来/在宅/御家族	8	3	6	16	17	7	6	7	11	10	12	5	108
鹿児島市外医療機関	3	1	0	1	1	0	3	0	2	2	1	0	14
	32	31	34	40	49	22	54	38	43	37	46	38	464

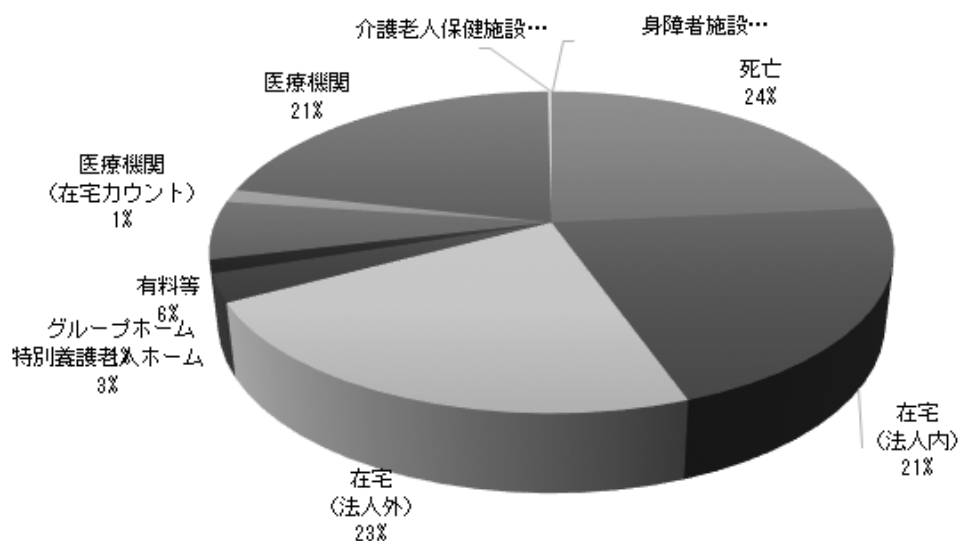
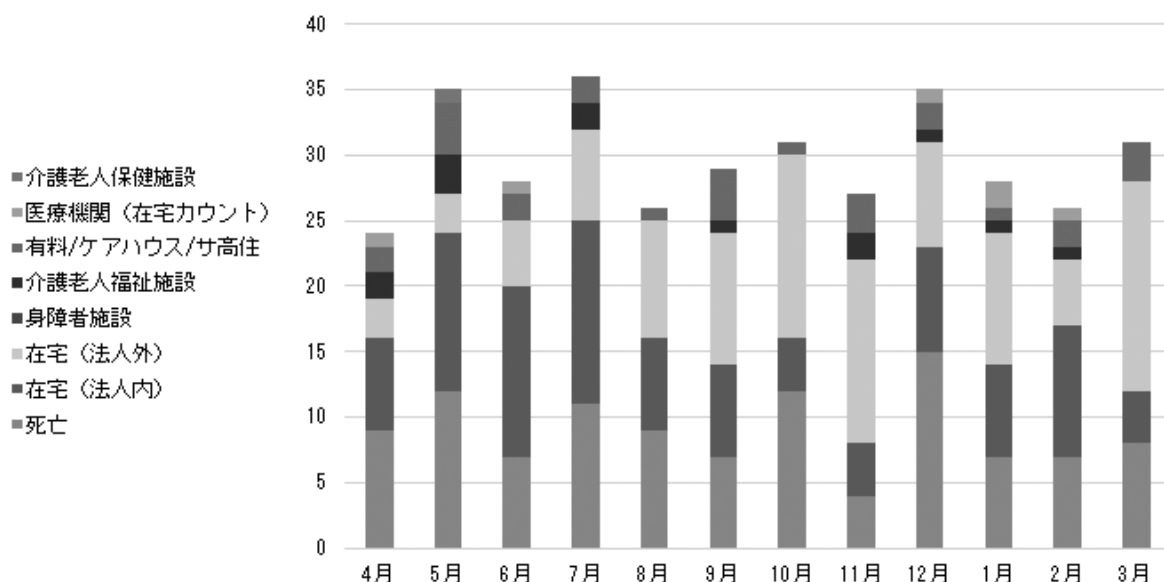
2019 年度 紹介件数



2019 年度 逆紹介先機関別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	9	12	7	11	9	7	12	4	15	7	7	8	108
在宅(法人内)	7	12	13	14	7	7	4	4	8	7	10	4	97
在宅(法人外)	3	3	5	7	9	10	14	14	8	10	5	16	104
介護老人福祉施設	2	3	0	2	0	1	0	2	1	1	1	0	13
グループホーム	0	0	0	0	1	0	1	3	0	1	0	0	6
有料/ケアハウス/サ高住	2	4	2	2	1	4	1	3	2	1	2	3	27
医療機関(在宅カント)	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	6
医療機関	7	7	7	8	7	6	13	9	13	7	9	5	98
介護老人保健施設	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
身障者施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	31	42	35	44	34	35	45	39	48	36	35	36	460

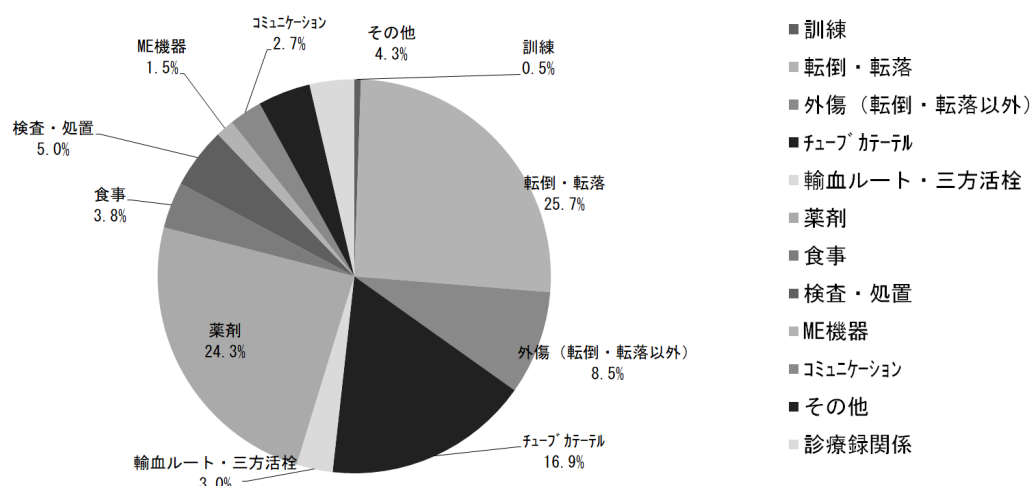
2019 年度 逆紹介件数



2019 年度インシデント・アクシデント発生状況

要因別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019 年度 集計
訓練	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	4
転倒・転落	18	8	17	12	13	15	12	16	21	21	22	15	190
外傷(転倒・転落以外)	5	4	4	14	4	4	2	2	7	4	8	5	63
チューブ・カテーテル	21	17	13	12	14	4	2	12	6	9	10	5	125
輸血ルート・三方活栓	4	0	2	0	2	1	2	1	5	1	3	1	22
薬剤	13	10	14	15	23	16	19	10	10	12	19	18	179
食事	1	2	4	7	2	2	1	6	0	1	2	0	28
検査・処置	2	3	5	4	4	2	5	3	3	2	1	3	37
ME 機器	0	0	3	2	4	1	1	0	0	0	0	0	11
コミュニケーション	0	0	1	3	5	1	3	4	0	0	2	1	20
その他	3	5	3	1	5	4	3	0	2	0	3	3	32
診療録関係	3	1	1	2	5	1	3	7	0	2	1	1	27
総計	70	50	68	73	81	51	53	61	55	52	72	52	738

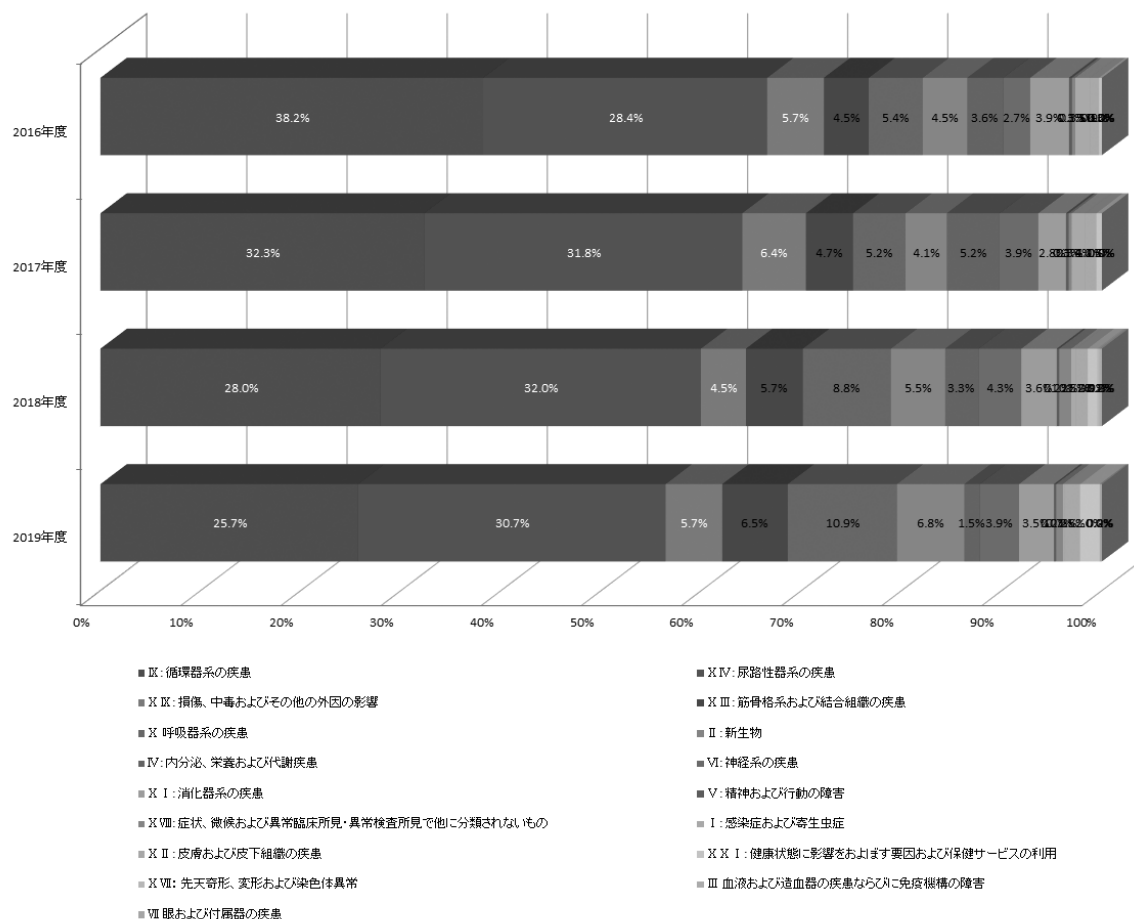
2019年度 要因別割合



部署別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019 年度 集計
医局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬局	0	1	2	2	1	1	3	1	0	4	2	1	18
栄養室	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
検査室・レントゲン室	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	5
リハビリ室	0	2	3	4	1	4	1	2	3	4	4	5	33
地域医療連携センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
通所リハビリ	2	0	3	1	1	0	0	0	0	0	1	0	8
3 階病棟	9	8	13	8	13	12	6	6	7	13	12	13	120
4 階病棟	23	20	16	19	20	9	8	8	8	3	9	6	149
5 階病棟	12	6	11	13	16	11	17	11	23	10	17	8	155
6 階病棟	20	7	14	13	15	9	8	18	12	9	18	14	157
外来	0	3	2	3	1	0	4	4	0	2	3	2	24
透析室	0	1	3	6	2	1	2	3	0	5	5	2	30
病院事務	4	1	1	1	11	1	4	5	0	1	1	1	31
臨床工学室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健診室	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	4
施設管理部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
総計	70	50	68	73	81	51	53	61	55	52	72	52	738

疾病別患者数年度別推移 (2016 年度～2019 年度)

大分類名	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	総計
IX 循環器系の疾患	128	117	118	118	481
XIV 尿路性器系の疾患	95	115	135	141	486
X 呼吸器系の疾患	19	23	19	26	87
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患	15	17	24	30	86
XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	18	19	37	50	124
II 新生物	15	15	23	31	84
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	12	19	14	7	52
VI 神経系の疾患	9	14	18	18	59
XI 消化器系の疾患	13	10	15	16	54
V 精神および行動の障害	1	1	1	1	4
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	1	5	3	10
I 感染症および寄生虫症	5	5	2	1	13
XII 皮膚および皮下組織の疾患	3	4	5	7	19
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	1	2	4	9	16
XVII 先天奇形、変形および染色体異常			1		1
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害			1		1
III 障害			1		1
VII 眼および付属器の疾患				1	1
総計	335	362	422	459	1578



高田病院 部門別活動報告

部門別活動のご紹介にあたって（玉昌会のBSC活動）

医療法人玉昌会では、Balanced Score Card（以下BSCという）を活用した部門別活動を展開しています。

※BSC（Balanced Score Card）＝組織のビジョンや戦略を4つの視点から具体的な目標や行動計画に視覚化し、実践し評価するための手法。

医療法人玉昌会のBSC運用スケジュール

2月：新年度の基本方針（法人・各地区・両院）発表
（合同スタッフ会議にて）



3月：前記方針に基づいた部門基本方針の立案



3月：具体的部署目標の設定並びに目標を達成するための具体的な施策内容と実施スケジュールの立案



4月：BSC事務局によるヒアリング、提出（PLAN）



4月～3月：施策の実施（DO）



9月、3月：結果とその評価（CHECK）



9月：BSCの修正（ACTION）



BSCの立案においては次の4つの視点区分がポイントとなります。

- A. 患者満足の視点
- B. 健全経営の視点
- C. 医療の質向上の視点
- D. 学習と成長の視点

この4つの視点区分にもとづいて、各部署で立案されたものです。

3 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. 苦情減少
達成目標：サービス向上報告書による苦情4件以下
- B-1. 残業時間の短縮
達成目標：月の平均残業時間が3.8時間以下
- B-2. 退院支援の充実
達成目標：退院支援クリパス使用率40%以上
- C-1. 退院患者カルテ1ヶ月以内の処理率向上
達成目標：退院患者カルテ1ヶ月以内処理67%以上
- C-2. 3a以上の事故件数減少
達成目標：3a以上の事故件数30件以下
- D-1. 院内勉強会参加率向上
達成目標：参加率78%以上

【今年度を振り返って】

苦情減少・3a以上の事故件数減少は達成できた。残業時間は短縮傾向にあるが目標達成には至らなかった。退院支援クリパス・退院患者カルテ処理は記録委員会を中心にと今後も取り組んでいく。勉強会参加率は上昇傾向にあるが目標達成には至らなかった。知識向上・スキルアップを目指し目標達成できるように取り組みを継続していく。

4 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：クレーム件以内
- B-1. ①残業時間の削減
達成目標：月平均3.8時間以下
②退院支援の強化
達成目標：退院支援クリパス使用38%
- C-1. ①看護記録の充実
達成目標：退院カルテ1ヶ月以内処理率57%
②3a以上の事故を減らす
達成目標：3a以上の事故が10件以下（転倒による外傷含む）
③褥瘡の新規発生率を減らす
達成目標：1.1%
- D-1. 院内勉強会への参加率の向上
達成目標：参加率65%以上

【今年度を振り返って】

接遇と自己研鑽、退院支援についての意識が低く、今後の課題と思われる。

接遇に関しては、基本的な接遇が出来ていなかったため、教育・指導を継続的に行っていく。

自己研鑽については、勉強会の継続的な声かけと院外研修の案内を確認するように声掛けし、よりよい看護・ケアが提供できるように努めていく。

退院支援については退院に向けての取り組みが積極的に行われていなかったため、医療区分の低い患者さまを在宅・施設に退院できるよう、プライマリーを中心に、退院支援に向けて取り組んでいきたい。

5 階病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：クレーム1件以下

B-1. 残業時間の削減

達成目標：4.0時間以下

B-2. 在宅復帰の向上

達成目標：在宅復帰機能強化加算病棟の在宅復帰率・地域包括ケア病棟在宅復帰率78%

C-1. 看護記録の充実

達成目標：退院カルテ処理率1カ月以内の処理率65%

C-2. 3a以上の自己を減らす。

達成目標：転倒・転落による3a以上の事故4件以下

C-3. 褥瘡発生の減少

達成目標：褥瘡の発生率 1.0%以下

D-1. 院内勉強会への参加の向上

達成目標：院内勉強会参加率 85%以上

【今年度を振り返って】

接遇の向上・残業時間の削減・在宅復帰率の向上・看護記録の充実・院内勉強会参加率の上に関しては、多職種と連携を図ることにより達成することが出来た。3a以上の事故・新規褥瘡発生率に関しては、目標未達成となってしまうため、早期アセスメント・対策を行う事により改善に努めたい。また、今年度は全病床地域包括ケア病床へ病床変換が行われるため、更なる退院支援の強化に努めていきたい。

6 階病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：クレーム件数2件以下

B-1. 残業時間の削減

達成目標：月平均10時間以下

B-2. 在宅復帰率の向上

達成目標：在宅復帰率83%以上

C-1. 看護記録の充実

達成目標：退院カルテ処理1ヶ月以内85%以上

C-2. 3a以上の事故を減らす

達成目標：3a以上の事故件数が25件以下

C-3. 褥瘡の新規発生率を減らす

達成目標：褥瘡新規発生率2%

D-1. 院内勉強会の参加率向上

達成目標：院内勉強会参加率93%以上

【今年度を振り返って】

今年度は看護記録の充実、院内勉強会の参加率向上が未達成であった。在宅復帰率向上に伴い、日々の業務に追われ、退院カルテ処理への意識が不足していた。又、院内勉強会への参加も業務を優先してしまい、動画視聴での参加が多かった。来年度に向けて、業務改善、各委員を中心にスタッフへの呼びかけを行っていききたい。

透析室

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者教育
達成目標：月28件のカンファレンス実施・90%周知
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：残業時間月平均3時間未満
- B-2. 透析患者の増加
達成目標：患者総数月平均65名
- C-1. 看護記録の強化
達成目標：1ヶ月以内の退院カルテ処理率45%達成
- C-2. 医療事故を起こさない
達成目標：3a以上3件以下
- D-1. 勉強会参加率維持
達成目標：参加率平均93%

【今年度を振り返って】

カンファレンスにおいては、担当者を中心に申し送り時の呼びかけによって実施件数・周知共に達成出来た。残業時間については、患者さまの入退室のベッド調整を行い業務改善にて達成できた。また勤務内で係の仕事や委員会の仕事が行えるよう週間業務も調整を行った。

患者数においては、新規の入院患者さまが多くベッド調整を行い受け入れを行った。また退院後も当院の外来透析へ移行するケースも増え、患者指導・教育に努めた。

看護記録の強化においては、記録委員を中心にチェック表の見直しを行い声掛けに努めたことで達成に繋がったが、記録委員への負担が大きいため今後の課題とする。医療事故においては、認知症の患者さまが増加の一途をたどる中で個々のスタッフの認識を強化し早期の対応を行うことが、1件自己抜針が発生しているため更なる対策強化が必要。

勉強会においては、担当者が毎回申し送り時に声掛けを行い達成できた。

看護部 外来

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者満足の充実
達成目標：患者満足度 98%
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：月平均 2時間以内
- B-2. 入院前からの支援強化
達成目標：退院カンファレンス参加2件・入院時支援 1件
- C-1. ドック・健診向けのパンフレットの充実
達成目標：パンフレット作成 2種類
- C-2. 医療事故を起こさない
達成目標：3a以下を4件以下
- D-1. 院内勉強会への参加
達成目標：実質参加率 30%

【今年度を振り返って】

接遇の徹底行い、クレームない1年であった。時間外労働も業務改善を行うなどで2時間以内にする事ができた。退院後、当院外来受診予定者の退院前カンファレンスには、参加することが出来なかったが、入院前支援を年間4件行うことが出来た。

健診室とミーティングを行うことで、5項目のパンフレットを作成したため、今後の健診に活用できるようにしていきたい。

今年度は、新築移転も控えているため移転先での動線を考えながら、心のこもったサービスを行えるように努めた。

栄養室

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者様嗜好調査結果向上
達成目標：嗜好調査結果全項目で8割以上達成
- B-1. 栄養指導・栄養相談の推進
達成目標：栄養指導件数年間240件以上
- B-2. 回復期リハビリテーション病棟入院料1の取得継続の為に入院時からの医師立会いに管理栄養士も参加し、充実した栄養管理の実施
達成目標：回復期病棟全患者様に対して入院時の医師立会いにすべて参加し栄養関連項目の全患者様分の帳票記入実施と栄養ソフトから電子カルテへ移行し、栄養アセスメントの定着
- C-1. 褥瘡患者様に対して栄養介入の充実をはかる
達成目標：部署内調整し褥瘡回診の参加率100%を目指す
- C-2. 多職種による各種カンファレンスに参加しチーム医療の推進をはかる
達成目標：部署内調整し参加率100%
- C-3. 地域包括ケアシステムの充実や早期退院の働きかけのためにも栄養サマリーの作成維持をはかり、地域社会に貢献する。
達成目標：栄養サマリー作成件数年間220件以上
- D-1. 託児所にむけた食育の推進
達成目標：自家栽培したものを収穫・提供
- D-2. 学会発表・勉強会などへの参加を積極的に行い、自己研鑽に励む
達成目標：学会もしくは講習会などで発表を行う。各自院内・院外勉強会に参加する。

【今年度を振り返って】

今年度は入退院の変動が多かったため処理業務が多く達成できない項目もあったが、栄養サマリー件数も目標の220件／年を大幅に超えて作成できた。今後は人員も増加したため業務内容を見直し患者様への積極的な介入、栄養管理をおこなっていききたい。

薬局

【今年度の取り組み】

- A. 外来患者さまの待ち時間短縮
達成目標：外来患者の待ち時間調査において、15分以上の待たせている件数を15件にする。
- B. 後発医薬品への導入提案と変更
達成目標：薬事審議会の後発医薬品への提案を行い、後発医薬品採用率を80%にする。
- C-1. 医療の質の向上のため適正な医薬品情報の提供
達成目標：新規採用医薬品情報を速やかに提供できるように、院内医薬品集の発行を年2回行う。
また、それとは別に追補版の発行を隔月で行う。
- C-2. チーム医療の推進のため業務改善を図る
達成目標：回復期リハビリテーション病棟の回診のみでなく、各種委員会のラウンド等にも積極的に参加し参加率を75%、問い合わせ対応や処方提案を、3件／週行う。
- D. 疾患と薬剤の基礎と実践に基づく知識の習得
達成目標：疾患と薬剤に対する理解を深め、臨床に応用できる知識を身に着ける。月1回テキストに基づいた疾患の勉強会を実施する。

【今年度を振り返って】

今年度も引き続き、各種カンファレンスへの参加や褥瘡回診・回復期病棟の回診への参加等に目的をもって積極的に取り組めた。また11月より病棟薬剤業務を立ち上げ、時間は1日4時間程度ではあるが、各病棟での薬剤管理指導業務も充実させることができた。今後も、臨床でよりよい医療の提供ができるよう、取り組みを深めて

いきたい。来年度も、チーム医療への積極的参加、薬剤の自己管理に向けて服薬指導・服薬支援を行う、後発医薬品の採用率を上げる等のことに積極的に取り組んでいきたい。

臨床検査室

【今年度の取り組み】

- C-1. インシデント・アクシデントの防止に努める
達成目標：インシデント・アクシデント発生なし
- C-2. 内部精度管理の実施及び外部精度管理への参加
達成目標：内部精度管理、外部精度管理ともに±2SD内の測定値を目標とする
- D-1. 院内勉強会への参加
達成目標：85%以上の参加
- D-2. 院外勉強会、研修会及び講習会等への参加
達成目標：10回以上の参加

【今年度を振り返って】

ルーチン検査は、至急性、測定時間等を考慮し、効率よく実施できた。
インシデント・アクシデントの防止については、各々が十分に注意を払い、更に、マルチチェックを徹底したため、発生なしであった。
内部精度管理は、毎日実施し、安定した測定値を保持することができた。その結果、外部精度管理の測定値についても良好な結果が得られたものと考えられる。
これらにより、正確で精度の高い臨床検査データを提供することができたと思われる。
また、健診・ドックの受診者や院内・外注検査の増加に伴い、多忙な検査体制となったが、他部門の協力を得ながらも、例年通り、円滑な運営を維持することができた。

リハビリテーション室

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域に根差したリハビリテーションの提供
達成目標：地域公開講座の実施と町内会の方々との交流会の実施
- B-1. リハビリ提供時間の充実
達成目標：全体18.5単位
- B-2. 地域包括ケア病床の適正な運営
達成目標：平均単位数2単位以上
- C-1. 回復期病棟の充実・強化
達成目標：実績指数37以上
- D-1. 3病院合同勉強会への参加
達成目標：計3回20名のスタッフが参加
- D-2. 学会発表へ積極的に取り組む
達成目標：全国学会で2演題を発表する

【今年度を振り返って】

今年度はリハビリテーション室スタッフの退職者や体調不良者が多くリハビリテーション提供実績が18.3単位とリハビリ提供時間の充実を目指す目標の達成が図れませんでした。下半期に職員の補充を実施することで、総単位数は前年比102%の実績を残せました。研究への取り組みでは慢性期医療学会や日本作業療法士学会における全国大会で2演題の発表をすることで目標を達成することが出来ました。特に専門分野における全国大会での発表は、高田病院では初めての取り組み結果として実績を残しました。また、チーム医療会議のもと、医療福祉経営マーケティング研究会における、全国大会での論文作成を完成させ、論文集として冊子掲載も果たせました。一方、

地域に根差したリハビリを実践させる為、継続した地域公開講座の開催、「お達者クラブ」や「よかよか元気クラブ」での転倒予防教室の開催や『よかよか体操』実施等の介護予防事業等へのセラピストの講師派遣協力を行うことで地域の皆様に予防的なリハビリテーションを積極的に提供することが出来ました。介護部門の訪問リハビリでは訪問診療体制を確立することで、利用者実績を前年比107%に伸ばすことが出来ました。保険適応外のリハビリ（自費リハビリ）を継続して対応することで患者さまやご家族さまからのリハビリ希望に対して対応しました。今年度も三笠宮瑤子女王殿下が『コミュニケーション』の研究取組の進捗状況の確認の為にご視察にきたため、研究成果のプレゼンテーションを実施しました。地域連携ネットワークスでは、リハビリテーション室の取組みをプレゼンテーションすることで地域の医療機関・介護施設に当院リハビリテーション室や新築移転のPRを行いました。来年度は、①未病・予防の視点でリハビリテーションを行う、②地域包括ケア病棟の適正な運営、③回復期リハビリ病棟の充実・強化、④リハビリ提供時間の充実を図る、⑤在宅部門とのボーダレスな人的交流を図る、⑥地域の3病院合同の勉強会へ参加してスキルアップを図る、⑦研究・学会発表へ取組みスキルアップを図ること⑧新築移転に向けたリハビリテーション室の更なる充実を目標にし、キラメキテラスヘルスケアホスピタルとして生まれ変わるリハビリテーション室として目標達成に向けて努力していきたいと思います。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

- A-1. 顧客満足度の向上
達成目標：満足度調査の実施。個別面談の実施。
- B-1. 外部居宅事業所からの新規紹介
達成目標：外部事業所からの紹介を10件獲得する。
- B-2. 1日平均利用者数の拡大
達成目標：26名
- C-1. 短時間通所リハビリテーションの使用ニーズにも対応できるよう努める。
達成目標：短時間通所リハビリテーションの実績向上。受け入れ人数を増加する。
- C-2. 質の高いリハビリの提供
達成目標：リハビリテーション会議を週3回実施する。
- D-1. 院外勉強会への参加
達成目標：院外勉強会・研修会へ全スタッフで上半期3回、下半期3回参加する。

【今年度を振り返って】

今年度は短時間通所リハビリの開設にあたり、医療保険での外来リハビリ患者の受け入れや短時間リハビリの要望・ニーズに合わせて受け入れを実施しました。外部事業所からの新規紹介も多く、新規利用者の増加と共に1日平均利用者数が増加しました。スタッフ全員で協力し業務分担・送迎等を行い、利用者からも満足される通所リハビリテーションのサービス提供に努めました。加算関係としては、リハビリマネジメント加算Ⅲの算定を継続して算定しています。リハビリ会議を定期的に実施し、質の高いリハビリテーションを提供するためにも今後も継続して算定していきたいと思います。現在は、月に1～3名の新規利用者がおり、登録者数が延びて1平均利用者数が少しずつ上がってきている状況です。今年度初めから昨年を上回る利用者数で経過しています。利用者の在宅生活がより良いものとなるように支援し、利用者・家族から喜ばれる・満足される通所リハビリテーションであるためにサービス提供を継続していきたいと思います。

心理相談室

【今年度の取り組み】

- A-1. 在宅部門まで含めた環境において、必要時に各部署からの介入依頼が継続したものとなる。
達成目標：新規介入ニーズ発生時に、コンサルテーションも含めた対応を行える関係づくりの構築。

高田病院 部門別活動報告

B-1. 地域包括ケア病床において、ニーズ状況を見極め、介入ポイントを押さえた活動を目指す。

達成目標：介入ケースを通し、心理職としての今後の活動の介入ポイントを整理する。

B-2. 回復期リハビリテーション病棟の運用に、心理職として寄与できるよう努める。

達成目標：介入状況の可視化および、今後へ向けてのツール化。

C-1. ストレスチェックをはじめ、外部企業向けの健診部門において、心理職の活用があれば、迅速に対応していく。

達成目標：心理職としてのニーズの抽出。ストレスチェック実施者養成研修の受講。

C-2. 病棟機能を踏まえた上で、対応困難なケースに対して、本人面談、コンサルテーションと心理職として貢献する。

達成目標：各部署において、困難事例時に心理職の活用という選択肢の定着を目指す。

D-1. 職員健診とストレスチェックを軸に、スタッフのメンタルヘルスの維持・推進に貢献する。

達成目標：迅速に対応できるよう、資料およびファイルの整理を行う。

D-2. 自己研鑽に励み、専門職としてのスキルアップを図るとともに、スタッフへフィードバックしていく。

達成目標：専門性向上の為に研修参加と今後の研修会開催へ向けての立案。

【今年度を振り返って】

今年度は、まず、これまでの活動の統計化に取り組み、常勤心理職の活用状況について整理した。各部署の状況により、ニーズの質量ともに変動はあるが、活用の定着は確認出来た。一方で、潜在的ニーズの洗い出しという点では課題が残り、来期以降も活動の可視化を継続しながら、取り組んでいきたい。また、今年度は、心理職としての専門性の向上をテーマとし、日本心理臨床心理士会主催の研修やストレスチェック実施者養成研修を受講。今後も心理相談室としての守備範囲を広く設け、利用者にとって、気軽でありながらも有用性のある支援を提供できるように努めていく。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 医療事故・医療過誤の防止

達成目標：医療機器、ME機器の不具合に関する インシデント・アクシデントを年間0件にする。

B-1. ME機器点検の確実な実施

達成目標：ME機器の定期点検を年度計画表に基づき計画通り、期間内に100%実施する。

C-1. ME機器関連の勉強会の実施

達成目標：ME機器関連の勉強会を年6回以上、実施する。

D-1. 学会およびセミナー等への参加

達成目標：学会、セミナー等へ年3回以上の参加または、演題発表を行う。

【今年度を振り返って】

今年度は、1名の入職があり5名体制となった。そのなかで、部署目標は、全て達成することができた。院内ME機器の点検・修理は、年間119件行った。また、病棟の使用中的ME機器のラウンドや各部署の蘇生バッグの定期点検などを開始した。また、日本慢性期医療学会で演題の発表も行った。来年度は、今年度同様、医療事故・医療過誤の防止に努めるとともに、新病院移転時の血液浄化療法の新たなニーズに対応できるように、技能・技術の習得に努めていきたい。

放射線室

【今年度の取り組み】

A-1. X線機器の毎日の点検（始業、終業）

達成目標：毎日始業・終業点検を行う。

B-1. 撮影実績を前年度より増加に努める。

達成目標：前年度より5%の増加を目指す。

C-1. 院外研修会への参加、自己学習におけるスキルアップ

達成目標：上期・下期それぞれ2回参加する。

【今年度を振り返って】

今年度の一般撮影検査は前年度比8%増、CT検査10%増、エコー検査15%増、胃透視検査は50%減となっています。胃透視検査は装置の老朽化により故障が続き内視鏡検査に変更になったので人間ドックの受診者数としては8%減でありました。院外研修会への参加も上期・下期それぞれ3回ずつ参加でき、来年度も患者様の安全を第一に更に検査技術・医療の質の向上を目指し取り組んでいきたいと思っております。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. 専門性を活かし、院内多職種や介護支援専門員等との適切な連携を図り、患者さま・御家族に満足していただけるよう支援します。※『介護支援連携指導料』算定漏れをなくす

達成目標：『介護支援連携指導料』算定漏れを年間8件以内に抑える。

B-1. 地域包括ケア病床単位の取得に貢献できるよう努めます。

達成目標：4月1日時点で20床の病床数を30床に増床出来るよう、患者さま退院支援を積極的に実施する。

B-2. 回復期リハビリテーション病棟入院料1の取得を継続出来るよう、在宅復帰率70%以上の確保に努めます。

達成目標：月単位で在宅復帰率70%以上を確保する。

C-1. 連携機関及び患者さま・御家族へ選んで頂ける病院創りの基となる『当院へ望むこと』を訪問活動等を通じて把握し、病院運営へ貢献することを目指します。※『入退院支援加算』算定取得を継続する

達成目標：各社会福祉士にて、月2回以上の訪問活動を実施し、算定要件（年3回20か所以上）を満たす。

C-2. 病院全体ベッド稼働率の安定を図り、連携機関のニーズに対応できるように努めます。

達成目標：病院全体のベッド稼働率を月92%以上確保する。

D-1. 個々のスキルアップに努め、専門性を発揮できるように努めます。

達成目標：年間を通して、院外研修へ全員が8回以上参加し、スキルアップを図る。

【今年度を振り返って】

回復期リハビリテーション病棟算定要件及び地域包括ケア病床算定要件を満たすことは出来た。ただ、入院が長期化している患者さまへの支援が滞り、病院全体の稼働に影響を与えてしまった。

また、次年度は病院移転の中で地域包括ケア病床を病棟単位算定するため、関係職種等との連携強化を図り、患者さま・御家族のニーズ及び組織の役割を担った上での取り組みを行っていききたいと考え、社会福祉士としての専門性を活かして、ソーシャルワークを展開していきたい。

医事課

【今年度の取り組み】

A-1. 満足度調査100%を目指す。

達成目標：100%維持する

B-1. 地域包括ケア病床の増床を行う。

達成目標：2019年度の上半期のうちに、増床を行う。

B-2. 患者サポート体制充実加算の再取得を行う。

達成目標：研修要件等、条件が整い次第2019年中に再取得を行う。

C-1. 新築移転に向け、業務内容・マニュアルの確認

高田病院 部門別活動報告

達成目標：医事係・医療クラーク係にて業務内容の確認およびマニュアルの更新を行う。

C-2. 皮膚科診療の充実のための支援を行う。

達成目標：皮膚科診療の充実のため要望等を把握し、増収に向けた取り組みを行う。

C-3. 働き方改革への対応

達成目標：職員の有給休暇を計画的に5日以上取得する。

D-1. 事務勉強会を継続する。

達成目標：毎月開催継続

D-2. 職員のスキルアップ向上、院外研修の参加・資格取得を目指す

達成目標：院内研修の参加はもちろんのこと、院外研修にも年間4回以上参加する。

【今年度を振り返って】

今年度は、地域包括ケア病床の増床（10床）を2019年6月、患者サポート体制充実加算を2019年7月より取得できた。また、皮膚科診療の充実や、業務内容・マニュアルの確認は、随時対応できた。

有給休暇5日以上取得も計画的にでき、事務勉強会も毎月開催できた。職員のスキルアップについては、各自資格取得の取り組みもみられたが、院外研修の参加は年間3回であったため、来年度は職員のスキルアップのため院外研修の参加も積極的に取り組んでいきたい。

総務係

【今年度の取り組み】

A-1. 環境整備に努める

達成目標：チェック項目のリストを活用しながら、週に1回以上のラウンドを行う

B-1. 病床再編の工程表に沿って施設基準の取得をする。

達成目標：地域包括ケア病棟の病棟単位取得を目指す。

C-1. 次回の更新審査に向け、マニュアルの見直しを行っていく。

達成目標：来年度の実施される期中の確認（中間報告）の準備を進めながら、マニュアルの見直しを行う。

C-1. 回復期病棟施設基準1を維持する。

達成目標：在宅復帰率80%以上

重症患者受入40%以上

重症者改善率40%以上

アウトカム評価40以上

D-1. 年間4回以上院外研修会へ参加する。

達成目標：上半期院外研修2回・下半期院外研修3回参加する。

【今年度を振り返って】

今年度は、地域包括ケア病棟の病棟単位取得のため、20床から30床へ増床することができた。

今後、移転までに病棟単位での取得を目指していく。

また、研修、セミナー等、積極的に参加できていた年ではあったので今後も積極的に参加していきたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A-1. 子どもの健康管理

達成目標：毎月、子育て支援会議を実施し、外来看護師と連携を密に取りあう。

B-1. 事故防止

達成目標：室内・戸外ともに危険と感じる箇所を挙げ、問題を改善し保護者がより安心して預けられる環境づくりをめざす。

C-1. 安全な食事の提供

達成目標：アレルギーや除去食品が一目で分かるように掲示している表の見直しを行い、全員が周知し徹底して管理できるようにする。

D-1. 院内勉強会への参加

達成目標：保育のジャンルだけでなく、医療・感染症などの様々な知識を獲得する。

【今年度を振り返って】

今年度の高田チェリッシュは、平均月齢が低く0・1歳児が大半を占めており、一人ひとりに合わせた保育がより求められる一年だった。

まだ歩行が不安定な子も多くけがを防ぐために保育室全面にクッション性のあるマットを敷いたり、食事では保護者の方に自宅での様子を聞きながら進めたり、こまやかな配慮ができた。

また、一時保育の子を含めた登所児全員の毎日の検温と午睡チェックを実施したことで保護者がより安心して預けられるような体制を作れたのではないと思う。

来年度は、また一人ひとりが成長して今まで保育士にやってもらっていた身の回りの一つ一つを、今度は自分でできるように発達に応じたサポートとともに成長の喜びを一緒に感じながら見守りたい。

2019 年度 委員会・会議 一覧

	委員会名	開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	2 ヶ月に 1 回	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	給食運営委員会	第 2 月曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施する
	薬事審議会	2 ヶ月に 1 回	薬物療法の合理的発展を図る
	倫理検討会	年 3 回	倫理上問題となる症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者さま中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	口腔機能向上委員会	第 1 水曜	口腔に関する現状を討議することで知識・実技の向上を図ることを目的とする
	地域包括ケア病棟運営委員会	第 1 木曜	地域包括ケア病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	回復期病棟運営委員会	第 1 金曜	回復期リハ病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	トイトレ委員会	第 3 水曜	患者さまの排尿自立へむけて、排尿ケアチームで支援を行うことを目的とする。
	クリニカルパス委員会	3 ヶ月に 1 回	クリニカルパスを作成することで、患者さまに対し恒常的に同一水準以上の医療を受けられるようにすることで QOL の向上など治療効果を高め、病院全体の医療向上に寄与すること。
教育関係	サービス向上委員会	第 4 火曜	患者さま・ご家族より寄せられたご意見・苦情・提案に関して病院として真摯に取り組む、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	3 ヶ月に 1 回	患者さまや職員等に関する個人情報適切に取扱い、患者さまから信頼されることが診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	高田病院教育委員会	第 2 火曜	医療の知識、技術の向上を目的とする
	NS 教育委員会	第 2 火曜	看護の知識、技術の向上を目的とする
	CW 教育委員会	第 4 水曜	介護の知識、技術の向上を目的とする
	NS 中途採用者教育会議	第 3 水曜	看護師中途採用者の教育課程の進行状況及び技術取得状況の確認を行うことを目的とする。
	CW 中途採用者教育会議	第 4 水曜	ケアワーカーの中途採用者の教育課程の進行状況及び技術取得状況の確認を行うことを目的とする。
	記録委員会	第 3 水曜	看護の質の向上を目指し、看護記録に関する検討を行い、その体制の整備を図ることを目的とする
	環境美化委員会	第 4 月曜	病院内外の美化に努めることを目的とする
	情報管理委員会	第 2 月曜	情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	図書委員会	第 1 金曜	院内図書の円滑な購入及び管理を行う

医療安全対策関係	医療安全管理委員会	第 1 月曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	医療安全カンファレンス	毎週金曜	医療安全管理対策を実効あるものとするを目的とする
	褥瘡対策委員会	第 4 月曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止推進委員会	第 4 木曜	身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図る事を目的とする
	輸血療法委員会	3 ヶ月に 1 回	院内における輸血に際し、安全かつ適正な輸血療法が出来るよう輸血療法に関する事項について審議する
	医療ガス委員会	年 1 回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	労働安全衛生委員会	第 2 月曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	院内感染対策委員会	第 4 月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	看護部感染委員会	第 4 月曜	看護部の感染対策に対する現状を把握し、職員の感染対策に対する意識向上に向けた取り組みを目的とする。
	腰痛予防対策委員会	第 4 水曜	職場の労働安全衛生水準を向上させること
その他	編集委員会	第 2 火曜	広報誌の準備・編集・発送
	機能評価委員会	2 ヶ月に 1 回	機能評価機構の認定及びその更新を目的とする
	エコアクション委員会	2 ヶ月に 1 回	エコアクション 21 認定及びその更新を目的とする

高田病院 院内研修会 開催状況

月日	内容	対象者	企画	主催者	参加率 人数
4月19日 4月26日	スタンダードプリコー ション	全職員	院内感染対策委員会 教育委員会		80% 214人/267人
5月16日 5月23日	医療現場での適切なク レーム対応	全職員	教育委員会		55% 149人/269人
6月11日 6月20日	安全運転について	全職員	医療安全管理委員会 教育委員会	損保ジャパン	76% 205人/269人
7月9日 7月23日	臨床倫理入門（倫理）	全職員	教育委員会		82% 223人/271人
8月9日 8月22日	KYTを実践してみよ う	全職員	医療安全管理委員会 教育委員会		75% 199人/264人
9月4日 9月19日	医薬品の医療安全	全職員	医療安全管理委員会 教育委員会	東園薬局長	84% 223人/266人
10月3日 10月17日	インフルエンザ感染予 防対策	全職員	院内感染対策委員会 教育委員会		84% 223人/266人
10月23日 10月28日	感染管理セミナー	全職員	院内感染対策委員会 教育委員会		81% 216人/266人
11月7日 11月19日	感染性胃腸炎対策	全職員	院内感染対策委員会 教育委員会		86% 230人/267人
12月5日 12月18日	個人情報保護について	全職員	教育委員会		79% 210人/266人
1月16日 1月23日	エコアクションについ て	全職員	教育委員会	エコアクション 委員会	81% 215人/267人
1月27日	性感染症と院内感染に ついて	全職員	院内感染対策委員会 教育委員会	内田医師	81% 215人/267人
1月21日	クレベリンについて	全職員	教育委員会	大幸薬品	70% 188人/268人
2月28日	病院の職員みんなで医 療安全を考えてみよう	全職員	医療安全管理委員会 教育委員会		67% 172人/257人

年間研修会参加率平均 : 84.5%

第20回 院内研究発表会

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、3月に予定しておりました院内研究発表会開催を延期しております。

高田病院 実習受入れ

医局

月 日	学校名	参加人員
11 月 7 日	鹿児島大学医学部医学科 2 年	8 名
11 月 14 日	鹿児島大学医学部医学科 2 年	7 名
	計	15 名

看護部

月 日	学校名	参加人員
4 月 15 日～4 月 25 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
5 月 27 日～6 月 21 日	鳳凰高等学校基礎課程 2 年生	10 名
6 月 24 日～7 月 4 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
8 月 20 日～8 月 30 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
9 月 16 日	鳳凰高等学校基礎課程 1 年生	8 名
9 月 23 日	鳳凰高等学校基礎課程 1 年生	8 名
9 月 26 日	鹿児島大学看護師特定行為研修センター	3 名
9 月 27 日	鹿児島大学病院看護師特定行為研修センター	3 名
9 月 30 日～10 月 10 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
10 月 3 日	看護師特定行為研修センター	1 名
10 月 4 日	看護師特定行為研修センター	2 名
10 月 7 日	看護師特定行為研修センター	2 名
10 月 15 日～10 月 25 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
11 月 5 日～11 月 29 日	鳳凰高等学校基礎課程 3 年生	10 名
11 月 6 日	鹿児島大学看護師特定行為研修センター	4 名
11 月 13 日	看護師特定行為研修センター	5 名
	計	96 名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
5 月 7 日～5 月 17 日 6 月 3 日～6 月 21 日	一般社団法人 日本総合研究所 社会福祉士養成所通信課程	1 名
8 月 5 日～9 月 10 日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	2 名
	計	3 名

高田病院 実習受入れ

リハビリテーション室

月 日	学校名	参加人員
4月15日～6月9日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 作業療法学科	1名
5月13日～7月6日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
5月13日～7月5日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
5月8日～6月17日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	1名
5月7日～7月13日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1名
5月20日～6月15日	麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚学科	1名
7月8日～7月13日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
7月22日～7月27日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
7月29日～9月21日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
7月29日～9月20日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
8月28日～10月7日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	1名
10月14日～12月7日	熊本保健科学大学 言語聴覚学科	1名
11月25日～12月14日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
1月14日～2月8日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
1月21日～2月8日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1名
	計	15名

栄養室

月 日	学校名	参加人員
7月22日～8月4日	今村学園ライセンスアカデミー 栄養士科 2年	1名
8月19日～8月30日	鹿児島県立短期大学 生活科学科食物栄養専攻 2年	1名
	計	2名

臨床工学室

月 日	学校名	参加人員
8月26日～9月11日	鹿児島医療工学専門学校 臨床工学学科 3年生	1名
10月8日～10月24日	鹿児島医療工学専門学校 臨床工学学科 3年生	2名
	計	3名

医療法人 玉昌会
加治木温泉病院

2019 年度 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

《理 念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療・介護・福祉サービスを提供します。

《基本方針》

1. 患者さまの尊厳と権利を尊重した医療・介護を目指します
2. 患者さまの視点に立ち、良質で安心・安全な医療・介護の提供に努めます
3. 地域包括ケアシステムの構築に寄与し、全世代に対応した医療・介護・福祉サービスを含めた生活支援サービス提供を目指します
4. 『健康経営宣言』に則り、病院および在宅サービス事業部の健全な運営を行い、安心して働きがいのある職場づくりに取り組みます
5. 健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組みます

《運営方針》

1. 患者さま・利用者さまの尊厳や権利を尊重し、医療の質の確保と安全な医療・介護を行います
2. 『健康経営宣言』に則り、療養環境および職場環境の改善に努めます
3. 地域のニーズにあった病院機能の見直しを行い、病院の新築移転に伴う将来の病院機能を見据えた病床機能の再編に取り組みます
4. 腎疾患診療部門における、慢性腎臓病（CKD）対策、腎代替療法等に関して、更なる診療機能の充実を図ります
5. 手術部門の充実を図ります
6. 健診部門を通して 5 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）の未病・予防に取り組みます
7. 地域共生社会の実現に向けての対応に取り組みます
8. 人財の確保および育成に努めます
9. 病院の新築移転に向けての取り組みを進めます

加治木温泉病院の沿革

- 1978 年 6 月 加治木温泉病院開設 病床数 100 床
- 1985 年 7 月 増改築により増床 人工腎臓センター開設・人工透析開始
- 1989 年 7 月 C T ・ M R I 導入
- 1994 年 5 月 人工腎臓センターを別棟として増設
- 1997 年 11 月 浴室・管理棟を増設
- 1997 年 12 月 350 床に増築
- 1998 年 12 月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）基準承認
療養型病床群療養環境（Ⅱ）（Ⅲ）基準承認
- 1999 年 6 月 総合リハビリテーション施設承認
- 2000 年 2 月 介護療養型医療施設承認（91 床）
- 2001 年 4 月 療養病棟入院基本料Ⅰ基準承認
介護療養型医療施設 117 床に増床
療養型病床群療養環境（Ⅰ）（Ⅱ）基準承認
- 2001 年 5 月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（54 床）
- 2002 年 4 月 地域リハビリテーション広域支援センター認定
- 2002 年 5 月 日本医療機能評価機構「認定証」取得
- 2002 年 10 月 特殊疾患療養病棟入院料 2 基準承認
- 2007 年 5 月 日本医療機能評価機構「V e r . 5 認定証」取得
- 2008 年 12 月 日本医療機能評価付加機能（リハビリテーション機能）認定
- 2009 年 1 月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（30 床）
- 2009 年 2 月 亜急性期入院医療管理料（Ⅰ）承認（10 床）
- 2010 年 2 月 介護療養型医療施設（57 床）
療養病棟入院基本料 2（149 床）
- 2010 年 4 月 療養病棟入院基本料 1（119 床）
療養病棟入院基本料 2（90 床）
- 2010 年 10 月 国土交通省（J C A B）指定航空身体検査機関認定
- 2010 年 11 月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（60 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2010 年 12 月 16 列マルチスライス C T 装置導入
- 2012 年 5 月 日本医療機能評価機構「V e r . 6 認定証」取得
- 2013 年 4 月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定

加治木温泉病院の沿革

- 2013 年 8 月 持続性推進機構「エコアクション 21」認定
- 2013 年 12 月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能 Ver. 3. 0）認定
- 2014 年 10 月 外科・消化器外科開設
- 2014 年 12 月 在宅療養後方支援病院基準承認
- 2015 年 1 月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 承認（54 床）
- 2015 年 2 月 アメリカ連邦航空局（F A A）指定航空身体検査機関認定
- 2015 年 3 月 電子カルテ導入
- 2015 年 4 月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 体制強化加算承認
標榜科目に神経内科、頭頸部外科を追加
- 2015 年 5 月 一般病棟（13：1）60 床を地域包括ケア病棟入院料 2 へ転換
- 2015 年 6 月 がん患者リハビリテーション料承認
- 2015 年 7 月 地域包括ケア病棟入院料 1 承認
- 2015 年 11 月 介護療養型医療施設（57 床）療養機能強化型 B 承認
- 2015 年 12 月 介護療養型医療施設（57 床）療養機能強化型 A 承認
- 2016 年 1 月 標榜科目に肝臓内科を追加
- 2016 年 9 月 開放型病院基準承認
- 2017 年 3 月 日本医療機能評価機構「3rd G：Ver. 1. 1 認定証」取得
- 2017 年 12 月 超電導型 MRI 装置（1. 5T）導入
- 2018 年 4 月 皮膚科外来開設
- 2018 年 5 月 救急告示病院指定
- 2018 年 6 月 整形外科開設
- 2018 年 7 月 神経内科を脳神経内科へ変更
- 2018 年 12 月 介護療養型医療施設（57 床）を介護医療院へ転換
- 2019 年 4 月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能 Ver. 3. 0）更新
- 2019 年 8 月 介護医療院 80 床へ（23 床増床）
歯科用 CT の導入
- 2019 年 12 月 療養病棟入院基本料 2 を地域一般入院料 3 へ転換
- 2020 年 1 月 脳神経外科を開設

加治木温泉病院の概要

名 称 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

所 在 地 〒899-5241

鹿児島県姶良市加治木町木田 4714

TEL (0995) 62-0001 FAX (0995) 62-3778

開 設 者 理事長 高田 昌実

管 理 者 病院長 高田 昌実

診 療 科 目 内科 腎臓内科(人工透析) リハビリテーション科 整形外科
脳神経内科 脳神経外科 消化器内科 消化器外科 肝臓内科
循環器内科 外科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皮膚科 泌尿器科 歯科

病 床 数 270 床

- ・ 地域包括ケア病棟入院料 2 (60 床)
- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (54 床)
- ・ 療養病棟入院基本料 1 (119 床)
- ・ 地域一般入院料 3 (37 床)

介護医療院 (80 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、身体障害者福祉法指定医、
結核予防法、原子爆弾被爆者一般疾病医療、自立支援医療

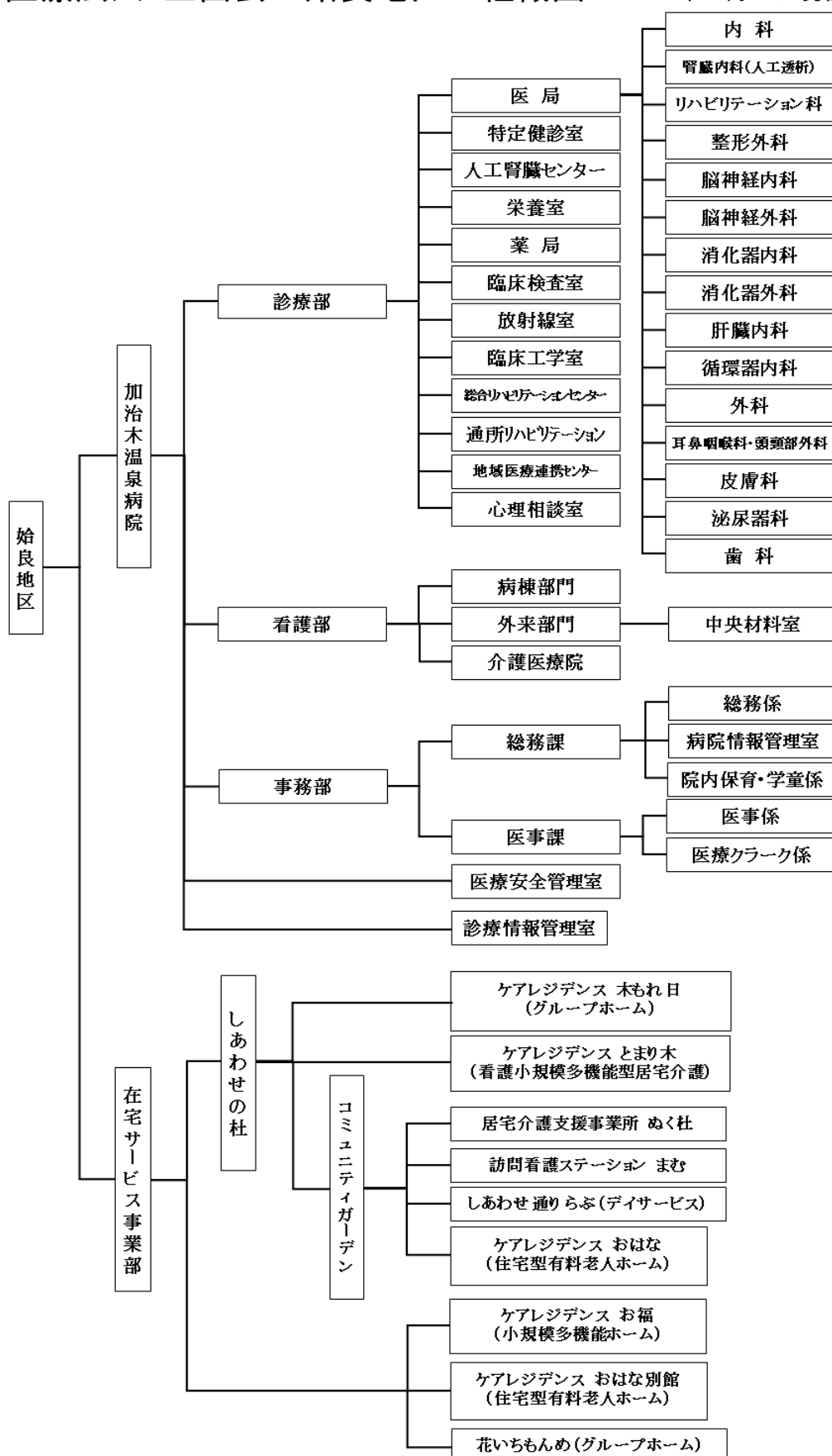
施 設 基 準 初診料(歯科)の注 1 に掲げる基準、歯科外来診療環境体制加算 1、一般病
棟入院基本料、療養病棟入院基本料、診療録管理体制加算 2、医師事務作業
補助体制加算 1、看護配置加算、看護補助加算、療養病棟療養環境加算 1、
療養病棟療養環境改善加算 1、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加
算 2、感染防止対策加算 2、後発医薬品使用体制加算 1、データ提出加算、
入退院支援加算、認知症ケア加算、排尿自立支援加算、回復期リハビリテ
ーション病棟入院料 1、地域包括ケア病棟入院料 2、入院時食事療養／生活
療養(I)、歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療
時医療管理料、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、糖尿病
透析予防指導管理料、ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料、外
来排尿自立指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、歯科疾患在宅
療養管理料の注 4 に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時

医療管理料、在宅療養後方支援病院、有床義歯咀嚼機能検査 1 の口及び咀嚼能力検査、検体検査管理加算（Ⅰ）、神経学的検査、CT 撮影及びMRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、無菌製剤処理料、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、がん患者リハビリテーション料、集団コミュニケーション療法料、口腔粘膜処置、レーザー機器加算、人工腎臓、導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、CAD/CAM 冠、医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術、輸血管理料Ⅱ、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、クラウン・ブリッジ維持管理料

広 報 誌 すこやか加温（年 4 回発行）

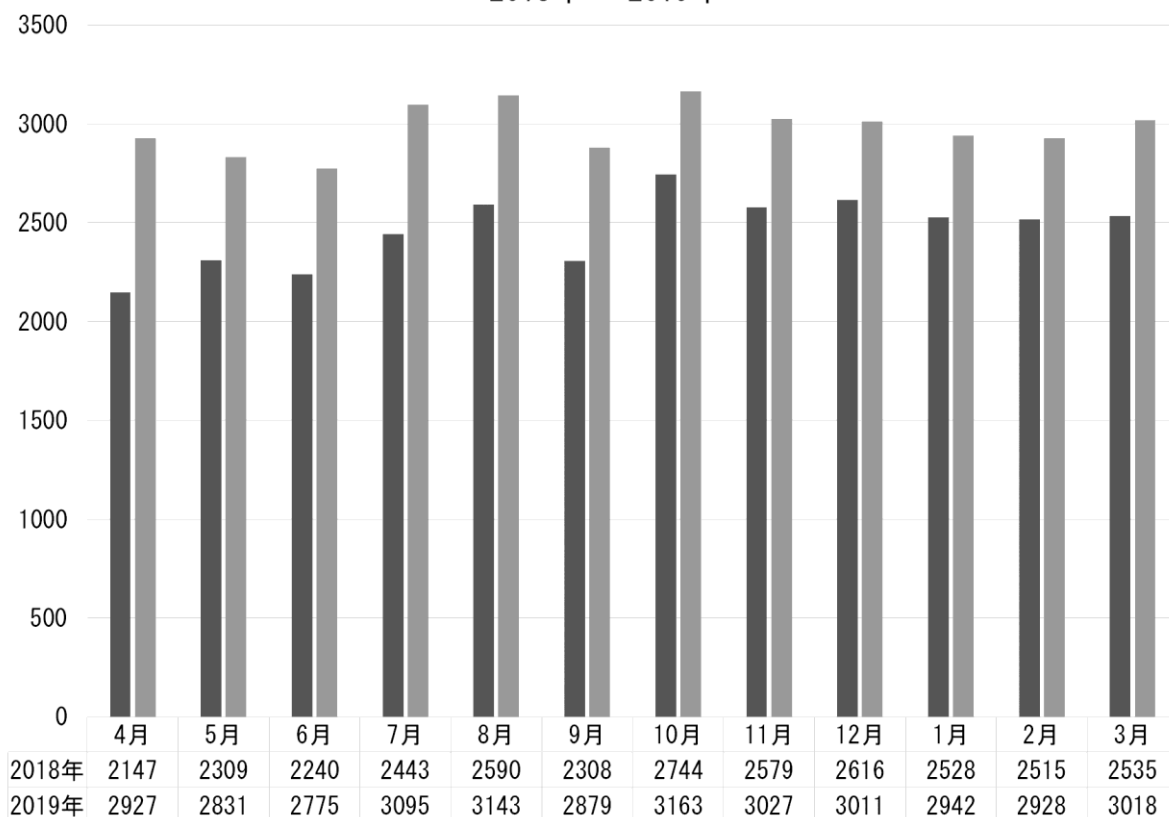
- そ の 他 ・ 日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver. 1. 1)
- ・ 日本医療機能評価機構付加機能
（リハビリテーション機能 Ver. 3. 0 回復期）
 - ・ 慢性期医療認定病院
 - ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
 - ・ 日本温泉気候物医学会専門医教育研修施設
 - ・ 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
 - ・ 在宅療養後方支援病院
 - ・ 開放型病院
 - ・ 通所リハビリテーション
 - ・ 訪問リハビリテーション
 - ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
（脳血管疾患等）
 - ・ 航空身体検査指定機関
（アメリカ連邦航空局指定、国土交通省指定）
 - ・ 消化器・大腸・胃・前立腺がん・肺がん検診精密検査医療機関
 - ・ 肝疾患治療かかりつけ医療機関
 - ・ 難病患者医療等専門医療機関
 - ・ 日帰り人間ドック実施指定病院
 - ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定病院
 - ・ 薬学生長期実務実習受入施設・看護学校実習病院・医療福祉実習病院
 - ・ 持続性推進機構エコアクション 21（環境省推奨）認定
 - ・ かがしま子育て応援企業登録
 - ・ 救急告示病院

医療法人 玉昌会 始良地区 組織図 2020年4月1日現在



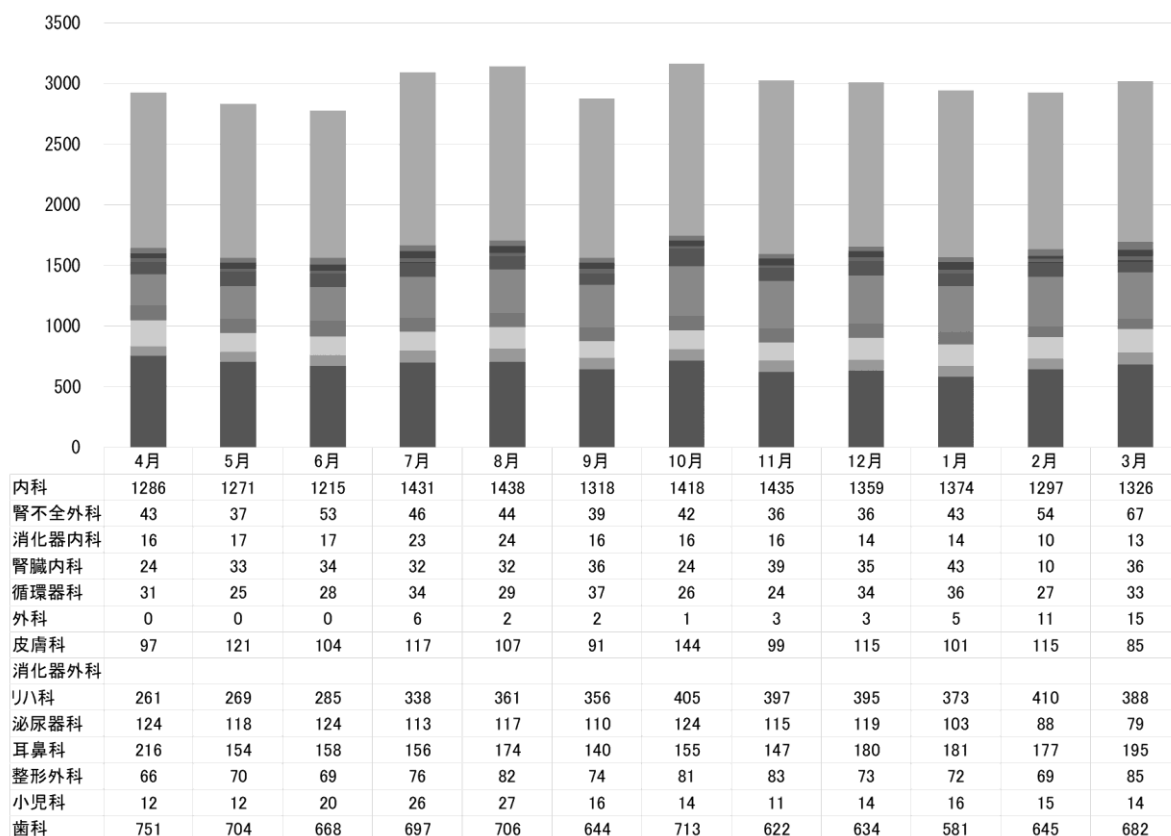
外来患者数推移（人）

■ 2018年 ■ 2019年



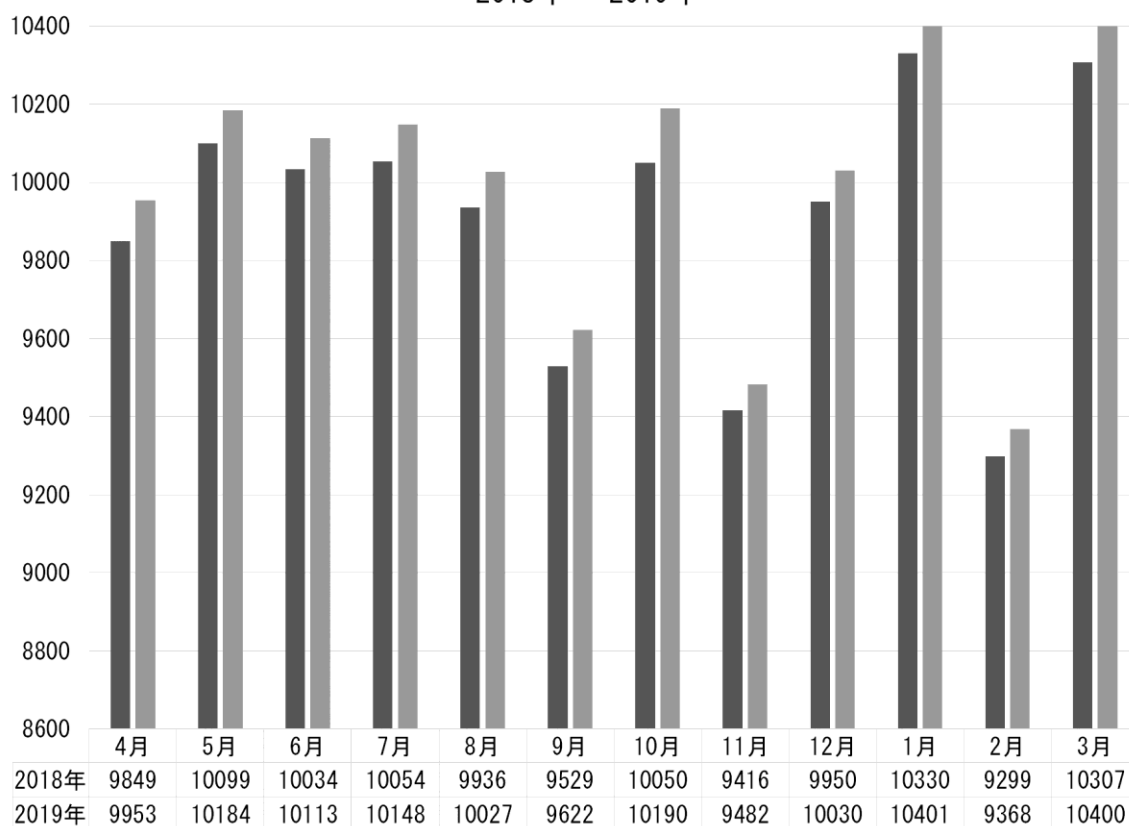
外来患者数診療科目別内訳推移（人）

■ 歯科 ■ 小児科 ■ 整形外科 ■ 耳鼻科 ■ 泌尿器科 ■ リハ科 ■ 消化器外科 ■ 皮膚科 ■ 外科 ■ 循環器科 ■ 腎臓内科 ■ 消化器内科 ■ 腎不全外科 ■ 内科



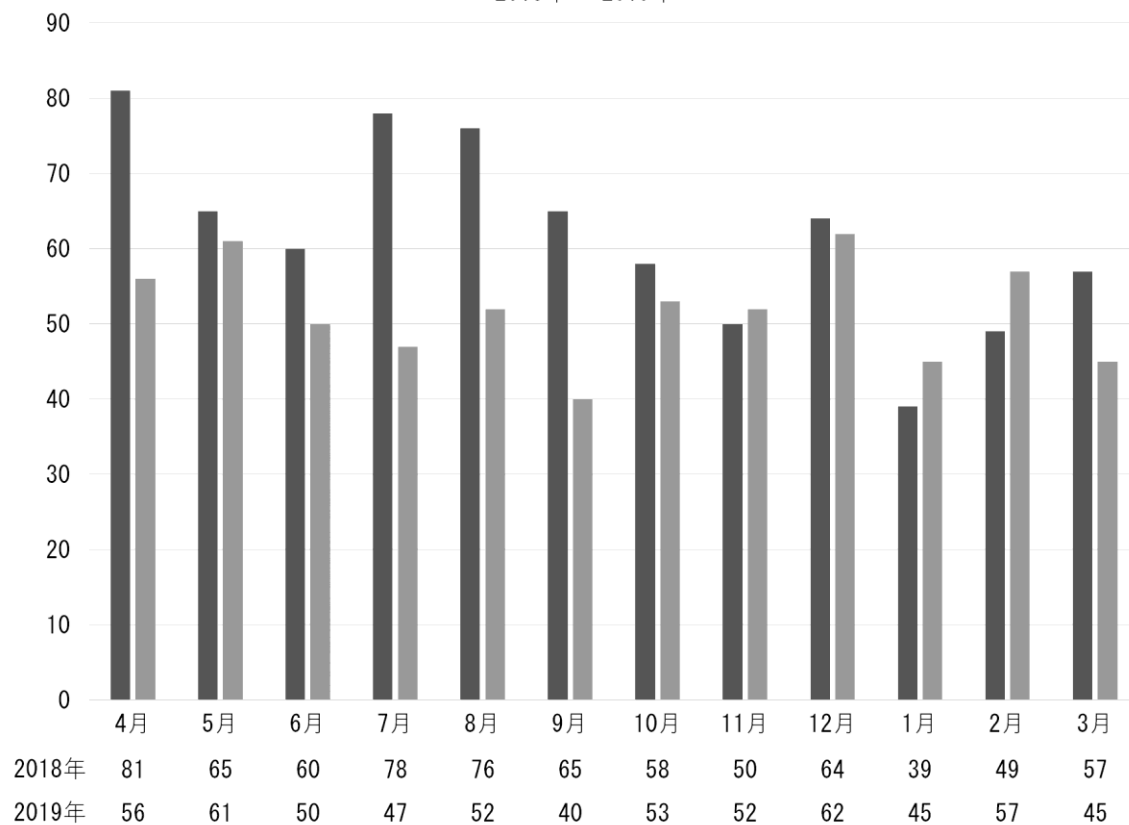
入院患者数（人）

■ 2018年 ■ 2019年



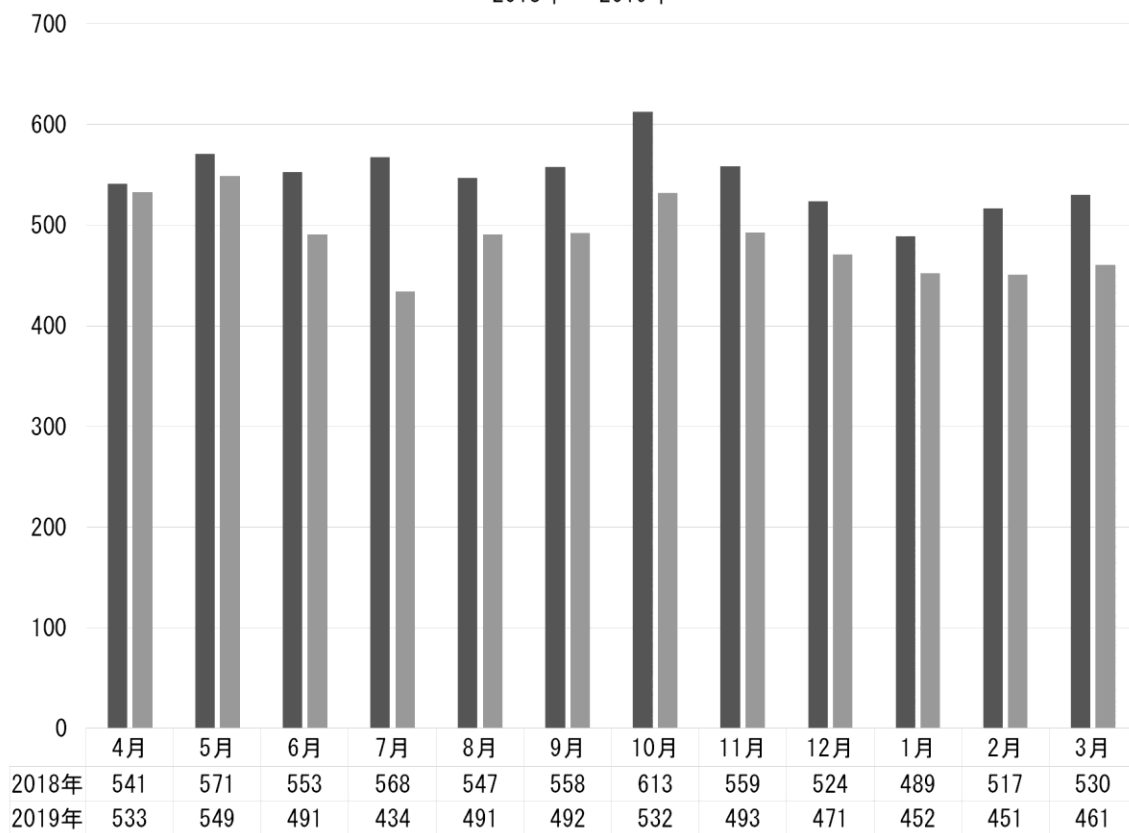
栄養指導件数（件）

■ 2018年 ■ 2019年



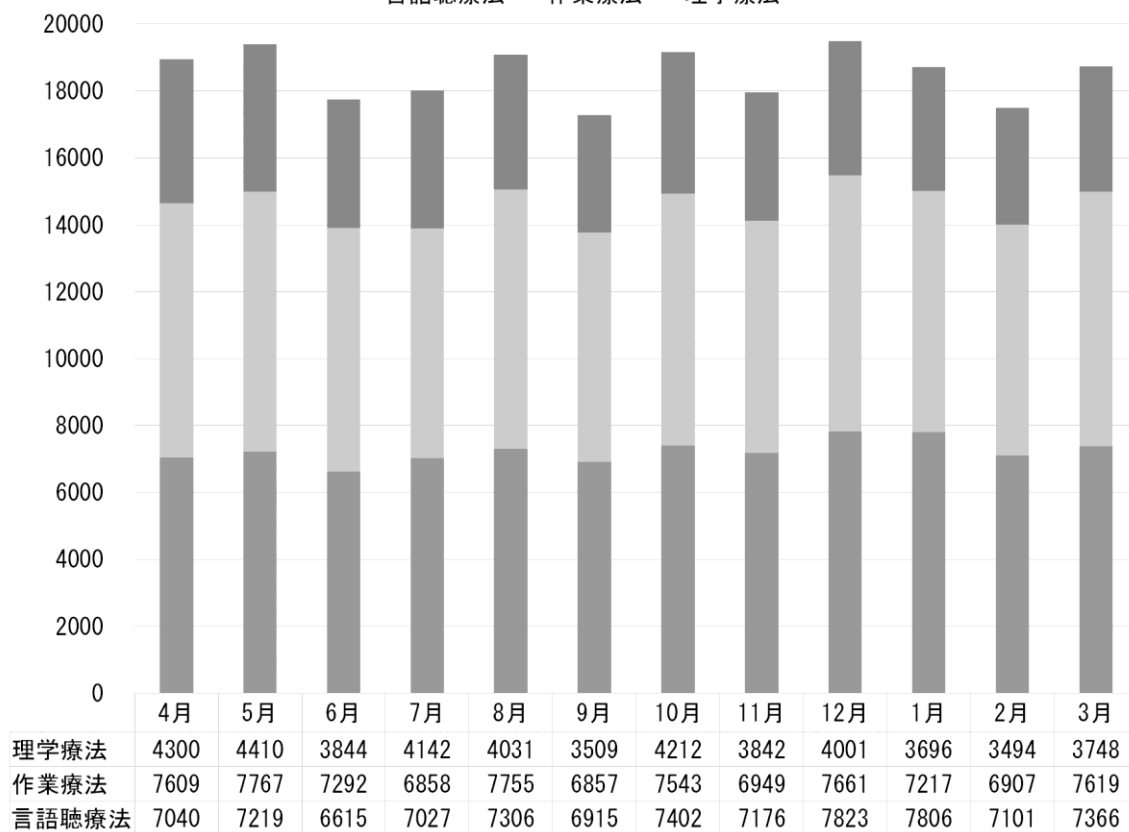
通所リハビリ利用者数（人）

■ 2018年 ■ 2019年



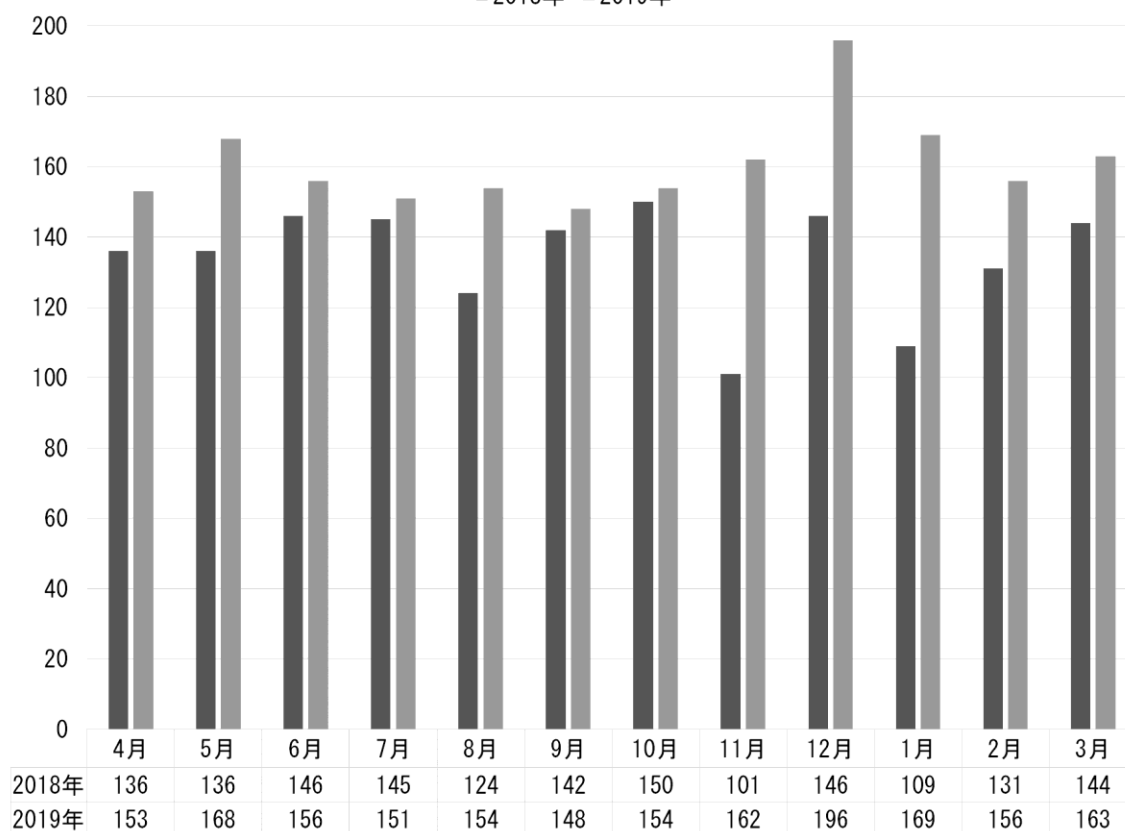
総合リハビリセンター患者取扱数（件）

■ 言語聴療法 ■ 作業療法 ■ 理学療法



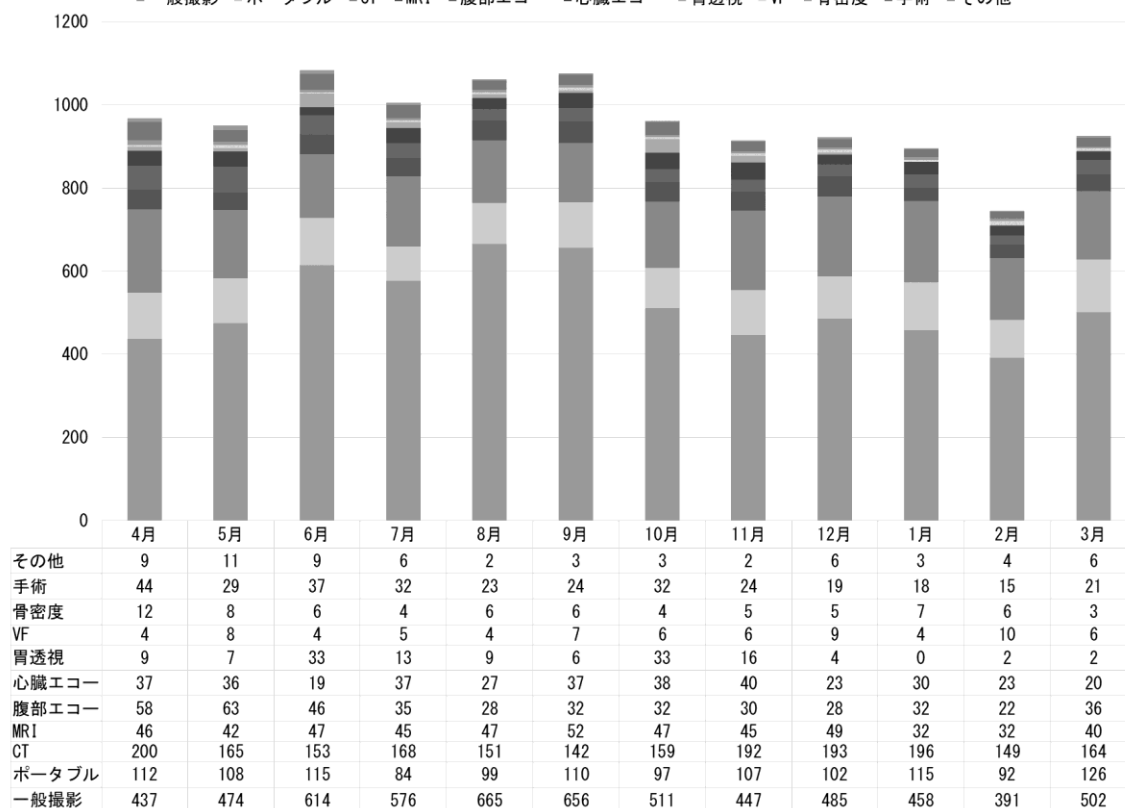
服薬指導件数（件）

■ 2018年 ■ 2019年

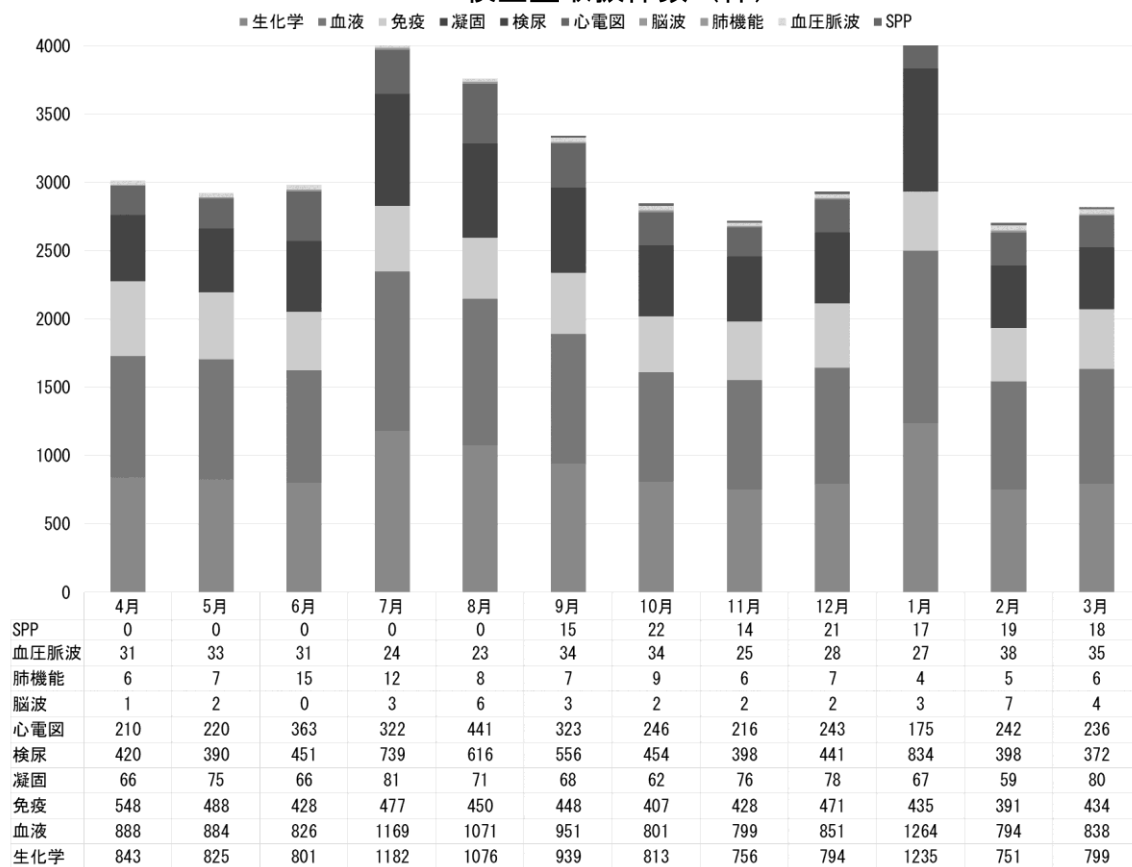


放射線室取扱件数（件）

■ 一般撮影 ■ ポータブル ■ CT ■ MRI ■ 腹部エコー ■ 心臓エコー ■ 胃透視 ■ VF ■ 骨密度 ■ 手術 ■ その他

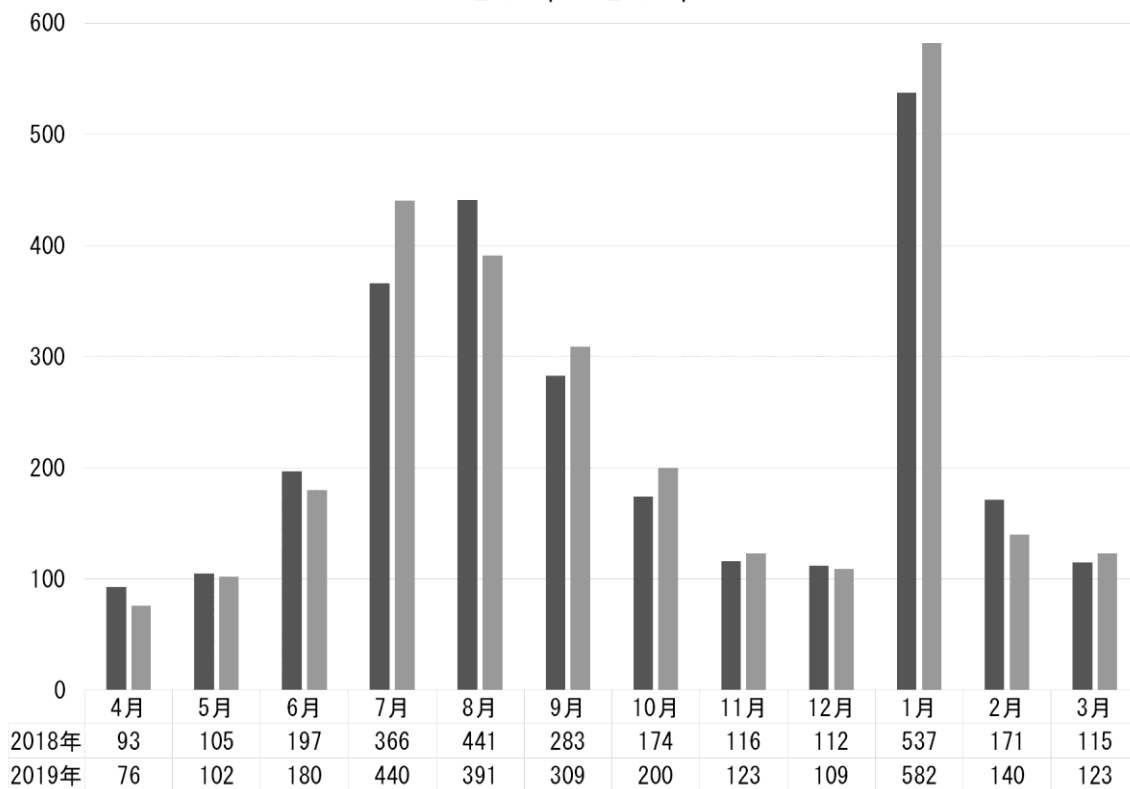


検査室取扱件数（件）



健康診断件数（件）

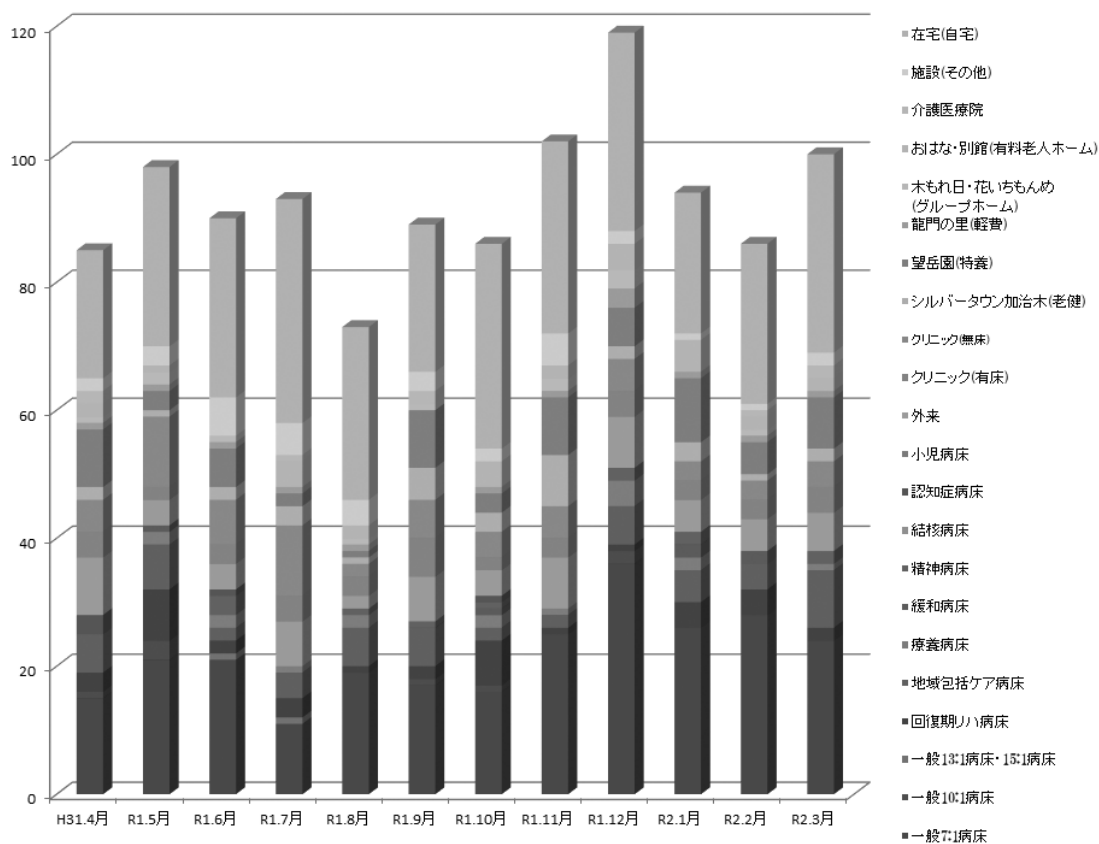
■ 2018年 ■ 2019年



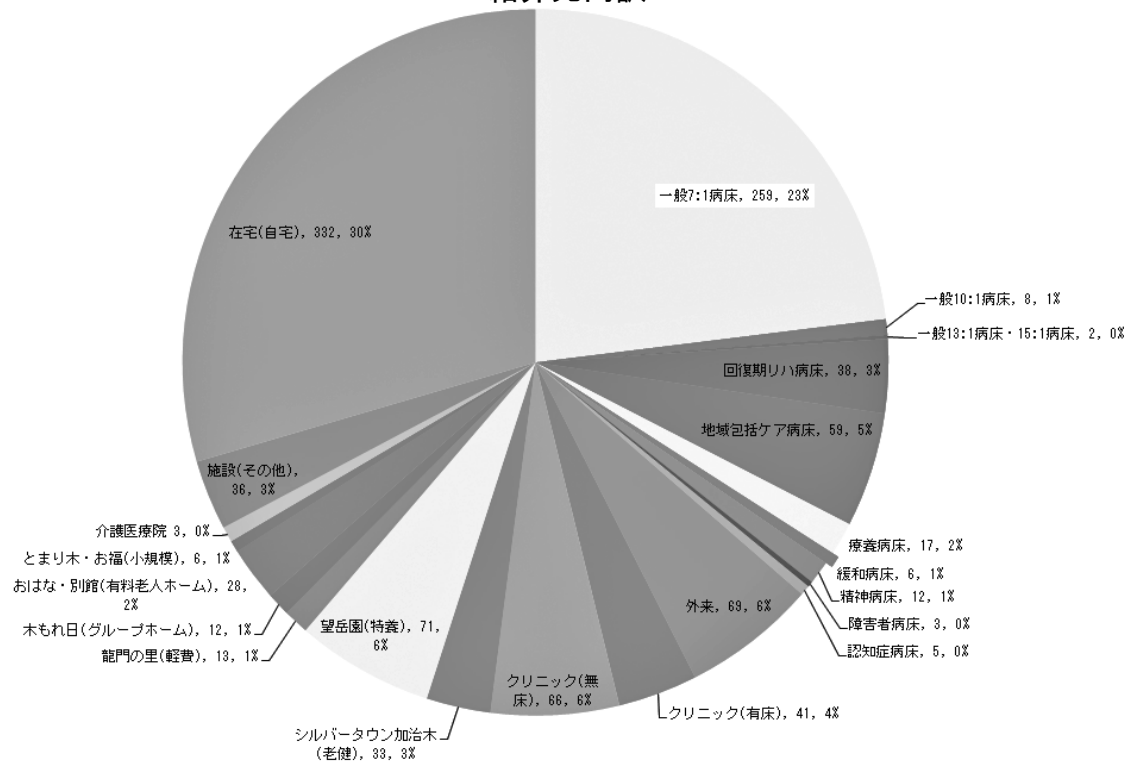
2019 年度 入院紹介元別件数・割合

病床・施設	H31 4月	R1 5月	R1 6月	R1 7月	R1 8月	R1 9月	R1 10月	R1 11月	R1 12月	R2 1月	R2 2月	R2 3月	小計	割合
一般 7:1 病床	15	21	21	11	19	17	16	25	36	26	28	24	259	23%
一般 10:1 病床	1	3	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	8	1%
一般13:1 病床・15:1 病床	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0%
回復期リハ病床	3	8	2	3	1	2	7	1	1	4	4	2	38	3%
地域包括ケア病床	6	7	2	4	6	6	2	2	6	5	4	9	59	5%
療養病床	0	2	2	1	2	0	2	1	4	2	0	1	17	2%
緩和病床	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	6	1%
精神病床	0	0	3	0	1	1	1	0	2	2	0	2	12	1%
結核病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
障害者病床	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0%
認知症病床	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0%
小児病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
外来	9	4	4	7	2	7	4	8	8	5	5	6	69	6%
クリニック(有床)	4	2	3	4	3	6	2	3	4	3	3	4	41	4%
クリニック(無床)	5	11	7	11	2	6	4	5	5	3	3	4	66	6%
シルバー타운加治木(老健)	2	1	2	3	1	5	3	8	2	3	1	2	33	3%
望岳園(特養)	9	3	6	2	1	9	3	9	6	10	5	8	71	6%
龍門の里(軽費)	1	1	1	1	1	0	1	1	3	1	1	1	13	1%
木もれ日・花いちもんめ (グループホーム)	1	2	1	0	1	1	0	2	3	0	1	0	12	1%
おはな・別館 (有料老人ホーム)	2	1	0	4	2	0	4	2	4	5	2	2	28	2%
とまり木・お福 (小規模)	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	1	0	6	1%
介護医療院	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	2	8	1%
施設(その他)	2	3	6	5	4	3	2	5	2	1	1	2	36	3%
在宅(自宅)	20	28	28	35	27	23	32	30	31	22	25	31	332	30%
合計	86	99	91	93	73	89	87	103	121	95	87	100	1124	100%

2019 年度入院紹介元別件数・割合・グラフ



紹介元内訳



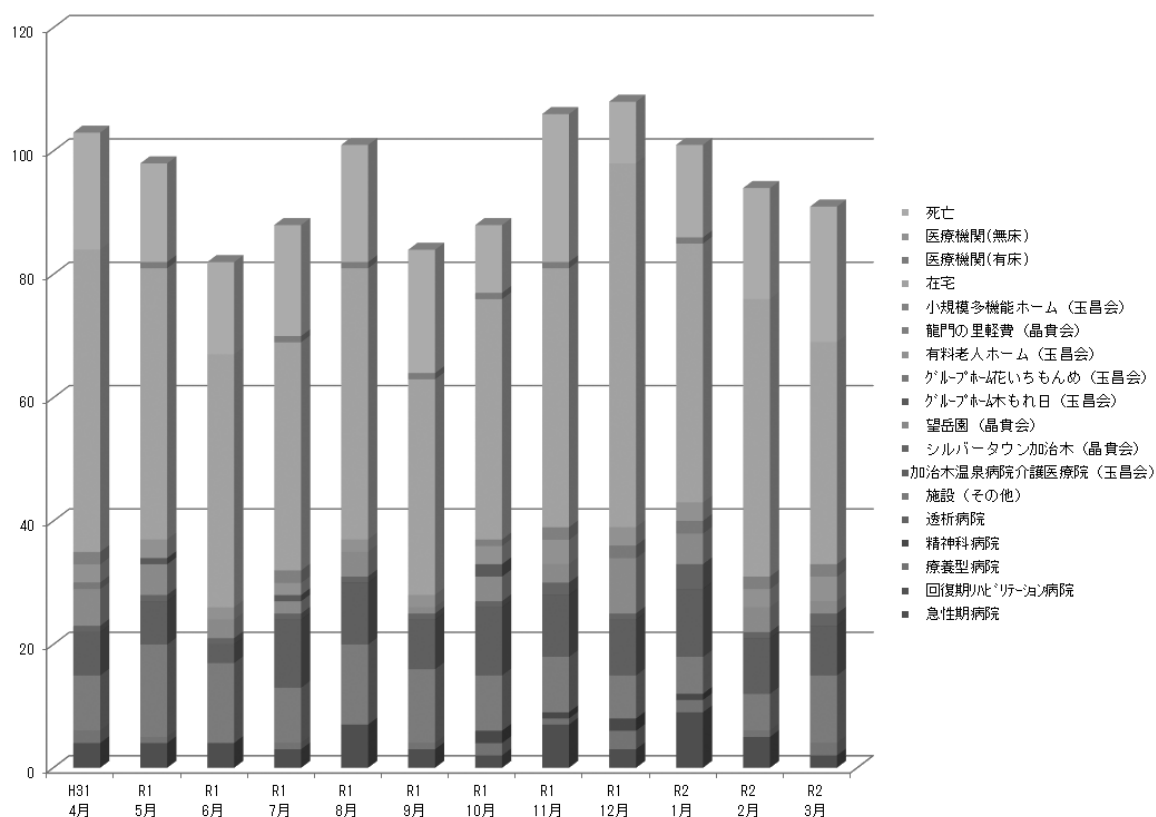
2019 年度 逆紹介先機関別

機関	H31 4月	R1 5月	R1 6月	R1 7月	R1 8月	R1 9月	R1 10月	R1 11月	R1 12月	R2 1月	R2 2月	R2 3月	合計
急性期病院	4	4	4	3	7	3	2	7	3	9	5	2	53
回復期リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
療養型病院	2	1	0	1	0	1	2	1	3	2	1	2	16
精神科病院	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	6
透析病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設(その他)	9	15	13	9	13	12	9	9	7	6	6	11	119
加治木温泉病院介護医療院(玉昌会)	7	7	3	11	10	8	11	10	9	11	9	8	104
シルバータウン加治木(晶貴会)	1	1	1	1	1	1	1	2	1	4	1	2	17
望岳園(晶貴会)	6	5	3	2	4	1	4	3	9	5	4	2	48
グループホーム木もれ日(玉昌会)	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4
グループホーム花いちもんめ(玉昌会)	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	5
有料老人ホーム(玉昌会)	3	3	2	2	2	2	3	4	3	3	3	4	34
龍門の里軽費(晶貴会)	2	0	0	2	0	0	1	2	0	0	2	2	11
小規模多機能ホーム(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅	49	44	41	37	44	35	39	42	59	42	45	36	513
医療機関(有床)	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	7
医療機関(無床)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	19	16	15	18	19	20	11	24	10	15	18	22	207
合計	103	98	82	88	101	84	88	106	108	101	94	91	1144

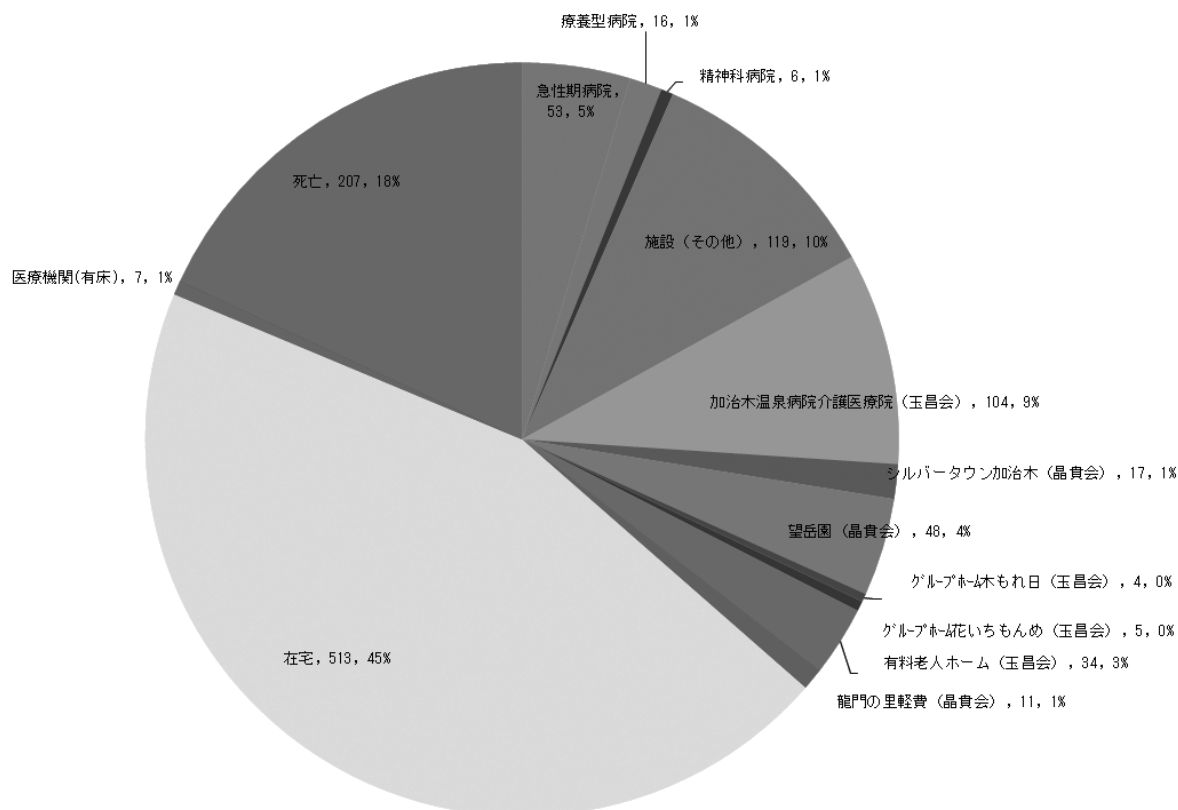
始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関

機関	H31 4月	R1 5月	R1 6月	R1 7月	R1 8月	R1 9月	R1 10月	R1 11月	R1 12月	R2 1月	R2 2月	R2 3月	合計
始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	4

2019 年度 逆紹介（退院）先件数一覧《全体》



逆紹介先内訳

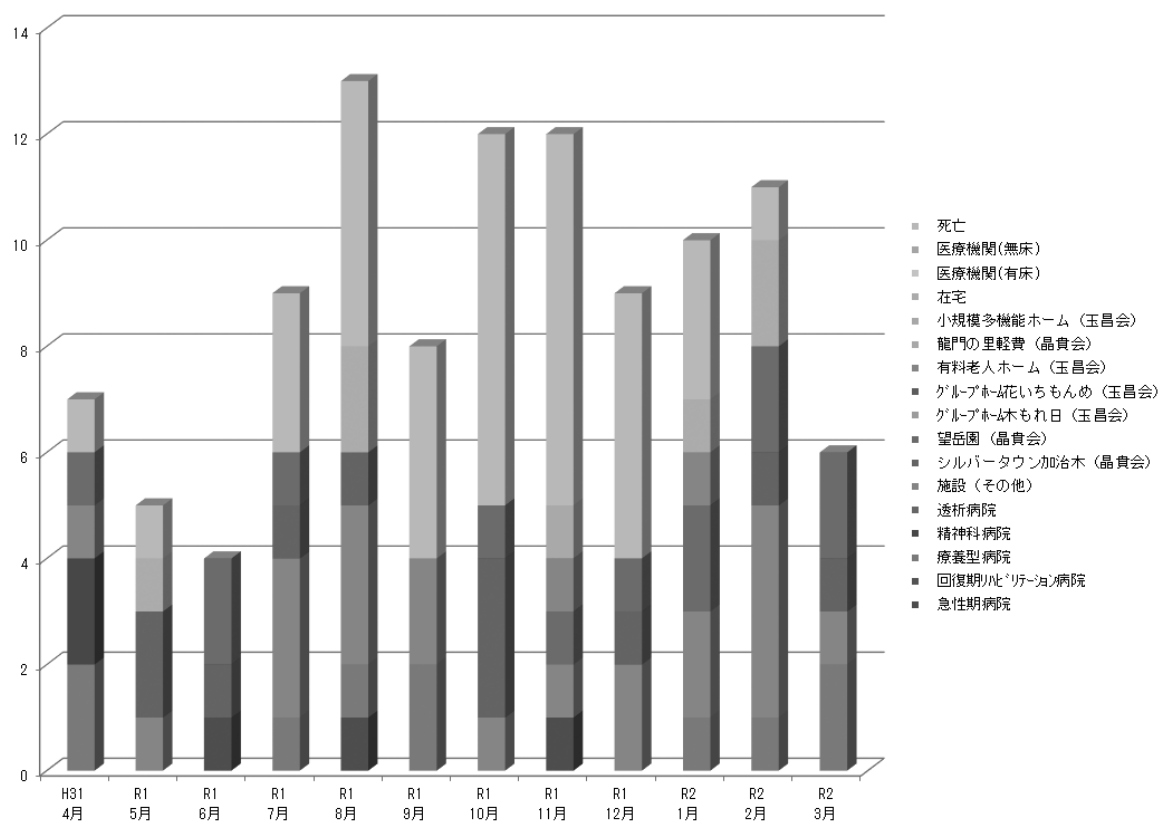


2019 年度 逆紹介先機関別《介護医療院》

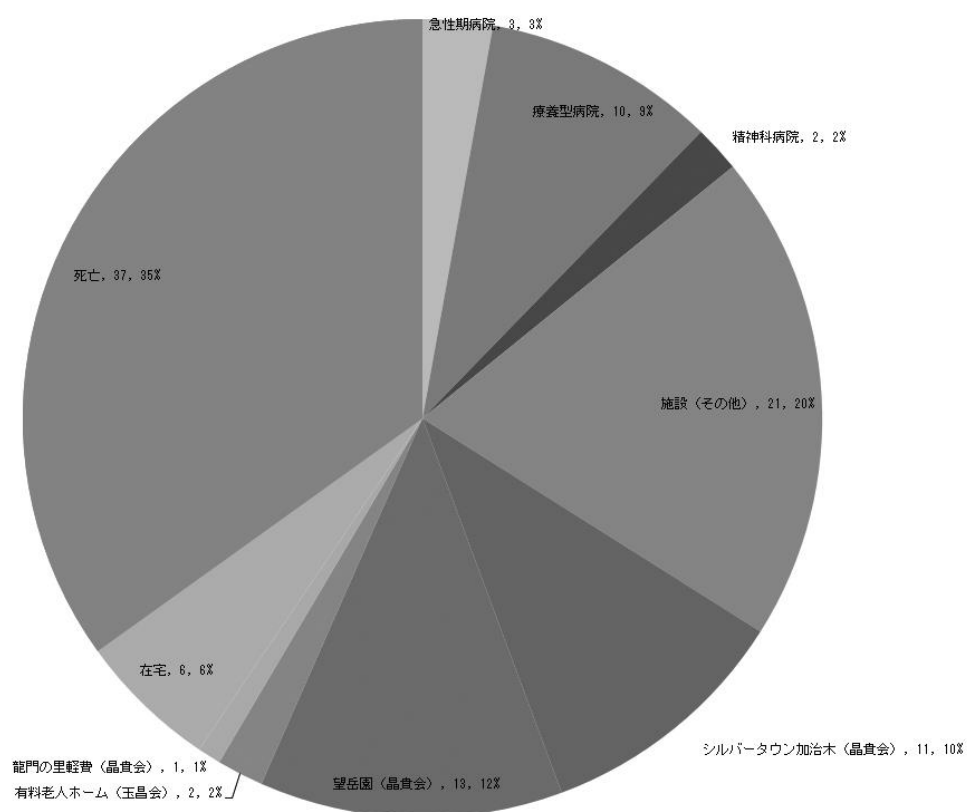
機関	H31 4月	R1 5月	R1 6月	R1 7月	R1 8月	R1 9月	R1 10月	R1 11月	R1 12月	R2 1月	R2 2月	R2 3月	合計
急性期病院	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
回復期リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
療養型病院	2	0	0	1	1	2	0	0	0	1	1	2	10
精神科病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
透析病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設(その他)	1	1	0	3	3	2	1	1	2	2	4	1	21
シルバータウン加治木(晶貴会)	0	2	1	1	1	0	3	0	1	0	1	1	11
望岳園(晶貴会)	1	0	2	1	0	0	1	1	1	2	2	2	13
グループホーム木もれ日(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グループホーム花いちもんめ(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有料老人ホーム(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
龍門の里軽費(晶貴会)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
小規模多機能ホーム(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	2	0	6
医療機関(有床)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療機関(無床)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	1	1	0	3	5	4	7	7	5	3	1	0	37
合計	7	5	4	9	13	8	12	12	9	10	11	6	106

始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関													
機関	H31 4月	R1 5月	R1 6月	R1 7月	R1 8月	R1 9月	R1 10月	R1 11月	R1 12月	R2 1月	R2 2月	R2 3月	合計
始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3

2019 年度 逆紹介（退院）先件数一覧《介護医療院》

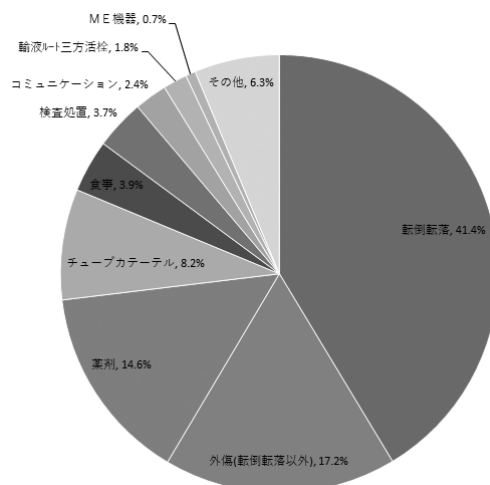


逆紹介先内訳



2019 年度インシデント・アクシデント発生状況 医療部門

要因名	発生件数		年計	割合
	インシデント	アクシデント		
転倒転落	328	67	395	41.4%
外傷(転倒転落以外)	161	3	164	17.2%
薬剤	15	124	139	14.6%
チューブカテーテル	67	11	78	8.2%
食事	36	1	37	3.9%
検査処置	35	0	35	3.7%
コミュニケーション	19	4	23	2.4%
輸液ルート三方活栓	16	1	17	1.8%
ME機器	7	0	7	0.7%
その他	55	5	60	6.3%
合 計	739	216	955	



影響度レベル別発生件数 (月別)

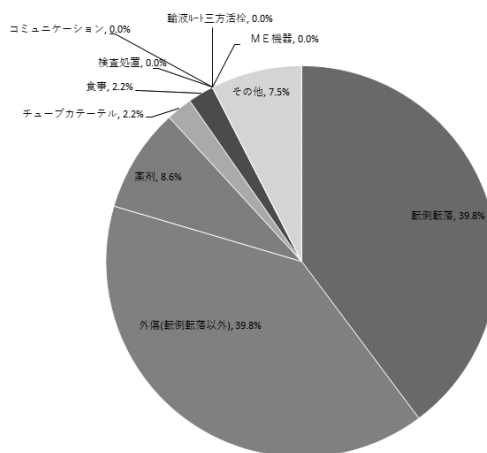
影響度レベル		2019 年												2020 年		年計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
インシデント	0a	2	11	5	17	6	3	4	4	5	7	4				68	5.7
	0b				4	2	1	1	2		2		3			15	1.3
	0c				2							1				3	0.3
	1	9	14	11	39	18	17	19	19	23	9	8	3			189	15.8
	2a	50	51	36	55	27	26	43	22	44	25	11	30			420	35.0
	2b	4														4	0.3
	計	65	76	52	117	53	47	67	47	72	43	24	36			699	58.3
アクシデント	3a	25	19	12	37	18	12	17	13	23	11	9	5			201	16.8
	3b	1			3		3	2		1						10	0.8
	計	26	19	12	40	18	15	19	13	24	11	9	5			211	17.6
総 計		91	95	64	157	71	62	86	60	96	54	33	41			910	75.8

職種別発生件数 (月別)

職種	2019 年												2020 年		年計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
医師		1													1	0.1
看護師	52	51	44	81	42	47	46	40	64	33	16	25			541	45.1
准看護師	14	22	6	26	11	4	7	10	12	2	1	1			116	9.7
介護福祉士	14	11	4	26	11	7	17	5	18	10	10	5			138	11.5
ケアワーカー	4	2	3	12	1	1	8	2	2	5	2	1			43	3.6
リハ・スタッフ	5	4	6	6	2	4	7	4	3	1		3			45	3.8
薬剤師			1	3			2	2			2	1			11	0.9
栄養士		1		1	1		1					1			5	0.4
調理師			1							1	1				3	0.3
放射線技師															0	0.0
事務	1	3	2	6	3	2		3	3	2	1	2			28	2.3
臨床検査技師			1												1	0.1
歯科医師															0	0.0
ME		1				1	1								3	0.3
心理															0	0.0
MSW		1				1				1	1				4	0.3
その他	1	1	2	1					2						7	0.6
総 計	91	98	70	162	71	67	89	66	104	55	34	39			946	78.8

2019 年度インシデント・アクシデント発生状況 介護医療院

要因名	発生件数		年計	割合
	インシデント	アクシデント		
転倒転落	35	2	37	39.8%
外傷(転倒転落以外)	2	35	37	39.8%
薬剤	8	0	8	8.6%
チューブカテーテル	0	2	2	2.2%
食事	2	0	2	2.2%
検査処置	0	0	0	0.0%
コミュニケーション	0	0	0	0.0%
輸液ルート三方活栓	0	0	0	0.0%
ME 機器	0	0	0	0.0%
その他	7	0	7	7.5%
合 計	54	39	93	



影響度レベル別発生件数 (月別)

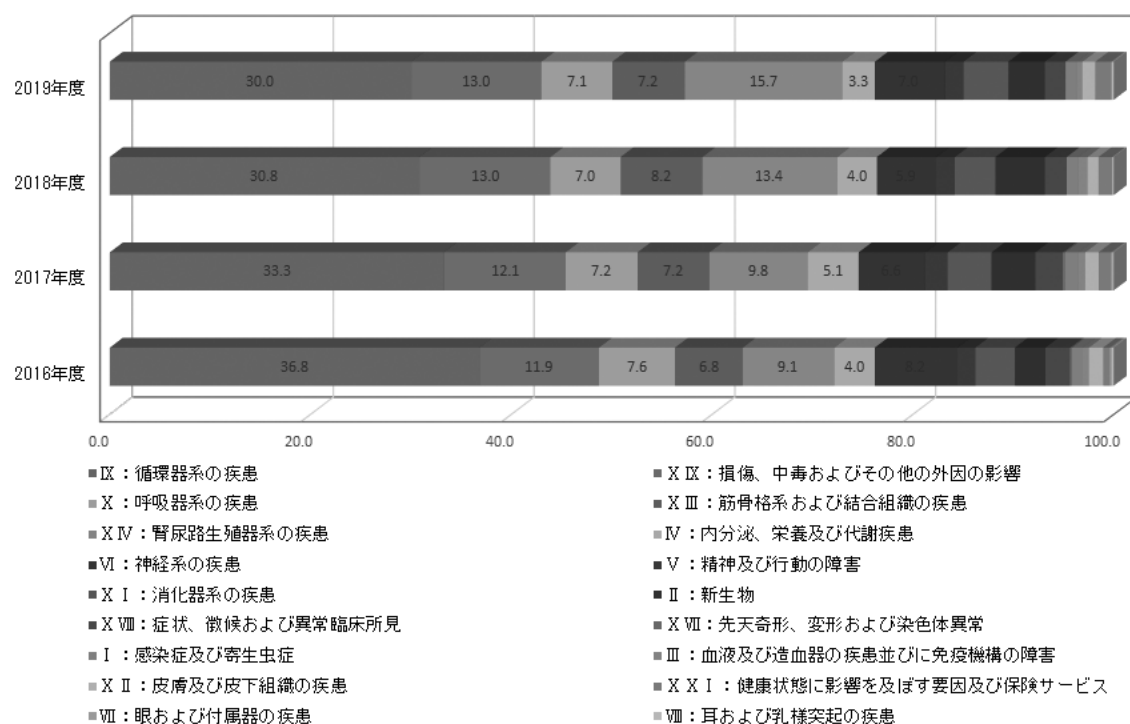
影響度レベル		2019 年												年計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
インシデント	0a			1			1	1			1	2	1	7	0.6
	0b						1						1	2	0.2
	0c													0	0.0
	1	1	2			3	1	1			1	1		10	0.8
	2a	7	4	3		5	1	3		1	2	4	3	33	2.8
	2b	1	2											3	0.3
	計	9	8	4		8	4	5		1	4	7	5	55	4.6
アクシデント	3a	4	4	5		4	1	2		3	7	3	2	35	2.9
	3b							1						1	0.1
	計	4	4	5		4	1	3		3	7	3	2	36	3.0
総 計		13	12	9	0	12	5	8	0	4	11	10	7	91	7.6

職種別発生件数 (月別)

職種	2019 年												年計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
医師													0	0.0
看護師		1	1		2	2	5		1	2	2	4	20	1.7
准看護師	3	3			3					4	6		19	1.6
介護福祉士	6	5	8		5	3	4		2	2	2	3	40	3.3
ケアワーカー	4	1			2				2	2		1	12	1.0
リハ・スタッフ													0	0.0
薬剤師													0	0.0
栄養士													0	0.0
調理師													0	0.0
放射線技師													0	0.0
事務													0	0.0
臨床検査技師													0	0.0
歯科医師													0	0.0
ME													0	0.0
心理													0	0.0
MSW													0	0.0
その他													0	0.0
総 計	13	10	9	0	12	5	9	0	5	10	10	8	91	7.6

疾病別患者数年度別推移（2016 年度～2019 年度）

大分類名	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
IX：循環器系の疾患	202	210	183	150
XXIX：損傷、中毒およびその他の外因の影響	65	76	77	65
X：呼吸器系の疾患	42	45	42	35
XIII：筋骨格系および結合組織の疾患	37	45	48	36
XIV：腎尿路生殖器系の疾患	50	62	80	78
IV：内分泌、栄養及び代謝疾患	22	32	24	16
VI：神経系の疾患	45	42	35	35
V：精神及び行動の障害	10	14	11	9
XI：消化器系の疾患	22	28	24	22
II：新生物	17	28	29	18
XVIII：症状、徴候および異常臨床所見	13	17	13	10
XVII：先天奇形、変形および染色体異常	1	1	0	0
I：感染症及び寄生虫症	6	9	7	6
III：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	4	6	3
XII：皮膚及び皮下組織の疾患	8	8	7	6
XXI：健康状態に影響を及ぼす要因及び保険サービスの利用	4	8	8	8
VII：眼および付属器の疾患	1	1	0	0
VIII：耳および乳様突起の疾患	1	1	1	1
総計	548	630	594	500



加治木温泉病院 部門別活動報告

部門別活動のご紹介にあたって（玉昌会のBSC活動）

医療法人玉昌会では、Balanced Score Card（以下BSCという）を活用した部門別活動を展開しています。

※BSC（Balanced Score Card）＝組織のビジョンや戦略を4つの視点から具体的な目標や行動計画に視覚化し、実践し評価するための手法。

医療法人玉昌会のBSC運用スケジュール

2月：新年度の基本方針（法人・各地区・両院）発表
（合同スタッフ会議にて）



3月：前記方針に基づいた部門基本方針の立案



3月：具体的部署目標の設定並びに目標を達成するための具体的な施策内容と実施スケジュールの立案



4月：BSC事務局によるヒアリング、提出（PLAN）



4月～3月：施策の実施（DO）



9月、3月：結果とその評価（CHECK）



9月：BSCの修正（ACTION）



BSCの立案においては次の4つの視点区分がポイントとなります。

- A. 患者満足の視点
- B. 健全経営の視点
- C. 医療の質向上の視点
- D. 学習と成長の視点

この4つの視点区分にもとづいて、各部署で立案されたものです。

2 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：満足度調査で接遇に関する指摘0件にて達成

ミニカンファレンスにて患者・家族の関わりの事例振り返り実施

B-1. チームナーシング・プライマリーナーシングの強化

達成目標：プライマリーナースが中間カンファレンス入力83.4%にて達成

C-1. ノーリフティングの実施

達成目標：患者にあった、グローブ・スマイルシートによる活用率100%にて達成

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：専門性の向上を高めるための研修参加後のフィードバック研修81.2%にて未達成

【今年度を振り返って】

2019年度は、患者の尊厳や権利を尊重し医療の質の確保と安全な医療・介護を提供するため、患者・家族に寄り添った看護・ケアの質向上に努めることを目標とし、2階南病棟では接遇の振り返りや日々のチームナーシング・プライマリーナーシングの強化に努めた。また、腰痛予防とし「健康経営宣言」の方針に基づき、ノーリフティングの実施に取り組んだ。2020年も、引き続きチームワークを高め、患者・家族の安心できる医療・看護を提供していきたい。

2 階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. セルフケアの向上

達成目標：セルフケア実施表作成。整容実施率100%

B-1. 在宅復帰支援

達成目標：在宅復帰率直近6ヶ月70%維持し、入院料2へ基準変更

C-1. 介護負担の軽減

達成目標：ノーリフティングケアの普及を行い、スライディングシートの使用状況確認し、使用実施率100%

D-1. 専門性の向上

達成目標：個人目標設定と達成の為に支援を行い、個人目標達成ができる（70%）

【今年度を振り返って】

病院全体で、セルフケア実施表を作成。業務追加となったが、セルフケアを実施する表を可視化することで、スタッフが意識し、セルフケアへ努める事ができた。

前年度は、在宅復帰率がクリアできなかったことから、基準変更を行い、入院料4へ下げ、減収に繋がった。今年度は、入院料2へ基準変更を目標に、多職種と連携を密に図り、患者・家族の進捗状況、プライマリー看護師も患者・家族へ生活指導を行い、令和元年9月には、入院料2へ基準変更でき、増収へと繋げる事ができた。

接遇に関しては、1人1人の接遇に対する意識を高め、丁寧な対応や気配りに努めた。

患者の思いに寄り添い、どのような最期を迎えたいか、どのような在宅生活を考えているか、患者・家族とともに考え、その人らしい生を全うできるよう、看護、介護を提供し、今後も継続していきたい。

2 階東病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 看護・介護の関わりの強化

達成目標：療養環境整備や、患者の整容に対して実施表を作成実施表に基づき、チェック項目について受け持ち看護師の関わりがもてる（70%以上）療養環境と患者の整容についての苦情が0件

B-1. 方針に沿った病棟再編病棟・外来の機能強化

達成目標：看護必要度についての学習を、学研ナーシングを使用し2回開催、看護必要度についての理解度を確認するために、学研ナーシングを参考にテストを実施、100%合格

C-1. ノーリフティングケアの普及

達成目標：スマイルシートの利用率についてスタッフへアンケートを実施する。スマイルシートの使用方法について学習会を2回開催。ADL全介助者に対しスマイルシート使用率100%。入浴に伴う移乗時の皮膚剥離件数5件。

D-1. 個々の専門性の向上や自己実現をサポートし、職員の定着を図る

達成目標：個人目標に腹膜透析やラダーに見合った専門性を高めるための目標を設定できる。
実践レベルでの成果を出すなど個人目標達成（70%以上）

【今年度を振り返って】

血液透析、腹膜透析の技術を学び、安全な看護を提供した。また、全日本病院学会で手指拘縮予防をテーマに部署での取り組みを発表した。次年度も行動指針を念頭に置きながら安心・安全な看護・介護を提供致します。

3 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 看護・介護の関わりの強化

達成目標：患者とはADL向上や個別的関わりとしてのワンアップを継続し、家族とは面談の機会を多く持つことで困りごとや不愉快な想いを話し合い、苦情にならないうちに解決する。

B-1. 回復期1の基準の維持

達成目標：整形疾患患者の増加に伴い、整形疾患患者の回復期看護について統一した意識を持てるよう、整形疾患に関する勉強会を行う。学んだ事をもとに整形疾患に対する回復期看護を実践しFIMアウトカム37以上、回復期1を維持を目指す。

C-1. スライディングシートの定着

達成目標：全てのスタッフがスライディングシートの使用方法を資料や伝達講習を通して理解する。
ベッド上での上方移動には必ずスライディングシートを使用する習慣をつける。年度末にはアンケートを実施し、スライディングシート使用についての感想・意見や腰に与える影響に聞き課題を抽出する。

D-1. 個々の専門性の向上や自己実現をサポートし、職員の定着を図る

達成目標：個人目標の中に受講予定研修を挙げ、面談にて学びたいものの方向性を明確にする。個人目標に挙げた研修を管理者が把握し、研修案内を行ったり、テーマに沿ったオンデマンドを提案し、受講率80%以上とする。また、学んだ事について病棟会で報告したり、些細な事で良いので病棟へ還元する。

【今年度を振り返って】

2019年度は整形外科医の田島医師が入職されたことにより、より整形外科疾患の患者が増加した。上期には田島医師に整形疾患についての講義をしていただき、疾患や術後の禁止肢位等を学んだ。臨床場面ではこの学びを活かし、荷重制限や禁止肢位をベッドサイドに掲示しケアの統一を図ったり、コルセットの装着の徹底を行った。看護師は、入院期間が短いことを意識し、入院早期より家族と自宅でのサポートや不安について話し合いながら早期退院に繋げた。

新たに導入したスライディングシートを普及し患者の負担と職員の腰への負担軽減に努めた。シートの携帯の徹底から開始し、使用の機会を増やし、職員の腰痛の減少を目指したが、年度末のアンケートによると携帯率62%、必ず使用したと答えたスタッフは30%、腰痛の悪化が29%、腰痛による欠勤が0.5%であった。とても便利であると実感しているスタッフもいるが、シートの携帯を忘れてしまう等の意見もあったため、勤務前に取りやすい場所に設置したり活用方法を再確認し活用の徹底を図る。

2020年度は診療報酬改定位の年であり、更にリハビリの成果を求められることが予測される。回復期は、チームとして患者一人一人に、リハビリ室から生活の場である病棟まで切れ目なくリハビリを提供して行く事

が重要になってくると思われる。当院の回復期に入院してよかったと感じられる病棟を目指し、他職種と連携を図って行きたい。

3 階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 看護・介護の関わりの強化

達成目標：満足度調査・院内アンケートで接遇に関する年間の苦情・指摘件数が年間3件以下

B-1. 方針に沿った病棟再編。病棟の機能強化

達成目標：12月より地域一般病棟への転換に向けての準備・業務改善

将来にむけ看護必要度の研修会を開催

C-1. ノーリフティングケアの普及

達成目標：患者移乗の際の腰痛・肩こり等の身体的疲弊にて加療・療養事例が発生しない

D-1. 個々の専門性の向上や自己実現をサポートし、職員の定着を図る

達成目標：オンデマンド研修参加・研修報告書の提出を全職員が行なえる

離職を防ぎ、働きやすい・働き続けられる職場環境づくり

【今年度を振り返って】

これまでの療養病棟から介護医療院への分棟・地域一般病棟への転換が行なわれ、病棟機能がめまぐるしく変化した一年であった。入院患者の受け入れから急性期医療・周術期医療など地域包括医療・ケアを推進する病棟であることを、全職員が認識し、患者様・ご家族様が安心して入院生活を送っていただけるように努めた。

年2回の患者満足度調査では、患者様・ご家族様より感謝・お礼の言葉を多くいただくことがあった。今後も、患者様に寄り添い、安心安全な医療・看護・介護を提供していきたい。

介護医療院

【今年度の取り組み】

A-1. 看護・介護の関わりの強化

達成目標：満足度調査で関わりの評価や褒めの言葉を頂くことが出来る。髭剃り・爪切りを毎日1人1名ずつ実施し、実施率65%出来る。

B-1. 方針に沿った病棟再編病棟・外来機能の強化

達成目標：退所支援を行い、95%の方が転帰先決定し稼働維持出来る。また週3回のレクリエーションの実施出来、入所者の生きがいの獲得や表情の変化が分かる。

C-1. ノーリフティングケアの普及

達成目標：スライディングシートを使用することで、腰痛有るスタッフが症状悪化しない。また、新たに腰痛出現するスタッフが出ない。

D-1. 個々の専門性の向上や自己実現をサポートし、職員の定着を図る。

達成目標：個人面談でラダーレベルに合った学研オンデマンド（4つ以上）視聴内容確認し、目標達成出来たスタッフが80%以上。

【今年度を振り返って】

満足度調査にて「忙しい中、温かい声かけにほっこりしました」や「笑顔に励まされる」などお褒めの言葉を多くいただき、とても励まされました。転帰先の決定・退所支援などに対しては、困難事例が多くあり、入所の段階でご案内させていただくこと・方向性の明確化が課題です。ご家族・入所者の皆様に安心して入所生活が送れる様努めていきます。また、介護医療院は介護度の高い入所者の方が多く、介助量も多い為、スタッフ1人1人の技術の向上を目標に安全経営に努めます。個々の専門性の向上に向け、学研オンデマンドの活用や自己実現に向けサポート体制を強化していきたい。

外来

【今年度の取り組み】

A-1. 看護・介護の連携

達成目標：満足度調査での指摘件数0件の維持

B-1. 外来・手術部門の機能強化

達成目標：専門分野の診療介助をスタッフの7割が実践できる

C-1. 補助具の有効活用とアクシデント削減

達成目標：必要な状況時に適切に使用でき、関与するアクシデント報告0件の維持

D-1. 専門性の向上

達成目標：スタッフの2割が資格取得や終了証・認定証をうけ専門的知識を身につける

【今年度を振り返って】

接遇に関しては、患者様・ご家族より「よく聞いてくれる」など感謝の言葉を頂くこともあった。前年度と比較すると、手術件数も増えている。補助具の使用に関しても、使用するスタッフが増え、声掛けする場面が増えた。今年度も、安全面に十分に配慮し、引き続き質の高い看護・介護が提供できるように自己研鑽に努めていきたい。また、基本理念・行動指針を念頭に患者様の尊厳や権利を尊重したあたたかい看護の提供とチームワーク・職場環境の充実に努めていきたいと思う。

人工腎臓センター

【今年度の取り組み】

A-1. スタッフの知識の底上げ

達成目標：透析についての広報誌を3カ月に1回作成し、患者様に配布する。

スタッフ・患者様にアンケート実施し広報誌についてプラスコメントを頂ける。

B-1. 下肢動脈疾患管理加算の確実な算定

達成目標：フットチェック方法の見直しを行い、帳票のチェック漏れ0件となり

下期で帳票チェック漏れ0件が維持できる。

C-1. ノーリフティングケアの定着

達成目標：スライディングシートの使用方法の勉強会に全員参加し、スライディングシートを

スタッフ全員が使用できるようになり、皮膚剥離のインシデントが0件になる。

D-1. 専門的知識・技術の向上

達成目標：自身のラダーを理解し、事故研磨のための目標立案と行動計画立案100

下期で目標達成できたスタッフ70%以上となる。

【今年度を振り返って】

腎不全外科開設後、血液透析の患者様だけではなく、腹膜透析に血液透析を併用するハイブリッド透析の患者様が
増え、透析用のカテーテル挿入や新規透析導入の方も昨年度に比べ件数が増えました。年々、重症度の高い透析患者
様が增加する中、スタッフのスキルアップもますます求められています。

今後も、質の高い医療・看護を提供できるようスタッフ一同頑張っていきたいと思います。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の向上

達成目標：外来透析患者様の満足度調査のMEに対する意見・苦情を0件にする。

B-1. I-HDF、online HDF施行患者の増加

達成目標：診療報酬を多く獲得する為に（主治医の意向に沿いながら）I-HDF、online HDF
F施行の患者を増やす。

C-1. 医療事故、医療過誤の防止

達成目標：透析機器、ME機器に関するインシデント・アクシデントを0件にする。

D-1. アクセス管理

達成目標：HD03の操作を技士全員で行い、提出するレポートの形を完成させる。

シャントエコーが行える技士を1名以上増やす。

D-2. 学会発表

達成目標：日本透析医学会学術集会総会、九州人工透析研究会総会にて演題発表を行う。

【今年度を振り返って】

シャントPTA・下肢動脈EVTを合わせて年間160件以上実施しており、今後は他施設からの紹介患者も増えていく事が予想される為、より安全・清潔に実施できるよう技士室全体で知識・技術を高めていきたい。

また腹膜透析患者や人工呼吸器装着患者も増加しており、臨床工学技士として今後とも患者へ安心・安全な医療を提供する為、また院内のスタッフが不安なく勤務できるよう安全対策を講じていく。

総合リハビリテーションセンター

【今年度の取り組み】

A-1. 地域ケア会議のケースの内容に合わせた人選を行い適切な指導のできる人材を派遣する

達成目標：始良市包括支援センターと十分に連携し地域ケア会議に推進リーダー研修受講者を含めた派遣システムを作り適切な人材を派遣する

A-2. 住民主体の通いの場づくりに協力する

達成目標：行政や社協、住民に企画提案を行い、実際に一つ以上の地域において住民主体の場での介護予防のための通いの場づくりを実施する

B-1. 毎月18.5単位（有休5日による提供単位減少対策）あるいは各病棟目標がある場合には病棟目標を達成する

達成目標：月半ばで確認し柔軟なフォロー体制で訓練提供し平均18.5単位あるいは各病棟の目標数値を達成する

B-2. 働きたいと思われる職場づくり、有休5日取得による収益減の対策として残業を減らす

達成目標：リハセンターの残業についてその内容の分析を行い、残業削減の方法を決定・周知し年平均20%の残業を削減する。

C-1. 再入院を減らすための取り組みとして、患者・家族教育のための機会を作る

達成目標：STと他関連部門（PT）で1回／月の患者・家族教育の機会を実施できるよう、方法を検討・決定し、下期にスタートする

C-2. 各部門1演題以上発表する（院内・院外）。

達成目標：発表に向けての計画・発表に取り組む

D-1. 最新情報カンファレンスを含み各部門月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する

達成目標：最新情報カンファレンスを含み月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する

D-2. 子育て中のスタッフも参加しやすいリハ内勉強会を開催する

達成目標：部門別勉強会の内3回／年を就業中に計画的に実施する方法を決定し・実行する。

【今年度を振り返って】

2019年度は、患者満足の視点として地域での連携を目指すために、地域リハビリテーション広域支援センターの役割である地域住民や行政へのリハビリテーション技術支援として2つの目標に取り組んだ。その一つが介護予防のための地域住民の通いの場へのPT・OT・STの派遣である。年度初めに始良市社会福祉協議会が開いたサロンリーダーの研修会に参加させていただいて当院の活動を説明した。その結果3カ所のサロンから依頼を受け定期的にスタッフを派遣し介護予防に資する活動を行った。健全経営の視点では、残業の削減に取り組んだ。20%の削減を目標とし、STが前年度から書類業務の整理他の業務改善に取り組み目標達成したが、その他は十分な削減に至らない、また残業時間が増加した部門があり、目標は達成できなかった。残業が増加した部門は小児リハビリの新しい業務のため書類作成が大幅に増加したことが原因の一つである。魅力ある職場づくりのためにも引き続

き業務改善に取り組みたい。人材育成として勉強会の開催を2～3回／月実施することを目標とした。2019年度は計画的な準備により達成できた。人財育成は、患者満足、地域からの信頼、継続可能なリハビリテーション運営に欠かせないものであるが、現在、猛威を振るっている新型コロナウイルス感染対策のため、職能団体の外部の勉強会をはじめ、院内の勉強会が全く実施できていない。しかしこのまま手をこまねていては新人の教育や継続したスキルアップは立ち行かない。できるだけ良い状態に、出来るだけ早く良くなりたいという患者様の希望を叶えるために人財育成は必須である。現在、Web会議やリモートワーク等が急速に私たちの生活に普通のこととして広まっている。新しIT技術を活用し、地域貢献や人材育成に取り組みたい。

総合リハビリテーションセンター 理学療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域ケア会議参加依頼に対応できるように準備して確実に派遣する
達成目標：PTOTST協議会「地域包括ケア推進リーダー」の資格取得者を増やす
- A-2. 地域リハ広域支援センターへの依頼に対応して適切な人材を派遣する
達成目標：PTOTST協議会「介護予防推進リーダー」の資格取得者を増やす
- B-1. 年平均18.5単位以上の訓練を提供する
達成目標：新人の単位算定を計画的に取得していくこととデータ分析してスタッフへの定期的な実績と目標を伝達し確実な算定に取り組む
- B-2. 回復期入院料1を維持していく
達成目標：実績指数37点以上を維持していく
- C-1. 家族勉強会の開催
達成目標：上期準備を行い、下期に毎月1回の家族勉強会を開催していく
- C-2. 院内および院外にて1演題以上の学会発表を行う
達成目標：演題発表の推進を行い、院内および院外で1演題以上の発表を行う。
- D-1. 最新情報カンファレンスを含み各部門月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する
達成目標：部門別や分野別の勉強会を計画し、月3回以上の学習の機会が持てるように実践する
- D-2. 臨床実習体制の見直しを行い、臨床実習教育者研修への参加を促していく
達成目標：臨床実習マニュアル改訂を行い、臨床実習教育者研修へ参加の計画、実施を進める

【今年度を振り返って】

地域リハ活動への依頼に対し、より専門性の高いスタッフの派遣に向けて「地域ケア会議推進リーダー」「介護予防推進リーダー」の資格取得者の増加を図ったが登録申請の不備等があり目標達成に至らなかった。直ぐに反省点を見出したことで、今回の原因把握ができており来年度中での資格取得を見込んでいる。その他の項目としては、今年度よりPT部門家族勉強会を開始した。まだ参加家族数は少ないが、継続的に実施していく事で参加人数の増加や勉強会自体の質の向上が得られると考える。また、臨床実習の改訂に伴い順次、研修会に参加し、臨床実習マニュアル改訂など実習に係る業務を改善している。今後も参加人数を増やし、臨床実習教育体制の構築を図りながら指導資格を有すスタッフの充足と質の高い教育施設の環境体制作りに注力していき今後も職員がよりよい環境で仕事が行えるように取り組んでいきたい。

総合リハビリテーションセンター 作業療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域ケア会議への参加
達成目標：専門職として適切な意見を述べる事が出来る人財を育て派遣する。
- A-2. 地域での活動に対する専門性向上
達成目標：地域リハ広域支援センターに対する依頼と法人が推進する地域活動の依頼に応える。
- B-1. 年平均18.5単位以上の訓練を提供する。
達成目標：平均18.5単位以上の取得あるいは各病棟の目標数値を達成する。
- B-2. 残業の削減

達成目標：個人・全体業務の見直しをはかり、残業削減の取り組みを行い、（前年比で）平均20%の残業を削減する。

C-1. OT部門の専門性を推進する取り組み

達成目標：OT部門が中心となる新規事業等を推進していく（小児リハ、川平法、自動車運転再開、腎臓リハ、腹膜透析者へのOT評価など）。

C-2. 学会・研究会・県士会発表

達成目標：1演題以上を発表する（院内・外）。

D-1. 勉強会の開催

達成目標：OT教育部を中心に年間計画を立案し月3回のペースで症例検討会を実施していく。

D-2. 臨床実習「指定規則改訂」への対応→臨床実習指導者資格の取得

達成目標：上期・下期で各2名、合計4名以上OT県士会「臨床実習指導者研修」へ参加し臨床実習指導者の資格を得る。

【今年度を振り返って】

地域共生社会へ向けて、ニーズの高い小児リハ（発達障害）に対する取り組みも徐々に軌道に乗り始めているが、今後も小児リハに関わる人材育成や環境整備が必要である。通常院内業務以外にも地域リハ活動への要請にも対応できる人材が増えてきている。今後も多職種と連携できる地域で活躍する作業療法士を育成していきたい。各職員の特徴を活かしながら、互いに協力して安心して生き活きと働く事が出来る職場をめざしたい。

総合リハビリテーションセンター 言語聴覚療法部門

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括支援センターの依頼において、ケースの内容に合わせた人選を行い、適切な指導のできる人材を派遣する。

達成目標：地域包括支援センターと十分に連携し、地域ケア個別会議へ推進リーダー研修受講者を含めた派遣システムを作り、適切な人材を派遣する。

A-2. 住民主体の通いの場づくりに協力する。

達成目標：一つ以上の地域において、住民主体の場での介護予防のための通いの場づくりを実施する。

B-1. 残業時間を削減する。

達成目標：残業時間を前年比20%削減させる。

B-2. 集団コミュニケーション療法料を算定する。

達成目標：集団コミュニケーション療法の算定数を増加する（前年比）。

C-1. 摂食嚥下リハビリテーションの質を向上させる。

達成目標：嚥下内視鏡検査の件数を20%増加させる。歯科を交えた嚥下評価の流れを確立する。

C-2. 家族勉強会の内容を充実させる。

達成目標：家族勉強会への参加者数を増加させる（前年対比）。

D-1. 小児リハビリテーションができる人材を育成する。

達成目標：新たにST2名がかずみ保育園で「ことばの教室」を開催する。

D-2. 学会発表・研究活動を推進する。

達成目標：3演題以上、学会発表をする。

【今年度を振り返って】

2019年4月、「働き方改革」が本格的に始動した。言語聴覚療法部門においては、言語聴覚士の昨年度の残業時間・内容を分析し、具体的な数値目標を掲げて残業時間の削減に取り組んだ。結果として、2018年度と比較して年平均39%残業時間を削減することができた。今後も残業時間の削減をさらに推進し、スタッフの満足度の向上につなげていく。

反省点としては、部門目標に対する部門内の理解が足りないこと、目標達成に向けた計画性に欠けていた点である。

リハビリテーションの基本的な業務は臨床業務である。管理者を除くほとんどのスタッフは、臨床業務以外のごく限られた時間をうまく使って、組織が掲げる目標達成に向けて取り組んでいかなければならない。スタッフから理解が得られ、かつ意義ある部門目標を立てて、チーム全体で達成に向けて取り組んでいきたい。

最後に、新型コロナウイルス感染症によって世界は大きく混乱し、全国の医療機関が切迫した状況にある。一方、対面・集団での活動に制約が生じたことを皮切りに、WEB会議やWEB研修、遠隔診療などの多様なテクノロジーを用いた方法が当たり前のように参入されつつある。業界全体がITの有用性・可能性を実感していることだろう。我々もITを有効に活用して業務全体の抜本的な改革を図り、「働き方改革」につなげていきたい。

総合リハビリテーションセンター 義肢装具部門

【今年度の取り組み】

A-1. 補装具定期メンテナンス

達成目標：現状のシステムの見直しと収集データの整理、解析を行う。

B-1. 現状の業務量の把握と解析。

達成目標：業務データ集積方法の改善。マニュアルの見直しと改定を行う。業務把握、改善のために必要なデータ収集方法を検討し適切な報告を行えるように基礎データ収集システムを作る。

C-1. 整形外科・小児リハへの対応

達成目標：外部講師を呼び勉強会の開催しPOへの技術・知識向上、POTへの最新知識の提供を行う。

C-2. 他部署等での勉強会の開催

達成目標：加治木温泉病院と総合リハビリテーションセンター以外での勉強会の開催を2回以上行う。

D-1. 勉強会の開催

達成目標：年間計画を立案し実施、他部門合同勉強会の開催を行う。

【今年度を振り返って】

2019年度の取り組みとして鹿児島地区、主に高田病院での業務強化を行い、鹿児島地区での業務数を増加することが出来た。鹿児島地区でも始良地区と同じ内容のサービスを提供していきたい。OT・PT部門の小児リハの開始に伴い、小児運動分野での補装具対応を開始したが対応できる人材育成が今後重要である。また対話支援システムcomoonを導入し運用を開始することができた。今後も、始良・鹿児島地区を始めとして地域で活躍できる人材の育成及び義肢装具士がいる病院として貢献できるよう、様々な事に取り組んでいきたい。

臨床心理室

【今年度の取り組み】

A-1. 医療の質向上

達成目標：小児リハビリ領域の知識向上

C-1. メンタルヘルス活動の充実

達成目標：ストレスチェック実施法の再検討（能動的な受験体制の構築）

D-1. 医療の質向上

達成目標：年間6回以上、室勉強会を開催する

【今年度を振り返って】

新規事業として取り組んでいる小児リハビリ領域での取り組みでは、安定的な介入が出来ている。取り組み2年目を迎え、特に就学前等にニーズが高い傾向が把握できたため、今後の業務改善に取り組んでいきたい。ストレスチェックは今年度で4回目の実施を迎え、職員全体の理解は得られているように感じる。今後はよりサポート体制を整え、充実した取り組みとなるよう検討していきたい。室勉強会も継続し、今後も、患者様・ご家族様へより良い支援を提供できるよう取り組んでいきたい。

栄養室

【今年度の取り組み】

- A-1. 食事満足度の向上
達成目標：下期の嗜好調査の「満足」を55%以上にする。
- B-1. 栄養指導件数の確保
達成目標：年間月平均65件以上栄養指導を実施する
- C-1. 栄養サポートチーム加算取得の継続
達成目標：年間の介入件数を280件以上にする。
- D-1. 院内研修会への参加率向上
達成目標：年間の参加率を40%以上にする

【今年度を振り返って】

今年度は嗜好調査の結果を基に献立内容の検討や、日々の食事ラウンドで患者様の要望に添った食事提供に努めることで、嗜好調査の「満足」は目標を上回る66.5%であった。今後も引き続き、早期のNST介入や栄養管理の充実に努め、患者様の栄養状態改善に取り組んでいきたい。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者満足度の向上
達成目標：通所リハ全般の満足度満足・非常に満足79%以上
- B-1. 診療報酬改定への対応・リハビリマネジメント加算Ⅲの算定
達成目標：リハマネ加算Ⅲ44.7%・消費税増税に対して、利用者や事業所への説明・同意が得られる。
- C-1. リスク管理の徹底
達成目標：インシデント件数0.67件/月以下
- D-1. 自己啓発の促進
達成目標：各職員1回院外研修参加

【今年度を振り返って】

- 入退院の繰り返しで利用しても、すぐに体調を崩され入院されるケースが多かった。
- 新型コロナウイルス感染予防対策にて、院内の移動が制限されたため、院内の歩行訓練やリハビリ室でのリハビリを希望される利用者が休まっている。
- 送迎時の事故は継続してアクシデントが発生した。
- 異動に伴い情報共有が図れず、送迎が遅れてしまうインシデントが2件発生した。
- コロナウイルス感染関連にて後半の院外研修が中止となり、研修参加率が上がらなかった。
- 活動量が増加するよう、集団訓練の立ち座り訓練や、自宅でできる訓練表の作成をスタッフ全体で取り組みを始めた。

薬局

【今年度の取り組み】

- A-1. ポリファーマシーへの取り組み
達成目標：カンファレンスや服薬指導などを通して処方の見直しを主治医に提案し、下期において20件の減薬を達成する。
- B-1. 薬剤納入価の見直し
達成目標：ジェネリック医薬品の売り上げ上位30品目について、メーカーの見直しを行い、更なる薬剤購入費の削減を図る。
- C-1. 新人の育成
達成目標：新人薬剤師は病棟カンファレンスなどの病棟業務を行えるようになる

C-2. 薬剤関連のマニュアルの全面的な見直し

達成目標：今年度改訂予定の薬機法に準じたマニュアルの見直しを行う

D-1. 常勤薬剤師全員が薬剤師生涯研修認定を更新する

達成目標：各種研修会へ通年参加し、薬剤師生涯研修認定を更新する

D-2. 薬局勉強会の実施

達成目標：薬局勉強会を月1～2回継続して行う。

【今年度を振り返って】

今年度は薬局全体の取り組みとしてポリファーマシーの改善に力を入れた。漫然と処方されている必要度の低い薬剤や、検査結果から過量となっている薬剤をカンファレンス等で処方提案を積極的に行い、134件の減量・減薬となり、年間あたり1,685,592円の薬剤費削減が見込める結果となった。当初目標は年間35件であったが、それを大きく上回ることができ、薬局スタッフの自信にもつながったため、今後も継続して行っていきたい。また、来年度はアルツハイマー治療薬などの比較的高額な薬剤において複数後発品が発売となるため、発売後速やかに切り替え患者負担および病院経営の面で貢献していきたいと考える。

放射線室

【今年度の取り組み】

A-1. 基本姿勢の徹底

達成目標：スタッフが増えたため基本姿勢の再確認を行う。マナ美隊ラウンドでの指摘0件、接遇研修率70%を目指す。

B-1. 環境整備

達成目標：器具の配置の見直し、毎日の清掃を徹底する。

D-1. 専門職の向上

達成目標：診療放射線技師法が改正されたので業務拡大講習の受講4名を目指す。

【今年度を振り返って】

人員が充実してきたため、環境整備や業務の再編を行うことができた。業務拡大講習を受講したことにより新たな業務にも取り組めるようになった。人員が充実した分、情報共有の問題や院内研修・院外研修参加など自己啓発への取り組みで差があるため、情報共有の徹底とスタッフ全員のスキルアップを図りたい。

検査室

【今年度の取り組み】

A-1. より安全、質の高い検査の提供

達成目標：内部精度管理及び外部精度管理ともに±2SD内の測定値を目標とする。

B-1. 新入職者の確保

達成目標：欠員補充の為、人員の補充を行う。

C-1. 院内・院外の研修充実

達成目標：年間に3～6回を目標とする。

D-1. 心エコー検査業務の向上

達成目標：検査技師2名による、心エコー・下肢エコー検査のルーチン業務習得。

【今年度を振り返って】

内部精度管理は日常のメンテナンスの実施と適切な試薬管理により、良好な結果維持に繋がった。外部精度管理では、2項目見直しが必要と感じた。

今年度は増員により検査業務にゆとりができ、心エコー・下肢静脈エコー検査の研修が行え、現在検査室2名がルーチン業務の習得に至った。

特定健診室

【今年度の取り組み】

A-1. 特定保健指導の実施

達成目標：職員健診で対象者を選定し、特定保健指導を途中終了することなく最後まで支援し評価する。

B-1. 健診の拡大

達成目標：職員健診で35歳以上は協会けんぽ生活習慣病予防健診を利用。胃部検査実施人数50名を目標。

B-2. 収入増

達成目標：収入を2018年度より5%アップする。

C-1. 航空身体検査の拡大

達成目標：件数を2018年度より5%アップする。

D-1. 知識の向上

達成目標：院内・院外研修会への積極的な参加と報告書の作成。

【今年度を振り返って】

昨年度末より管理栄養士／特定保健指導士が入職し、特定保健指導を計画・実施することが出来た。またスタッフ増員により、業務分担や作業の効率化を図ることが出来た。

また院内・院外・他部署への勉強会へ積極的に参加し、個々のスキルアップにも努めることが出来た。

2020年度も健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組んでいきたい。

歯科

【今年度の取り組み】

A-1. 入院から在宅までの歯科医療サービスを提供する。

達成目標：入院中に口腔内の改善に努め、歯科医療を提供する。退院後も口腔衛生、義歯管理が必要な患者様、ご家族に説明をし、切れ目のない歯科診療をしていく。訪問歯科診療の件数10件を目指す。

B-1. 患者様の増加

達成目標：介護医療院の口腔管理加算の取得の徹底 対象者全員に介入する。

C-1. 専門領域の知識習得

達成目標：口腔ケアに関する研修を受講し、病態に合った口腔ケアの知識、技術を習得し早期に介入出来るようにする。

D-1. 院内勉強会への参加率向上

達成目標：月1回必ず勉強会、研修会に参加する

【今年度を振り返って】

全体的に目標達成することが出来た。今年度はさらなる件数、点数増加に向けて訪問診療に力を入れた。今後の課題が見え、来年度も多職種連携を図り業務に取り組んでいきたい。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. 相談体制の充実

達成目標：人材育成に取り組み、スタッフの対応力を向上させ、年間を通じた満足度調査のやや不満、不満を7件以下とする。

B-1. 将来の病院機能を見据えた病床機能の再編、地域包括ケア病棟基準UPに努める

達成目標：地域包括ケア病棟の基準UP、介護医療院増床、地域一般病棟の立ち上げを行う病床機能を再編する。年間331.8床、稼働率94.8%の稼働を目指す。

C-1. 地域共生社会における機能分化、地域連携促進の体制づくりに努める

加治木温泉病院 部門別活動報告

達成目標：救急搬送患者受け入れに伴うトラブルを３件以下、後方支援連携先から年間３件以上の入院受入れ、後方支援連携先１件以上の新規獲得を目指す。

C-2. 在宅サービス事業部との連携強化

達成目標：退院カンファ実施率前年比１０％増、介護保険対象者の法人内サービスへの紹介３３％を目指す。

D-1. スタッフのスキルアップ

達成目標：偶数月の勉強会、奇数月の事例検討会を開催し、全員が伝達講習または事例報告１回以上実施する。

【今年度を振り返って】

２０１９年度は前年比で入院（＋１８７件）、退院（＋２１７件）の増加を認めたが、平均在院日数の短縮、長期入院患者の減少等により稼働率は目標を大きく下回った。そのような中、病院移転に向けた病床機能の再編は工程表通りに進み、地域包括ケア病棟の基準ＵＰ、地域一般病棟開設、介護医療院の増床が実行できた。今後は基準を上げた病床機能を生かし効果的に運用するため、医局や各部署の協力をいただきながら稼働率向上に向けた取り組みを強化していきたい。また診療報酬改定の影響や社会背景に応じた連携先機関の環境変化について情報を収集し、地域のニーズに応じたサービスが提供できるよう、院内へフィードバックを行っていきたい。

事務部門 医事係

【今年度の取り組み】

A-1. インシデント・アクシデントに関する意識の向上及び改善

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比＋１０％

B-1. 病棟再編計画に対応する

達成目標：８月３階西の分棟、１２月３階西を医療療養から地域一般３へ転換

C-2. 減点率の削減

達成目標：減点率０．１６％、減点率０．１４％

D-1. 院内研修へ積極的に参加する

達成目標：院内研修の参加率５０％以上

【今年度を振り返って】

インシデント・アクシデントレポートの提出は前年比＋６件と伸びた。病棟再編も計画通り進めることができた。減点率は一般病棟開設で減点が増加したことが原因。院内研修の参加は職員で開きがあるので、声掛けを行い意識を高めたい。

事務部門 クラーク係

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上、改善

目標達成：接遇のクラーク勉強会を行う。

B-1. 病院機能への理解、変更、強化、維持への貢献

目標達成：診察補助業務が必要な医師の外来診察補助業務を行うことができる。

C-1. インシデント・アクシデント報告の徹底

目標達成：インシデント・アクシデント報告書提出昨年比＋１５％

D-1. 院外研修に参加し自己研鑽に努める。

目標達成：院外研修上期下期１回ずつ参加する。

【今年度を振り返って】

病棟業務や外来診察補助業務、訪問診療の書類作成、電子カルテ代行入力等それぞれの担当医師やスタッフと連携

を図り、業務を行うことができた。

今後も医師の働きやすい環境づくりを目標に、頑張っていきたいと思う。

事務部門 総務係

【今年度の取り組み】

A-1. インシデント・アクシデントに関する意識の向上及び改善

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比+60%

B-1. 院内の環境整備に努める

達成目標：週3回ラウンドを行い、掲示物の管理及び整備に努める

C-1 残業時間の削減

達成目標：上期 14H・下期 10H

D-1. 業務改善の見直し

達成目標：部署マニュアル整備

【今年度を振り返って】

日本医療機能評価機構の期中の確認を、他部署の協力を得てB項目全てA項目へ改善し提出した。院内ラウンドは定期的に管理し環境整備を行えた。今年度は人事業務を遂行することになり、部署内外とコミュニケーションを図りながら対応した。しかし各々認識の差がみられるため、自己研鑽に努めスキルアップを図り、部署内外との情報共有に努めていきたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A-1. 保育内容の充実

達成目標：朝の集まりの時間に週2回以上音楽活動を取り入れる。

A-2. 保育環境の整備

達成目標：保育環境の安全点検チェックリストを作成し、月1回以上点検を行う。

B-1. 残業時間の削減

達成目標：残業時間を月平均10時間以下にする。

C-1. 保育指導計画の作成

達成目標：年齢別の年間指導計画・月案を作成する。

D-1. 院外研修会への参加率の向上

達成目標：院外研修会にひとり2回以上参加し、研修内容の共有化を行う。

【今年度を振り返って】

2019年2月の玉昌寮への移転により、保育室が増えて年齢別保育が可能となり、それぞれの年齢や発達・発育に合わせた様々な遊びを提供することができました。今後も子どもの成長を促す保育内容の充実を図り、保育の質の向上に努めたいと思います。

加治木温泉病院 各種委員会

2019 年度 委員会・会議 一覧

委員会名		開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	毎第4金曜	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	診療情報提供委員会	カルテ開示要求時	診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	薬事委員会	2ヶ月に1回	薬物療法の合理的発展を図る
	栄養管理委員会	第3木曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・議題を把握し、改善策を検討・実施する
	NST委員会	第2火曜	症例個々に適切な栄養管理を検討・実施していくことを目的とする
	輸血療法委員会	2ヶ月に1回	院内における輸血に際し、安全かつ適正な輸血療法が出来るよう輸血療法に関する事項について審議する
	臨床検査適正化委員会	2ヶ月に1回	臨床検査の精度管理などに関して必要な事項を協議する
	コーディング委員会	年2回	標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする
	口腔機能向上委員会	第3水曜	口腔に関する現状を討議することで知識・実技の向上を図ることを目的とする
	回復期病棟運営会議	第3月曜	回復期リハ病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	FIM会議	第1・3木曜	回復期リハ病棟入院患者のADL(FIM得点)の改善に基づいて予後を予測し、適正な在院日数を検討することを目的とする
	地域包括ケア病棟運営会議	第3月曜	地域包括ケア病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	リハビリミーティング	第3月曜	リハ部門の円滑な連携・連絡を図る
	ベッドコントロール会議	毎週火・金	入院希望のある患者様について入院の可否について検討を行い、また入院後もスムーズな支援へとつなげるために他職種にて情報共有を図ること
	透析運営会議	第4月曜	透析の円滑な運営および業務の適切な管理を図る
教育関係	手術室運営委員会	第4金曜	手術室の安全管理、感染防止、機械・備品の整備等について協議し、効率的な運営を図る
	倫理委員会	年2回	倫理上問題のある症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者様中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	倫理検討会	第4月曜	各部署からの倫理問題を、他職種で検討し問題共有を行っている
	サービス向上委員会	第4月曜	患者様・ご家族より寄せられたご意見・苦情・提案に関して病院として真摯に取り組み、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	3ヶ月に1回	患者様や職員等に関する個人情報を適切に取り扱い、患者様から信頼されることを目的とする
	教育委員会	第2月曜	職員の知識、技術の向上を目的とする
	看護部教育委員会	第1木曜	看護職、介護職の知識・技術の向上と協同を目的とする
	看護部教育委員会(Ns)	第3木曜	知識・技術の向上、主体性と自主性のある看護職の育成
	看護部教育委員会(CW)	第1木曜	介護職の知識・技術の向上を目的とする
	情報管理委員会	第3水曜	院内における情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	機能評価委員会	第3木曜	機能評価機構の認定及びその更新を目的とする
	図書委員会	3ヵ月に1回	院内図書の円滑な購入および管理
	マナ美隊(接遇)	第2火曜	職員の身だしなみチェックを行い接遇の向上に努める

医療安全対策関係	医療安全管理委員会	第2金曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	リスクマネジメント部会	第1月曜	医療安全管理対策を実効あるものとするを目的とする
	褥瘡対策委員会	第3火曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止委員会	第4木曜	身体抑制防止や、身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図り、身体抑制廃止に取り組む事を目的とする
	医療ガス安全管理委員会	年1回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	透析機器安全管理委員会	年1回	人工腎臓が安全円滑に行え、安心した透析を提供することを目的とする
	労働安全衛生委員会	第4木曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	防災・防火管理委員会	年1回以上	病院および職員寮における患者・職員等の生命・財産の安全確保を目的とする
	院内感染対策委員会	第3月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	I C T (感染対策小) 委員会	第1月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	ストレスチェック実施委員会	随時	メンタルヘルス対策の取り組みの充実・向上と円滑な対応を図れるよう検討をする
	看護部リスクマネジメント委員会	第3水曜	看護部のリスクマネージャーによる院内ラウンドやグループワークを通して安全活動を推進する
	看護部記録委員会	第2・4木曜	看護記録について勉強会や監査を行い記録の充実を図る
	マニュアル委員会	第4金曜	看護介護に関するマニュアルの見直し
その他	編集委員会	広報誌発行前後	年4回発行の広報誌「すこやか加温」発行に対し、内容を検討する
	美化委員会	第3水曜	病院内外の美化に努める
	未収金会議	第4火曜	病院の未収金状況を把握し、回収についての検討を行う
	親和会	年3回程度	会員相互の親睦を図る
	エコアクション委員会	2ヶ月に1回	エコアクション 21 認定及びその更新を目的とする

2019 年度 始良高齢者保健福祉圏域
地域リハビリテーション広域支援センター活動

加治木温泉病院は 2002 年に鹿児島県より始良高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センターとして指定されております。始良市・伊佐地域でのリハビリテーション技術支援、研修会の開催、地域住民の方の相談対応、地域包括ケアシステム構築のための協力活動を行っております。令和元年度は、高齢者の介護予防事業や地域ケア個別会議への協力、介護支援専門員や介護職員などのリハビリテーション関連職への技術支援だけでなく、子ども・子育てを対象とする活動を実施した。各機関のご協力の下、延べ 180 名のスタッフを派遣し幅広い活動ができました。ありがとうございました。次に今年度の活動内容をご紹介します。

表 1 地域住民およびリハビリテーション従事者を対象とした研修会等

年月日	対象（人数）	テーマ	講師
R1. 5. 20	サ高住ケアレジデンスおはな職員（28）	嚥下障害・誤嚥性肺炎の概要・代償手段・介助方法	ST1 名
R1. 7～ 全 5 回	始良市加治木町萩原地区住民（延 34）	腰痛、認知症、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症について講話、ロコトレ、体力測定	PT 延 3 名 OT1 名
R1. 6～ 全 19 回	始良市ふれあいいきいきサロン講師派遣 3 カ所（186）	体力測定、講話（健康体操・手帳の紹介、転倒予防、介護保険、嚥下障害、認知症）、体操・認知機能訓練	PT 延 19 名 OT 延 19 名 ST 延 20 名
R1. 8. 22	サ高住ヴィラ福洋職員（15）	嚥下障害の概要・誤嚥性肺炎・介助方法	ST1 名
R1. 9. 19	NP0 法人サポートロコペリ職員・保護者（15）	「子どもを取り巻く環境について」（医療の立場から）	ST1 名
R1. 9. 24	サ高住ケアレジデンスおはな（28）	義肢、装具の目的や種類、装着方法・メンテナンス	義肢装具士 1 名
R1. 11. 21	サ高住ヴィラ福洋職員（15）	「ノーリフティングの意義と実際」	OT1 名
R2. 2. 29	一般住民、関連職	「発達障がいのある人のライフステージを支えるしくみ」	コロナウィルス対策により延期

表 2 退院後自立支援サービス※

期間	場所	人数	対象
H31. 4～R2. 2. 現在	始良市、霧島市、湧水町、鹿児島市	10 名	当院内外の自宅退院者

※リハ専門職が退院後、自宅を訪問し身体機能、ADL を評価し、指導・相談対応を行い、ケアマネ・かかりつけ医へ情報提供するサービス

表 3 市町等・リハ関連施設への技術支援

期間	内容	職種
H31. 4. 4～全 12 回	霧島市児童発達支援事業所発達支援事業	ST 延 24 名
H31. 4. 12 全 12 回	霧島市発達支援教室	OT 延 12 名
H31. 4. 16～全 12 回	始良市母子健康相談	PT 延 12 名
R1. 5. 29～全 11 回	始良市発達支援教室	OT 延 12 名
R1. 6. 11	伊佐市在宅医療・介護連携における多職種研修会 「地域包括ケアシステムにおける地域リハビリテーション」	ST1 名
R1. 6. 18～全 9 回	始良市地域ケア個別会議	PT9 名、OT9 名 ST9 名、歯科衛生士 2 名
R1. 6. 27	始良地区民生児童委員・民児協障がい者支援部会 「認知症について」	OT1 名
R1. 7. 18	始良市ふれあいいきいきサロン代表者会出前講座紹介	PT1 名
R1. 8. 9	始良市（始良地区民生委員）認知症サポーター養成講座 講師	OT2 名
R1. 11. 14	湧水町介護支援専門員研修会 「高齢者のコミュニケーションの困難さを理解する」	ST1 名
R1. 2. 9	霧島市健康福祉まつり	PT2 名、OT2 名、ST1 名
R2. 2. 13	湧水町介護支援専門員研修会 「ストレスマネジメントについて」	CP1 名
R2. 2. 19～全 5 回 (内 2 回中止)	湧水町一般介護予防事業 「口腔・嚥下機能、誤嚥性肺炎の予防、他」	ST3 名

加治木温泉病院 学術活動 院内研修

■全職員向け

2019 年度

開催月日	研修内容	講師	参加人数		研修分類
			病院	在宅	
4 月 25 日	医療安全	フクダ電子株式会社（2 名）	327	0	医療安全
5 月 9 日 （ビデオ）			75.3%	0.0%	
5 月 30 日	MRI について	放射線室 診療放射線技師 佃	127	0	
6 月 6 日 （ビデオ）			29.7%	0.00%	
6 月 14 日	感染対策	チーム医療推進部 中村次長	323	2	医療安全
6 月 21 日			81.6%	2.10%	
6 月 20 日	院内暴力	全国警備保障	109	3	禁煙対策
6 月 27 日 （ビデオ）			26.9%	3.10%	
7 月 9 日	医療倫理について	学研ナーシング	83	5	医療倫理
7 月 19 日 （学研）			19.2%	5.2%	
7 月 25 日	褥瘡について	学研ナーシング	88	3	褥瘡対策
7 月 30 日 （学研）			18.0%	3.1%	
8 月 22 日	禁煙対策	ファイザー株式会社 清水 一志氏	77	4	労働安全
8 月 24 日 （学研）			18.6%	3.9%	
9 月 19 日	救急救命研修	加治木温泉病院 堤師長 他 5 名	92	3	救急救命
9 月 24 日 （2 回目）			21.2%	2.9%	
9 月 25 日	身体抑制	介護医療院 3 西棟 原口主任	97	0	身体拘束
10 月 1 日 （ビデオ）			22.2%	0.0%	
10 月 4 日	生活習慣病	学研ナーシング	56	0	
10 月 18 日 （2 回目）			45.1%	0.0%	
11 月 26 日	医療安全 針刺し事故	ニプロ株式会社 藤田 淳氏	99	7	医療安全
12 月 3 日 （ビデオ）			23.3%	6.5%	
11 月 28 日	医療安全	外来 池田師長	294	0	医療安全
12 月 11 日 （ビデオ）			64.5%	0.0%	

1月24日	接遇	学研ナーシング	250	0	接遇
1月30日 (ビデオ)			57.8%	0.0%	
			9.9%	2.1%	
2月4日	感染対策研修会	松本航先生	272	3	感染対策
2月14日 (ビデオ)			83.4%	2.8%	
2月6日	医療ガス	鹿児島酸素株式会社	85	13	医療安全
2月18日 (ビデオ)			19.8%	11.9%	
2月20日	患者の権利	学研ナーシング	30	0	患者の権利
			6.9%	0.0%	

■症例報告・最新情報カンファレンス

加治木温泉病院の症例カンファレンスは、治す医療から治し支える医療への医療の概念の変化に伴い、激変する医療・介護・福祉情勢を考慮し、会に参加する医療従事者並びに事務系の職員、多くのステークホルダーの方々が医療・介護・福祉・社会制度・社会的知識等の理解と見識を相互に深めることを目的とし、発表者が経験した症例や考察、専門知識等の発表並びに発表者が興味を持つ医療・介護以外の領域の発表も行っております。

開催月日	研修内容	講師
4月22日	夜間頻尿について	有馬（純） 医師
5月27日	大腸ポリープについて	児島 医師
6月24日	P I C Cについて	伊藤 医師
7月29日	運動の効用について	野村 医師
8月26日	アメリカにおける歴史と現状から我が国の未来を予測する	松本（秀） 医師
9月30日	院内転倒について	田島医師
10月28日	口腔機能低下症	歯科 伊東医師
12月23日	GWA S誰でも分かる遺伝子多型	有馬診療部長
2月17日	短腸症候群	堀ノ内 医師

部署別研修会開催一覧

研修日	研修内容	講師	参加者数
4 月	看護職としての社会基礎力	学研ナーシング	29 名
5 月	排泄のお世話～排尿・排便のお世話、オムツ交換～	学研ナーシング	54 名
5 月	介護研究について	法人事務局 板川次長	22 名
5 月	腰痛予防	加治木温泉病院 鮫島主任	18 名
6 月	院内発表につなげる気づき	学研ナーシング	85 名
6 月	移動のお世話 ～歩行・車椅子・ストレッチャー・スライディングボード～	学研ナーシング	48 名
7 月	より良い看護ケアのためのケーススタディ	学研ナーシング	57 名
8 月	臨床期の看護と看取り	学研ナーシング	65 名
8 月	感染予防～手洗い・標準予防～	学研ナーシング	52 名
9 月	患者の暮らしを支える糖尿病・透析の基本	学研ナーシング	75 名
9 月	接遇・マナーの基本～患者家族のかかわり方～	学研ナーシング	56 名
10 月	外来看護で実践できるフットケア	学研ナーシング	64 名
10 月	守秘義務・個人情報保護の基礎知識	学研ナーシング	63 名
10 月	認知症サポーター養成講座		23 名
11 月	ウチの病院ならこれでOK 効率的に看護記録を書くコツ	学研ナーシング	41 名
11 月	労働安全衛生の基本知識	学研ナーシング	63 名
12 月	褥瘡のサインを見逃すな	学研ナーシング	31 名
12 月	食事のお世話～食事援助、介助の基本～	学研ナーシング	63 名
1 月	患者にとって安全・安楽な排痰・吸引とは	学研ナーシング	53 名
2 月	医療安全 ～事故防止の基本的な心構え、事故発生時の対応～	学研ナーシング	81 名
3 月	新人＆後輩看護師の学びを助ける コミュニケーションの極意	学研ナーシング	41 名

第 8 回 コメデイカル研究発表会

開催日 2019 年 12 月 26 日（木）

会 場 加治木温泉病院 1 階食堂談話室

演題名	演者
嚥下食・嚥下移行食の基準」の有用性の検討	栄養室 吉村
口腔保湿剤の効果について	歯科 西川
当院 C T 装置の位置決め画像撮影時における被ばくの最適化	放射線室 磯邊
適切な薬物治療のためのポリファーマシー改善に向けた取り組み	薬局 大岩
注意障害と半側空間無視が非麻痺側上肢機能へ与える影響について	総合リハビリセンター 小川
地域包括ケアシステムを基盤とした地域共生社会をつくるための 医療機能を中核とした未来都市モデル構想 ～ 30 年後の未来に向けた健 “幸” なまちづくりへの取り組み～	チーム医療推進部 中村

第 18 回 看護研究発表会

開催日 2019 年 12 月 12 日（木）

会 場 加治木温泉病院 1 階食堂談話室

演題名	演者
入所者の役割獲得による変化	介護医療院 安田
災害に対するスタッフ間の意識統一を目指して	腎センター 川原
トランスファーカードを使用した移乗方法の実施	3 階南病棟 野本
チーム力で高める、5 S 活動に取り組んで	2 階西病棟 東
身体拘束をしない看護を目指して	2 階南病棟 清田
スライディングシートの職員への意識調査 ～使用率向上を目指して～	3 階西病棟 木村
腹膜透析患者へシャボンラッピングを試みて	2 階東病棟 小村
アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する意識調査	外来 久保田

第 23 回 始良地区研究発表会

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、3 月に予定しておりました院内研究発表会開催を延期しております。

加治木温泉病院 実習受入れ

看護部

月 日	学校名	参加人員
9月24日～10月11日	龍桜高校 基礎課程 3年生（成人実習）	18名
11月5日～12月6日	龍桜高校 基礎課程 2年生（基礎看護）	25名
7月1日～7月19日	龍桜高校 専門課程 2年生（統合実習）	12名
8月26日～9月12日	龍桜高校 専門課程 2年生（統合実習）	8名
10月15日～10月31日	龍桜高校 専門課程 2年生（統合実習）	10名
5月7日～5月23日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
5月27日～6月13日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
7月1日～7月19日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	8名
7月22日～8月8日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
8月26日～9月12日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
9月24日～10月10日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
10月15日～10月31日	龍桜高校 専門課程 2年生（在宅看護論実習）	9名
10月31日	鹿児島市医師会病院 セカンドレベル（見学実習）	1名
	計	136名

リハビリテーション室

月 日	学校名	参加人員
5月13日～7月5日	鹿児島医療技術専門学校 P T	1名
5月13日～7月6日	鹿児島医療福祉専門学校 P T	1名
7月8日～7月13日	鹿児島医療福祉専門学校 P T	1名
11月25日～12月13日	鹿児島医療福祉専門学校 P T	1名
7月15日～9月21日	第一リハビリ専門学校 P T	1名
11月18日～12月14日	神村学園専修学校 P T	1名
11月11日～11月28日	九州栄養福祉大学 P T	1名
7月16日～9月6日	鹿児島大学 P T	1名
7月29日～9月20日	鹿児島医療技術専門学校 O T	1名
8月24日～10月5日	第一リハビリ専門学校 O T	1名
5月7日～6月15日	鹿児島大学 O T	1名
5月20日～7月12日	鹿児島医療技術専門学校 S T	1名
10月7日～11月2日	県立広島大学 S T	1名
7月1日～8月10日	国際医療福祉大学 S T	1名
9月30日～10月26日	九州保健福祉大学 S T	1名
	計	15名

放射線室

月 日	学校名	参加人員
9月2日～9月27日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科 4年生	1名

医事

月 日	学校名	参加人員
5月13日～6月7日	鹿児島キャリアデザイン専門学校 医療情報管理学科 3年生	2名